

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
青崎 智行	あおさき ともゆき	白鷗大学経営学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆国際交流基金アドバイザー業務委嘱(2016年度)</li> <li>◆小山市・那須塩原市広域連携プロモーション事業戦略策定会議座長(2016年度)</li> <li>◆栃木県とちぎブランド力向上会議専門部会 専門部会長(2016年度～)</li> <li>◆栃木県とちぎブランド力向上会議委員(2017年度～)</li> <li>◆栃木県「いちご王国」ワークショップ ファシリテーター(2017年度)</li> </ul>
安形 真	あがた まこと	一般社団法人リズカール	<p>◇ローカルベンチャー誘致・育成事業@愛媛県西条市 13人の起業型地域おこし協力隊を採用し、3年後に売上1億円を目指すローカルベンチャー事業の統括。会計、税務、労務などのバックオフィスのサポートや、地方で活きるマーケティングや経営戦略の指導、ネットワーク作り支援、コワーキングスペースの整備・運用など起業家が活動しやすい環境を創出。他にも専門家と協働して個別のメンタルカウンセリングや各種セミナーを企画、運用。</p> <p>◇三河の山里なりわい実践者事業@愛知県 毎年約10名の起業家及び新規事業に挑戦する事業者にメンターとして関わる。</p>
秋元 祥治	あきもと しょうじ	岡崎ビジネスサポートセンター OKa-Biz/NPO法人G-net	<p>▼OKa-Biz OKa-Bizは岡崎市・岡崎商工会議所が設置した「売上アップに特化」した中小企業支援センターです。富士市産業支援センター・f-Bizをモデルに全国最年少センター長として、成果続出から相談は1ヶ月半待ちに。開設5年で累計1万件を超える来訪相談、約190件の視察受け入れ、首相官邸での表彰や中企庁長官も来訪。OKa-Bizがf-Bizをモデルとした他地域展開のモデルになったことで、各地で新たな産業支援センターが続々と立ち上がり、現在21か所に上る。既に導入を決め開設準備を進めている自治体も複数あり、今後もf-Bizをモデルとした産業支援施設の展開は加速されることが予想される。</p> <p>▼G-net NPO法人G-netは、岐阜を拠点に15年前より、中小企業の社長の右腕として熟意ある若者を半年間右腕として送り込む実践型インターンシップや、「みぎうで」就職支援を行う。高校「政治経済」の教科書にも掲載あり。年間で1万人を超える若者に地域の中小企業の魅力を伝え、約100名が半年間等の実践型インターンシップに参画している。「若者が選ぶ魅力的な中小企業100選」といった冊子刊行を含め、中小企業への「みぎうで」候補としての就職支援も展開。</p>
浅尾 均	あさお ひとし	有限会社 浅尾計画事務所	<p>全国各地における地域振興・観光振興・交流人口の増加などの取り組みについての課題、問題点、疑問に対するの解決策や、それを導き出すためのアイデアの提示、あるいは解決策を導き出すためのアドバイス、ワークショップの支援、コンサルティング、プランニングなどを仕事としています。</p> <p>現在は、「インバウンド」、「新たな広域連携」、「人材育成」、「ニューツーリズム」などをテーマに、各地にて実践的な事業に関わっています。</p>
朝比奈 一郎	あさひな いちろう	青山社中株式会社	<p>上記の通り、現在7つの自治体においてアドバイザーを務めており、自治体における若手リーダーの育成や、産業・観光などに関する政策提言、インバウンド・アウトバウンドを含む自治体外交の推進などを支援。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材育成: リーダー(始動者)の育成…自治体における起業家育成塾、リーダー塾の開催・運営、等             <ul style="list-style-type: none"> <li>例)群馬県沼田市における起業家養成塾「ぬまた起業塾」の創設・運営                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 平成27年に創設され、毎年10名前後を対象に、全13日に渡るプログラム</li> <li>例)奈良県生駒市における行政の選抜職員向け政策立案研修の実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 選抜された職員へ政策形成手法などの導入研修を実施、その後各自の政策立案をサポート、報告会を実施</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2. 地域・自治体: 基礎自治体における経済活性化・地方の自立支援…産業活性化や観光業の高付加価値化に向けた政策提言、駅前・中心市街地開発、住民自走によるまちづくりに向けた参加型ワークショップ、等             <ul style="list-style-type: none"> <li>例)三条市における課題分析から各種施策の提案・実行                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 市の現状を客観的に分析、その結果を踏まえて施策を提言。実現されたものには、燕三条 工場の祭典、障がい者の就労支援施設の開所、滞在型職業訓練施設「ただ塾」の創設など</li> <li>- 軽井沢の特徴・歴史・これまでの経緯を重視し、他に例のない住民主体のワークショップの運営</li> </ul> </li> <li>3. グローバル展開: 自治体外交や地域の産品の海外展開などによる日本の発信…アウトバウンド・インバウンド戦略の策定と実行・コラボレーション(日中リーダー会議)、等             <ul style="list-style-type: none"> <li>例)新潟県三条市における海外販路開拓を目指した各種支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- ベトナムホーチミンでの市場調査、ホーチミン・成都での販路構築実施、等</li> <li>例)群馬県沼田市における成都市への販路開拓                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 成都における市場調査や有力小売企業・政府有力者との関係構築、販路開拓に向けた計画策定の実施、等</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul></li></ul></li></ol>
朝廣 佳子	あさひろ よしこ	株式会社読売奈良ライフ	<p>奈良の新しい観光資源の創出に邁進し、なら燈花会、平城遷都祭、平城京天平祭などを立ち上げてきた。また、市民が創るまちづくりに主軸とし、ボランティアでイベントを行っている。</p>
東 朋治	あづま ともはる	株式会社商業タウンマネジメント	<p>阪神大震災で壊滅的な被害を被った神戸・新長田地区において、タウンマネージャーとして11年間商店街の復旧復興事業に取り組んできました。再開発エリアの商業ビルの管理運営やテナントリーシング、商店街および商業ビル活性化イベント、地域活性化を牽引するまちづくり会社(㈱神戸ながたTMO)の運営等を担ってきました。現在は(株)協働研究所に移り、商店街や中心市街地の活性化ビジョン策定、事業者リーダーの育成事業に加え、タウンマネージャーの育成や東日本大震災被災商業地域(岩手県宮古 市中心市街地・岩手県釜石市鶴住居地区)の復旧復興事業に取り組んでいます。また、日頃からの備えとしてワークショップ等を通じて地域の安全・安心マップ作成にも各所で行っています。直近では空き店舗対策や事業承継にも力を注いでいます。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
阿部 佳	あべ けい	明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部/明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム総合研究所/K plus	<p>教育の研究機関で10年、その後27年間、インターナショナルホテルのコンシェルジュとしてホテルのロビーで国内外からのお客様のお手伝いをする仕事をしてきました。現在は、ホスピタリティのプロを増やすべく、その経験から得た情報、スキル、姿勢、考え方を、大学生のみならず、関連業界のこれからを担う人たちに伝えるとともに、より多くの人に日本各地足を運んでもらうべく、地域が特色にあった方法でお客様を迎えられるよう、人材育成を含め、それぞれ受け入れを整える手伝いをしています。</p> <p>ここ数年は、各地域での講演、研修のほか、経済産業省関東経済局「ホテルコンシェルジュによる地域の魅力発見事業」、観光庁「産学連携による観光産業の中核人材育成事業」など、地域の来訪者受け入れ体制づくりの助言、支援をしてきました。</p> <p>一方で、地域活性化を目指す方たちとのネットワーク、および直接現地視察を通して得た生きた情報をコンシェルジュのネットワークに共有し、インバウンドを含む多くの来訪者に向けて広く発信する役割にも力を入れています。</p>
安部 敏樹	あべ としき	一般社団法人リディラバ/株式会社Ridilover	<p>■社会課題・地域課題をテーマとしたスタディツアーを企画しあらたな市場を開拓。</p> <p>■被災地での教育旅行をした復興支援(例:釜石での被災後初の100人規模での教育旅行など)。</p> <p>■安倍首相が座長を務める観光立国推進会議での「アクションプログラム2015」として政策化。</p> <p>(11)国民の旅行振興に向けた意識醸成・環境整備”の項目において「若者に旅の意義や素晴らしさを伝える「若旅★授業」を地方で拡大するとともに、若者の関心が高い、エネルギーや地域医療など様々な社会テーマを扱ったツアー商品の造成を推進し、より多くの若者が旅に出るきっかけを創出する。【新規】という形で記載。</p> <p>■観光から移住定住・産業振興・事業承継・MICE誘致を一貫して実現(例えば林業のツアーを通して5人の事業承継・移住の実現など。これまで20人以上がツアーを通しての移住や2拠点居住を実現したと思われる)。</p> <p>■600人以上のボランティアマネジメントを通しての課題の洗い出し。</p> <p>■社会起業家の経営者向けカンファレンスR-SICを300人規模で3年連続開催。京都・つくばなどの地域開発に寄与。</p> <p>■東大の講義にて200人の学生に対し、ソーシャルビジネスのためのチームビルディングなど講義から30以上のプロジェクトを創出。講義をまとめた著作『いつかりターになる君たちへ』(日経BP)がAmazonで部門別1位を達成。</p> <p>■被災地の医療現場における鍼灸師などを含めた新たな医療チーム体制の構築と実施。</p> <p>■R-SICにおけるソーシャルビジネスのプログラム"CrossPoint"、観光庁研修、青森県研修、スタディツアーなどを通して100地域150社以上のインキュベーション支援。</p> <p>■述べ20校以上の教育旅行の実施。</p> <p>■スタディツアーなどの事業を通して扱うテーマは「農・林・水産業」「環境」「医療・介護・福祉」「貧困」「地域活性化」「公共事業」など200弱。</p> <p>■東証一部上場企業なども含め企業の幹部研修や人事研修としての地域課題・社会課題の現場での研修事例も10以上</p> <p>■アカデミックなアクティブラーニング、ファンリレーションの講義などを東京大学などの大学教員から各地の教育委員会や校長向けに実施</p> <p>【リディラバの事業に関連するURL】</p> <p>[Travel The Problem:スタディツアー専門の旅行サービス]</p> <p><a href="https://traveltheproblem.com/">https://traveltheproblem.com/</a></p> <p>[TRAPRO:社会問題の百科事典]</p> <p><a href="http://www.trapro.jp/">http://www.trapro.jp/</a></p> <p>[TRAPRO移住口コミ:地域の気になる口コミが集まるサイト]</p> <p><a href="https://ju.trapro.jp/">https://ju.trapro.jp/</a></p> <p>[“社会起業”の最先端を知る]招待制カンファレンス:R-SIC(アール・シック)]</p> <p><a href="http://ridilover.jp/R-SIC/">http://ridilover.jp/R-SIC/</a></p> <p>[リディラバ(HP)]</p> <p><a href="http://ridilover.jp/">http://ridilover.jp/</a></p>
天野 礼子	あまの れいこ	NPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」	<p>H23年より、島根県西部の高津川流域の三市町、益田市、津和野町、吉賀町に「総合特区」への立候補を推め、当選。「アドバイザー」を務めた。事務局長を務めるNPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」では養老委員長と共に、高津川流域に「2地域居住から定住へ」を進めてきている。</p>
雨宮 洋司	あめみや ようじ	みなとガイド塾	<p>①富山新港を中心に付近の歴史あるみなとまちの現状と歴史の絵地図をそこに居住する市民とともに学んで、作成をし、散策、地域おこし、郷土学習等に役立てる取り組みをしている。</p> <p>②”みなとガイド塾”を立ち上げて、それらの絵地図を教材にして学ぶとともに、港背後地の企業・団体の訪問、北前船時代のみなとまちを歩いて歴史の痕跡を探しながら現状を知る、等を通して、この地への訪問者や家族などに説明(ガイド)出来るような学生・市民を育てる活動をしている。これはこれからの日本海側の新しいみなとまちづくりを考える契機にする配慮をされており、NPO法人水辺のまち新湊と組んで実施して継続性を意識している。</p>
荒井 一洋	あらい かずひろ	NPO法人大雪山自然学校	<p>【現場の実践活動】自然体験活動の専門性を他分野に応用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験×観光×エコツーリズム:英語で少人数・長期滞在型のエコツアーを実施。旅行者の満足度を高め、地域への経済的効果高め、ガイドや住人が続けられる観光に取り組んでいる。</li> <li>・自然体験×幼児教育=森のようちえん:企業主導型保育事業を活用し定員12名の保育園を運営している。体験型幼児教育の手法を実践を通して蓄積している。</li> <li>・自然体験×発達障害=ホースセラピー:ドサンコを活用したセラピー事業に取り組み始めた。現在試行錯誤中。</li> <li>・自然体験×環境保全=利用者による公園管理:東川町大雪山国立公園保護協会からの委託事業として国立公園管理の一部を実施している。心理学・人間行動学をベースに、利用者が環境保全する仕組みを構築中。</li> <li>・人材育成=日常的にプログラムが実施されている現場に合わせて、インターンシップやボランティア事業を実施しており年間延べ300人程度が参加している。</li> </ul> <p>【持続可能な観光の普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な観光の国際基準GSTC公認トレーナーとして、サステナブルツーリズムの研修や国際認定取得に向けた伴走支援に取り組んでいる。実践で蓄積した知見を全国の方と共有し世界レベルの観光地域づくりに取り組んでいる。今一番必要なのは日本全国で一緒に取り組む仲間。</li> </ul>
新井 信幸	あらい のぶゆき	東北工業大学工学部建築学科/特定非営利活動法人つながりデザインセンター・あすと長町	<p>東日本大震災後、仙台市内を中心に各地の仮設住宅、災害公営住宅にて、孤立を防ぐコミュニティづくりと居場所づくりを展開してきました。あすと長町仮設住宅(仙台市)では、仮設住宅でコミュニティ形成、次のステップ(災害公営住宅)に向けたコミュニティ継承の支援を実施し、それらは概ね実現することができました。ステージが災害公営住宅に移行してから、塩竈市内の災害公営住宅などを中心に、居住者(自治)組織形成、集会所の居場所化等の支援を実施してきました。居住者組織形成については、担う役割を住宅管理に絞ったことで、ほぼ全世帯が参加する体制を構築することができました。孤立を防ぐ取り組みについては、集会所を外部に開いて、多様な団体が利用・活動することで、多様なつながりが生まれ、「みんなの居場所」となるよう支援を継続しています。清水沢東住宅(塩竈市)では、約15団体が入れ替わり立ち替り、毎日のようにイベントが開催され、日中の高齢者や放課後の子どもたちの居場所となっています。また集会所の居場所化には、運営方法にも工夫が必要で、旧来からの自治会費で水光熱費を賄う方式だと利用頻度が高まることで自治会運営が逼迫してきます。そのため、利用する団体が支払う形の利用料金制を導入しました。それによって、利用が促進され、今年に入ってから新たに2団体(書道教室、俳句の会)が定期利用を始めています。</p>
有城 辰徳	ありしろ たつり	一般社団法人 ダモンデ	<p>年間を通じスポーツを通じた誘客、交流イベントを開催し、地域内のボランティアや支援組織をとりまとめるながら、活力のある地域作り、人材育成をおこなう。また新城市が地域活性の大きなテーマとして位置づける「スポーツツーリズム」を協働で推進する。また観光振興や地域作りにも積極的に参画し、(一社)奥三河観光協議会との連携や、風来東部での地域計画作りでも協働している。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
飯倉 清太	いいくら きよた	特定非営利活動法人 サプライズ	PDCAではなく「D」から始めるフィールドワーク「DPDCA」 「若者を行う地域活性」を軸に展開している。  現在の地方問題には「高齢化」「少子化」「人口流出」など様々な問題が複合的に絡んでいます。これを是正するには短期的な目標と中長期的な目標設定が必要となります。そこで私たちNPOサプライズでは静岡県東部伊豆を中心に高校生や大学生と取り組む地域活性を実施しています。大きな目標を掲げることも大事ですが実際はスモールスタートがとても重要となります。様々なディスカッションやセミナーを開催しつつ、最短の地域活性と行動力を育成するために「清掃活動」を中心とした活動にてリーダー育成を実施。また現場だからこそ得ることの出来る「連絡調整能力」「遂行能力」「討論能力」「コミュニケーション能力」などを学んでいます。これを基に地域の素材を再確認し、編集そしてレビューを付けて再発信を行う事を実施しています。
飯田 一民	いいだ かずたみ	有限会社 食創造さんだかん	<アドバイザー/伝承名人としての派遣履歴他> 北檜山町・松前町・和寒町・下川町・長沼町・日高町・占冠村・小清水町・北海道商工会連合会講師・網走市・道南3町(松前・上ノ国・江差)広域連合・留萌支庁・空知支庁事業評価委員・全道市長会基調講演など <アドバイザー/伝承名人としての実施取組み> 下川エミュー肉燻製開発・松前町「あわびごはん」開発・瀬棚町海産加工品開発・その他商品名・デザイン等の創出・百貨店北海道物産展企画協力(三越・大丸・西武・丸井等) 「農家の友」「しやりばり」等に執筆「生産現場からの新しいビジネスチャンス」など 道内各地域の道の駅再生活性化事業・地元ブランドの推進を手掛け「食」からの地域活性化を助めている。 ※ 道の駅「ライズランドふかがわ」設置企画協力 ※ 道の駅「北前船松前」総合プロデュース 他 ※ 生産現場と都市部との協働事業として「北海道応援宣言プロジェクト!!」 札幌の飲食店で毎月道内各地域の食事を開催(総合企画監修) ※ 百貨店と協力して北海道地域・生産者の食材・加工品のトライアル販売を実施  <(有)食創造さんだかん概要> 1983年珈琲専門店サンダカンとして開店 1988年レストランサンダカンとして現地に新規移設開店 1993年全国北海道物産展へ参画、榊三越・榊大丸他 1999年食創造さんだかん工房として食肉加工工房を併設する 2003年深川市の委託を受け、「道の駅」内でレストラン運営  2014年深川市ものづくり事業で「牛こら」「旨とん」の商標特許取得
飯干 淳志	いいほし あつし	株式会社 高千穂ムラたび	・高千穂町役場を早期退職後、「高千穂ムラたび協議会」を設立し、地域住民や若者と共に、ムラをまるごと博物館に見立て、信仰史跡や神社、地球創造の痕跡がもたらすムラの魅力を「秋元エコミュージアム」として情報発信。無人直売所や食堂などムラ人の運営で客をもてなし、秋元神社の参詣者を中心に年間3万人が訪れる山村ツーリズムエリアを実現した。同時に農地の再生、世界に認められるものづくり、世界から訪れる民宿開業をはじめとする山村ビジネス起業に着手した。 -「(株)高千穂ムラたび」では、「持続可能な村づくり」をめざし、秋元集落の資源を活かす農業生産、民宿、海外にも販売を展開するとぶろく・甘酒・米ぬかのお菓子の製造・販売をてがけ、娘夫婦を中心に、Uターン・移住してきた若者も含めて14人のスタッフが取り組んでいる。 また、年間150万人の観光客が訪れる高千穂町で観光協会長として「持続可能な観光地域づくり」を進めるとともに、九州の農村ツーリズムを人材育成や事業運営面でサポートする中間支援組織「(一社)ムラたび九州」を九州各県の先駆者とともに立上げ、農村経済を支えるツーリズム事業者の育成にも取り組んでいる。
石崎 英治	いしざき ひではる	株式会社クワイージ / NPO法人 伝統肉協会	北海道新冠町、新得町及び鳥根県美郷町において、エゾシカやイノシシ等の野生鳥獣における生産工程のマネジメントに携わる。 株式会社クワイージが流通卸を担うことで、生産地と消費地を多面的に結び、より効果的な経営戦略の立案を行う。 また、農村地域における体験ツアー等の観光・交流の取組に携わる。 レストラン経営、イベントへの臨時出店、テレビ・ラジオ・新聞をはじめ各メディアへの出演、料理教室の実施等を通じて「野生鳥獣を食べる文化」の普及・啓発活動を精力的に展開。
石田 三示	いしだ みつじ	NPO法人大山千枚田保存会	大山千枚田は、H7に地域の衰退に危機感を募らせた住民が農村の活性化を目指し、都市住民、地域住民、関係者からなる大山千枚田保存会(後にNPO法人化)を発足。棚田オーナー制度や体験学習で都市農村交流に取り組む。 ・棚田オーナー制度 154組(H29) ・体験学習の受入 5600人以上(H29) ・農家レストランの売上 860万円(H29) ・農家民泊 7軒 ・中心人物として、棚田オーナー制度や農家民泊、農家レストランなど地域ぐるみの多様な取組を推進
石山 純恵	いしやま すみえ	(株) クリフ	地方銀行や総合病院での管理職研修などを行っています。講義をして「良かった」だけの研修ではなく見える研修、数値化する研修を企画実施しています。福島県を取り巻く状況で国際機関との会議の議事録作成や翻訳等を行っています。自らの起業で女性の雇用を創出し女性の生きがい作りに寄与してと思っています。今後も女性の活躍、女性の創業を支援していきたいと思っています。平成26年5月に、ノルウェー大使館、仙台市、仙台男女共同参画センター主催の東北の復興を担う女性リーダー・ノルウェー視察研修に福島県代表として参加しました。
伊勢田 博志	いせだ ひろし	NPO法人ツーリズム研究機構 / (有)サポート・エムツウ	農林水産省支援事業 ・道の駅、日帰り温泉、国民宿舎等交流ターミナルの企画・開発プロデュース 多数 ・特産品開発及び販路支援事業など多数 ・奈良県国際芸術政村にぎわいづくりプロジェクト支援業務 ・北広島町農泊事業プロデューサー 経済産業省支援事業 ・東アジアより水保への環境教育旅行の誘致事業プロデューサー ・地域資源を活用した商品開発及びマーケティング戦略の策定(多地域) ・クールジャパン関連事業のプロデュース(橋街道プロジェクト) ・(社)離島百貨店商品開発・販路開発専門家(地域中核企業ローカルイノベーション支援事業) 内閣官房 ・地方の元氣再生事業・4地域(北広島町、養父市、嵐山、兵庫県福崎町)プロデューサー ・内閣官房地域活性化モデルケース「橋街道」コーディネーター 企業など ・シティホテル連盟インバウンド誘致海外セールスコーディネーター(欧州・アジア) ・大手ハムメーカーマーケティング研修(商品開発など) ・シティホテルなどのマーケティング研修(企画塾・プライダルフエアプロデュース等 ・鉄道系会社の新規事業創出・企画アドバイザー業務 など

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
伊津田 崇	いづた たかし	株式会社アイレック	<p>&lt;まちづくり、タウンマネジメント&gt; 中心市街地活性化協議会や行政等、関係者へのヒアリングを通して抱えている課題を把握し、支援テーマに基づいて協議会設立支援や協議会・まちづくり会社の運営・管理体制強化、事業推進のための勉強会・シンポジウム等の企画・運営・コーディネートを行い、協議会構成員や地域住民等の合意形成や個別事業の具体化等を図る。【長浜市、奈良市、田辺市等を支援】</p> <p>&lt;商店街活性化ビジョン策定支援&gt; 商店街の強み・特徴や地域資源を生かし、3~5年後の将来像を見据えて活性化ビジョンを掲げ、具体的取組事業を構築するにあたり支援・指導を行う。【大津市、大村市、中津川市、瑞浪市等】</p> <p>&lt;地域ブランド創出支援&gt; 地域資源の発見・発掘を行い、地域活性化への起爆剤となるように育成していくとともに、これらの資源を活かしてまちづくりにつなげていく。【豊岡市、出石そば、湖東地域等を支援】</p> <p>&lt;一店逸品運動等個店活性化支援&gt; 一店逸品運動の推進による個店の品揃えや陳列等の指導を通して、個店を活性化させることにより、SC・商店街全体の魅力アップを図る。【大和高田市、大和郡山市、尼崎市、神戸市・新長田地区、豊田市、大村市、松江市等】</p>
井手 修身	いで おさむ	アイデアパートナーズ(株)	<p>※地域の資源(人・モノなど)を編集及び加工し、マーケティング(=売れる仕組み作り)や組織の立上げ、活性化の具体的手法を現場に入って推進します。</p> <p>◆地域資源活用型のビジネス支援と地域活性化 具体的には、観光・集客・物販領域のバリューアップとして3つ展開。 ①まち中回遊、まち歩き等観光交流事業支援、 ②特産品開発、メニュー開発、農家レストラン立上げ支援、 ③観光・集客施設の診断・再生、売上向上支援 ④観光地域づくりプラットフォーム推進機構『常務理事』 日本版DMOの組織づくりを支援。</p>
伊藤 数子	いとう かずこ	特定非営利活動法人STAND/広島大学	<p>1991年金沢市にて企画会社パステララボ設立。代表取締役。車いす陸上競技の観戦が契機となり、2003年から電動車椅子サッカーなど競技大会のインターネットライブ中継を開始。誰もが明るく豊かに暮らす社会を実現する「ユニバーサルコミュニケーション活動」のため2005年NPO法人STANDを設立、パラスポーツ事業を本格始動させる。ウェブサイト「挑戦者たち」の編集長としてパラスポーツを通じて共生社会を目指す。また、スポーツイベントや体験会も開催。2014年にはボランティアアカデミーを開講。2016年には新設されたスポーツ庁の第1期スポーツ審議会委員を務めた。東京オリンピックパラリンピック組織委員会顧問、総務省情報通信審議会専門委員、日本パラリンピアンズ協会アドバイザーなども務める。</p>
伊藤 晴樹	いとう はるき	Time Colors Lab.	<p>大学在学中にふるさと秋田を盛り上げるため「地域と学生を繋ぐ」という目標に掲げ、地域活性化を目的とした団体ARCグループを設立。1年で100人規模まで成長させ、県全域に活動拠点を整備した。大学、自治会などと連携し、過疎地域への学生の派遣(年間のべ500人規模)のシステムを構築。また、学生の政治への関心を高めるための若者団体AKITA未来創生塾を設立。学生のコミュニティーづくりを進め、平成28年度内閣府主催の未来をつくる若者オプ・ザ・イヤーで内閣総理大臣表彰を受賞。後に秋田県男鹿市地域おこし協力隊へ就任。移住・定住促進をすべくツアーやイベントの企画・運営を行い3年間で560名以上の交流人口を生み出す。また、地域で途絶えていたなまはげ行事(ユネスコ無形文化遺産)を外部人材の力を借り、12年ぶりに復活。取り組みが世界に発信された。その他、TEDxAkitaIntIUのスピーカーなど講演活動など、環境教育や感覚教育の推進、コーチングを軸とした人材育成の事業を進めるためTime Colors Lab.を設立。秋田県地域おこし協力隊OB・OGネットワークの代表として、現役隊員のフォロー体制、OB・OG同士のネットワーク作りも行っている。</p>
伊藤 房雄	いとう ふさお	東北大学大学院農学研究科	<p>これまで東北各地(宮城県、福島県、青森県三沢市、宮城県丸森町など)の農業振興計画や地域振興計画(宮城県鳴子町見首地区など)、県の総合計画(山形県)の策定に携わってきた。併せて、東北ブロック6次産業化推進行動会議分科会座長(東北農政局)、ふくしま6次化創業塾運営懇談会座長(福島県)などに携わり、各地域の6次産業化の推進を支援するとともに、登米市アグリビジネス起業家育成塾(宮城県登米市)、農家のたまご塾(宮城県農林水産部)、せんだい次世代農業経営者育成塾(宮城県仙台市)の塾長を務め、各地域の農業振興や地域振興、6次産業化に取り組むプレイヤーの人材育成にも積極的に取り組んでいる。</p>
伊東 将志	いとう まさし	夢古道おわせ	<p>官民一体となった観光交流事業「夢古道おわせ」の管理運営。 ①地元集落のお母ちゃんをグループ化し、各地にチームを形成。 集落の食文化の伝承をテーマにランチバイキングによる交流人口増加を図る。 ②間伐材活用によるイベント「全国一斉100のありがとう風呂」を主催。 全国47都道府県400カ所以上の温浴施設で導入実績あり。 地域資源であり、後継者不足等で課題にもなっている一次産業の問題に独自の手法でアプローチし、全国各地より同時多発的にメディア掲載することを得意としております。</p> <p>また、都市部の若者×地域の漁村・農村集落をテーマに人材のマッチングも行う。 全国の自治体や商工会・商会議所において官民一体のまちづくりや地域資源活用による取組みへの支援も行っています。</p>
井上 将太	いのうえ しょうた	井上地域づくり事務所/井上建築	<p>1988年2月3日生まれ。高知県安芸市出身。 高知大学森林科学科にて森林政策学を専攻。在学中に学生団体FANを立ち上げ、建築学科の学生向けに林業から木造建築までを学ぶセミナー「森の未来に出会う旅」の運営に携わる。現在までに100名以上の学生が木造建築を学ぶ。</p> <p>高知大学大学院に進学後は高知県嶺北地域にて地域創生を目的とした木工会社である「ぼうむ合同会社」にて3年間勤務し、木工製品の商品開発や営業活動に携わる。2010年には全国最年少にて内閣府地域活性化伝道師に認定。2012年には井上地域づくり事務所を創業し、六次産業化プランナーや高知県四万十市にて地域づくりなどにも携わる。</p> <p>2014年より高知県を出て木材商社にて5年間勤務。愛知県の本木市場での営業や関東にて駅舎や保育園などの地域材調達業務に関わる。2018年6月より高知県にUターンし、家業である井上建築に入社。「木のこころを、人のくらしに」をテーマにして、森の魅力や木造建築の魅力を発信中。</p>
井上 拓磨	いのうえ たくま	株式会社はたらクリエイト	<p>経済的価値と社会的価値を両立する仕組みを構築しています。そのため公費ゼロで自立する仕組みづくりが得意です。現在は、人材不足に陥りやすい関東圏の企業に向けてリモートでサポートするリモートチームサービス「hatakuri(ハタクリ)」を核に、子育て中の女性の社会復帰支援の仕組みを作ってきました。3年間で自立し公費ゼロで100名を支援する取り組みとなりました。そのほかにも、コワーキングスペースで培ったマルチステークホルダーで課題を解決する取り組みを多く行っています。</p> <p>&lt;主な取り組み事例&gt; ・空き店舗活用したコワーキングスペースを3カ所開設 ・上田市・商会議所・産学官コーディネート組織と連携した創業支援 ・インターンを活用した学生の社会との接点作り ・子育て中の女性の社会復帰支援 ・移住定住に関する取り組み</p>
井上 俊彦	いのうえ としひこ	合同会社ブランドスケープ	<p>※農林水産食料品の輸出・海外販路開拓支援 輸出実務、商流構築、輸出戦略、海外マーケティング、現地イベントの開催等</p> <p>※農林水産食料品のブランディング ブランド戦略、マーケティング戦略、現地プロモーション(SNS・メディア活用)、ロゴやパッケージデザイン、新商品開発等</p> <p>※地域のインバウンド観光促進 国別のインバウンド戦略、現地プロモーション(SNS・メディア・現地イベント)</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
井上 弘司	いのうえ ひろし	CRC地域再生診療所	<p>○全国各地にて、観光・ツーリズム・6次産業化・雇用創造・中山間地域振興等の講演、年間指導</p> <p>1. 地域診断の実施(地域課題の整理分析)および課題に基づいた人材育成</p> <p>2. 地域再生・地域振興に必要なアドバイスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン・ツーリズム、ニューツーリズムの推進支援</li> <li>・DMO、観光まちづくり事業体の設立指導</li> <li>・地域再生の手法や地域づくり・人づくり</li> <li>・地域資源開発(6次産業化支援)</li> </ul> <p>食、文化歴史、直売所、農村レストラン、農家民宿、体験プログラム、ツアー造成指導</p> <p>有害鳥獣対策と活用</p> <p>3. 地域人材育成プロデュース</p>
伊原 和彦	いはら かずひこ	ETC 教育旅行コンサルタント	<p>◆観光・交流(教育旅行や着地型観光誘致) 観光協会・商工会・受入協議会等の教育旅行誘致アドバイザー 体験プログラムの開発・インストラクター育成 第一次産業を活用した民泊等受入組織の人材育成・マーケティング支援指導 観光振興・観光まちづくり・地域活性化をテーマとした講演・セミナーの講師 着地型観光の講師や商品造成・人材育成・支援指導</p> <p>◆地域産業・イノベーション・農工商連携 地域活性化支援アドバイザー 地域特産品の開発・食の開発やマーケティング支援指導</p>
井原 満明	いはら みつあき	地域計画研究所(藤沢事務所)	<p>①農村集落の再生:ライフスタイルの価値観を変えるグリーンツーリズムと地域の資源を地域で生かすエコミュージアムの融合展開(岩手県内、他県)、農家民宿の支援(山形県)。②高齢社会の地域づくり:高齢者の特技・手仕事を活かしたマイスター制度の設立(宮崎県)、高齢者が中心となってワークショップを開催し、生きがいづくりと集落の再生に取組む。(山形県)。③ローカル線と地域再生:三セク鉄道と沿線集落の再生を目指し各駅を拠点とした駅市や駅カフェの開催、駅間と集落を結ぶフットパスづくり(秋田県)。④中心市街地活性化:中心商店街と周辺地域の農村部との連携を図り住民参加協働型第3セクター「まちづくり会社」を提案しその設立に関わる(岩手県)。⑤農村文明塾:農村における新たな価値の創造の取組みとして農村文明塾の運営に参加し域学連携などを実施、雪を生かした雪中酒の商品開発を行う(長野県)。⑥福祉版コンパクトシティ:高齢者の暮らしと生業の創造について講演し、その後、高齢者たちが耕作放棄地を活用しさつまいもを栽培し「焼酎」を試作しブランド化を図る(新潟県)</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
今村 展大	いまむら のぶひろ	I+Sコーポレーション	沖縄県において地域産品の企画開発(沖縄県最優秀県知事賞受賞)、Eコマース、WEBマーケティング会社設立を経て、2005年沖縄県産業振興公社専門アドバイザー、沖縄県商工会連合会エキスパートに就任。その後、地域特化型グルメサービス「ちゅらグルメ」を創設。県民限定のお得なサービス「ちゅらとく」創設など観光媒体において数々のサービスの立ち上げを行う。2011年からは更なる地域発展を描くビジネスを追求すべく、行政との連携を深め、2013年には日本初の取り組みである映画をツールとした地域活性化を沖縄県名護市名護大通にて実施。映画「かじまる食堂の恋」を製作、全国公開並びに全国の高層にてレンタル・セル展開。その後は、マイナビとのジョイントベンチャーによる台湾香港向け観光媒体「珍遊沖縄」を創刊。2014年には株式会社全国商店街支援センター「商店街よろず相談アドバイザー」、経済産業省キーパーソンに就任する。2016年には、これまで培ってきたブランディングノウハウを体系化し、地域メディア及びブランド構築に主力をおいて活動。2017年から効果的なブランディング戦略の一環としてyoutubeでの動画メディア構築を实践。業界内における世界一の情報発信チャンネルの構築を行った。その他、水産業の6次化ブランド構築など主にメディアを中心においたブランディング戦略を行っている。
今村 まゆみ	いまむら まゆみ	観光まちづくりカウンセラー	<p>◆観光を切り口にした地域資源の発掘・地域ブランド化・プロモーション支援◆ 国内旅行雑誌「じゃらん」の編集経験をいかし、その土地ならではの魅力ある資源を発掘し、観光素材へと仕上げ、メディアなどに戦略的にPRすることを得意とする。 消費者やメディア、トレンドを意識した「コンセプト」「ターゲット」「話題になる観光開発」にポイントを置き、地域ブランドの構築から、体験メニューの造成、PRにかかわるアドバイスや組織づくりに取組んでいる。</p> <p>【取組事例】 ・愛知県渥美市商工会「渥美会づくし事業」 年間を通じて様々な種類の貝が獲れることを資源とし、飲食店と宿泊施設が「貝づくしの店」として連携。昔はハレの日に家庭で作られていた「あさりの押し寿司」を復活させ、商品開発に取組み、イベントで販売。現在は9店舗で販売するに至る。 ・東京都青梅市御岳山「お犬様連れ歓迎プロジェクト」 標高929mの御岳山は東京のオアシス。山頂にある武蔵御嶽神社は昔から「お犬様」が祭られ、境内を犬同伴で訪れることができる。この特徴を活かし、都内近郊に住む30～40代のペット連れをターゲットにペットのお祝い、ペット用の守りなどを制作し、ケーブルカー内にもペット連れゾーンを用意。それらがSNSで「ペットの聖地」と話題になり、認知度向上、集客アップにつながった。</p> <p>◆人材育成◆ 地域貢献度の高いキーパーソンの講演や個人ワーク、グループディスカッションを通し、受講者自身の「問題意識」や「自分らしさ」への内省を促し、地域貢献度の高い人材を目指すことを目的にした研修を企画・実施している。 【取組事例】地域キーパーソン養成研修「信頼関係の醸成に役立つ傾聴力向上セミナー」(経済産業省、北海道・近畿・中部・中国・四国・九州経済産業局にて実施。対象は経済産業省一般職および管内の行政職員)など。 ※その他、住民向けの「観光ボランティア養成講座」なども企画・実施している。</p>
岩崎 徹	いわさき とおる	株式会社アイダ(アイダ・アライアンス)	<p>①地域ビジネスの出口事業化支援:自ら地域での事業経験から、事業計画の策定、資金調達、マーケティングPRなど具体的にサポートし、資本参加して事業提携も行います。 ②地域コミュニティづくりの口実支援:地域活性化のきっかけとなるコミュニティ形成を、場やきっかけを地域住民とともにつくります。 ③地域人材の発掘と育成:地域を担う人材塾の総合フェスティバルとワークショップのコーディネートなどをインターネットで行います。(例:こしがら都市創造未来塾、行田みらい塾など) ④地域情報の発信:地域資源を発掘し、各種メディアで発信します。 ⑤マーケティング、PR支援:地域ビジネスのマーケティングやPR業務をサポートします。 ⑥地域事業に関するイベント等の講演、ファシリテーション等。</p>
岩崎 亘	いわさき わたる	株式会社ベジクル/株式会社アイジェイ/株式会社奥駿河家守舎	<p>リクルート在籍時、クライアントである東証一部上場プライダル企業と、伝道師の地元であるみかん農家(実家含む)を繋ぎ、CSR×教育研修として、人手不足の農家の農作業の手伝いや、廃棄していた摘果みかんを使用した酢を開発し特産品として販売するというプロジェクトの推進を支援。 フォーバルでは、神奈川県伊勢原市にある「石田牧場」の6次化事業であるジェラート屋の立ち上げ～軌道に乗せるところまでのコンサルティングを行い、人気店に育て上げた。 農業法人である和郷では、都市と農村を繋ぐ「農園リゾート」という新しいコンセプトを打ち出した滞在型施設「THE FARM」や「THE FARM CAFE」等を立ち上げた。 起業したアイジェイでは、廃棄するか二束三文で売られてしまう規格外農産物や未利用農産物を活用し、コールドプレスジュースという付加価値の高い商品を製造・販売している。熊本県合志市の農産物だけで作ったジュースを開発し、東京にある自社店舗でPRしながら販売することで、地域や地域の特産品の認知度向上に貢献するなど、トレンドに上手く乗せた地域活性化を行った。現在は和歌山県の有田みかんの販路開拓支援等、コンサルティングを行っている。 奥駿河家守舎では古民家をリノベーションしたゲストハウスの運営、アグリホールディングスでは地域のこだわり食品の輸出支援にコミット。</p>
臼井 純子	うすい じゅんこ	オフィス・ウスイ/NPO法人日本風景街道コミュニティ	<p>・地域活性化にかかわるさまざまな事業について、経営視点から事業の構築、マーケティング、プロモーション、継続的な運営手法、経営全般についてアドバイスをおこなっています。 ・地域の資源「ひと、もの、金、情報」の有効な活用方法、人材発掘と育成など、その地域の特性を活かした地域活性化策(産業振興、観光、移住・交流など)を、地域の住民とともに、地域に根付くやり方で実施していくことを何より大切に、取り組んでいます。 ・地域の事業者の「家業」をどう「企業」まで底上げしていくか、経営のイロハについてわかりやすく指導・育成を実施しています。 ・地域リーダー、女性起業家の育成・指導・助言を行っています。</p>
内田 勝規	うちだ かつのり	(株)オフィス内田	<p>《講演記録》 北海道経済同友会、中小企業家同友会、経営合理化協会、北海道庁、鹿児島県、各地商工会、帯広信金、北海道銀行、福岡銀行、楽天、目白大学など 《講演テーマ》 地域ブランドについて、売れる物作りについて、食の可能性と課題、首都圏の顧客ニーズについて、北海道物産展に見る地域ブランド 《マスコミ紹介記事》 《テレビ》 日本テレビ『リアルタイム』『秒ヨミ』『ズームインスーパー』『ズームサタ』『スッキリ』 テレビ東京『ルビコンの決断』『日曜ビッグバラエティ』『グルメ魂』『戦士の逸品』『ワールドビジネスサテライト』 NHK『クエスタ』 BSフジ『プライムニュース』、NHK、テレビ朝日、TBS各番組 北海道各局『HBC』『STB』『HTB』『UHB』『TVH』 《新聞》 日本経済新聞、朝日新聞、日経MJ、北海道新聞、十勝毎日新聞 《書籍》 フォーブス、週刊ダイヤモンド、日経トレンディ、知知、戦略経営者、ストアーズレポート、クオリティ新潮社『旅』(連載中)</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
内田 友紀	うちだ ゆき	株式会社リ・パブリック	<p>■「中規模都市・福井市(人口約27万人)にて、地域をこえた人の流れと仕事をつくる」をテーマに「未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト   make.f」プロジェクトリーダー。産官学の連携プロジェクト(2016-)。</p> <p>・福井・関東・関西の人々をつなぎ、世代ごとの人の流れや新たな時代の働きかたをつくる取り組みを実施。また、ウェブ・タブloid・映像、SNSなど複数メディアによる、参加型のプロジェクトアーカイブと発信を実施。</p> <p>□小さなデザインの教室・XSCHOOL プログラムディレクター</p> <p>プロジェクト・事業を立ち上げながら、学びと実践を繰り返すデザインの教室を企画・運営。次代のデザイナーを育て、地域の産業をアップデートすることを目指す。(make.fの一環)</p> <p>□2018年、プログラムを再編し、XSTUDIOを立ち上げる。繊維産業をフィールドに、地場産業と異分野の人材をつなげながら、地域単位でのオープンイノベーションの取り組みを実施中。</p> <p>http://makef.jp/</p> <p>■福岡県福岡市(人口約150万人)にて、産官学の連携のもと、社会課題を源泉にビジネスを生むインキュベーションプログラムの立ち上げ、企画運営を担う(2013-2016)。参加者は、福岡市民と、東京・九州を中心とした大手企業の研究開発部門。デンマークデザインセンター、アムステルダムメディアラボなども連携。</p> <p>■成熟企業にて連続的イノベーションを起こす人材・シリアルイノベーター研究会を、国内の複数企業の研究開発部門とともに実施(2013-2015)。アメリカ・イリノイ大学工学部教授らによる研究と連携。株式会社リ・パブリックのメンバーによる監訳本「シリアル・イノベーター - 非シリコンバレー型 イノベーションの流儀」がベースとなる。本研究により見出されたイノベーターが育つ環境・関係性などの要素を、地域にも応用し、プロジェクト設計に取り組む。</p> <p>■「街の人」を主役にした新しいガイドブック、COMMUNITY TRAVEL GUIDE「福井人」の企画・出版にプロジェクト発起人の一人として関わる(2013)。掲載する人の選定・取材・執筆・資金集めまで、徹底して参加型を実現し、オンラインを含めて数千人が関わった。</p> <p>■ブラジル州政府の都市開発局にインターンシップ参加(2012)。国連サステナブル・シティ・アライアンスの州適用に向けた事例研究、導入メソッド開発、接続プログラムの検討等を行った。</p>
内海 芳宏	うつみ よしひろ	日本真珠輸出組合	<p>神戸旧居留地における芸術文化の発表(音楽、美術等)による集客 (特にインバウンド来日客にむけた地域特性を活かしたもの)</p> <p>での成功や、神戸マラソン等の地域特性を活かしたアドバイス など、日本産海産真珠や、食品の海外現地におけるブランディング での成功からの経験・手法を講演、教育現場等でお伝えしております。</p>
越護 啓子	えちご けいこ	杉野服飾大学	<p>南会津町「地域競争ビジネス支援事業」伊藤園贈答用ミニトマトジュース開発・三宅島「国境離島交付金事業」青汁開発他・八丈島、青ヶ島、知夫里島、佐渡島、種子島他、離島交付金受託者他事業支援多数・南信州果実フードロス凍結新商品事業化支援・文科省全国生涯学習フェスティバル「まなびピアふくしま」メイン事業県民巻き込み映画製作企画開発・洞爺湖サミット記念事業映像企画制作・厚生労働省宮城県「新規学卒未就職者向け就労支援事業」人材育成プログラム開発制作実施・厚生労働省札幌市「ジョブスタート」プログラム開発制作実施・日本ハム×福島復興支援事業・熊本阿蘇高菜漬け欧州輸出マーケティング事業(経産省)・熊本県八代市「菜種」「ごま油」ブランディング商品開発販売促進(ザ・ワンダー500選出・経産省)・岩手県、宮城県、福島県事業サポート復興専門家支援 その他</p>
榎田 竜路	えのきだ りゅうじ	合同会社アースボイスプロジェクト	<p>◇人材育成◇ 全国各地(東京都墨田区、同八王子市、多摩地域、秋田県、島根県、愛媛県松山市、茨城県行方市、鹿児島県阿久根市、同薩摩川内市、佐賀県基山町、奈良県吉野町、同川上村、中小機構、九州経済産業局、大阪市、兵庫県市川町、他)で認知開発力◎育成講座を開き、現在までに1200名余の人材を育て上げている。近年は高校生への育成にも注力しており、徳島県立徳島商業高校や鹿児島県立鶴翔高校、鹿児島県立川内商工高校、沖縄県立沖縄水産高校、島根県立東部高等技術校、岡山県立津山東高校、奈良県立吉野高校など全国の高校生を指導している。数年にわたり指導した地域では、高校生達の地元企業への関心が高まり、地元での就職率が上がるなどの効果が出ている。</p> <p>地域活性化において高校生の存在は欠かせないものであるという考えから、現在所属しているオリンピック・パラリンピック組織委員会「経済・テクノロジー」専門委員会では、地域活性化の手段として高校生の認知開発力向上を提案している。</p> <p>また、同委員として、ホストタウン事業にも関わり、2017年度～18年度にはホストタウンの課題である、市民のホストタウン事業への認知度の向上を目指し、中学生を地域とオリンピック選手とのコネクター(つなぎ役)の役割を担ってもらうために認知開発力◎育成の実績と技法を活用し、ポスター制作ワークショップを実施。岩手県野田村(野田中学校)、岩手県雫石町(18年度、中学生、高校生)、静岡県静岡市(安倍川中学校)、福島県飯館村(飯館中学校)を指導し、ポスター制作を実施した。</p> <p>◇コンテンツ制作◇ 地域情報のグローバルな展開を支えるメディア手法「序破急モデル®」や、地域や企業の情報を資産化することの出来る人材育成手法「認知開発手法®」を生み出し、企業の連携促進やITを活用した情報発信システム構築と組み合わせ、「情報運用手法®」として全国に展開している。 企業や地域に「物語」を見出し、それをコンテンツ化し、グローバルに展開させていく手法を用いて、制作・監修。これまで手がけた中小企業や地域の映像は現在までに2000本を越えている。</p> <p>◇総合情報戦略◇ 震災に生かされた情報運用 ・東日本大震災(2011年～) 2011年3月11日の東日本大震災を受け、マスメディアでは取り上げられない、被災地の情報を運用し、BSTウエルビの番組「未来への教科書」として配信。被災地の児童生徒を対象とした、出前授業を実施(5年間で28校)するなど、被災地の中長期的な支援を行ってきた。そのアーカイブは5年間で117本、取材時間は10000時間以上に及ぶ。</p> <p>その他、インバウンドについては、熊本地震や北海道地震後のインバウンド復興を目的とし、ミスインターナショナルや、中国のSNSでの人気番組などのインフルエンサーを招聘し、旅動画を制作配信、復興に貢献した。特に中国富裕層向けの施策について卓越した実績を有する。</p>
大岡 千紘	おおおか ちひろ	東栄町観光まちづくり協会	<p>人と人をつなぐ橋渡しを担う。 特にビューティーツーリズム「naori」事業では、地元企業と連携し、美をテーマにした ツーリズムを立上げ、地域資源の新たな可能性を開拓。 ・女性観光客の誘致。地域に新たな観光モデルを生み出す。 ・全国的なPR。美の地産地消という新たな地域資源活用の取り組み。 ・手作りコスメティックインストラクターとして、地域資源を用いたコスメの体験指導。 など、美をテーマに観光・交流の開拓が期待できる。またその企画を実行に至るまでの 地域との関係づくりにおいて、その実績・ノウハウを他地域へ拡大することが期待される。地域のアイデアを行政と連携しながら、外部視点を変えて実現に向けて一緒に取り組む。</p> <p>また、観光協会を立ち上げたノウハウを活かし、新たな組織の立ち上げへの協力に取り組む。</p>
大下 茂	おおしも しげる	帝京大学経済学部観光経営学科/榊KITABA	<p>『集客』を研究テーマとして、観光計画、地域活性化計画、中心市街地活性化計画など、地域づくり、まちづくりの分野において、『論と行動』をテーマに実践的な取組み展開を図っている。地域に軸足を置いて、地域の方々と一緒になって「地域を元気にするための方法」を実践する地域密着型の活動形態のため、活動エリアは首都圏近郊に限られている。 主な実績は、東京都品川区観光アクションプラン、大田区観光振興プランに関わるとともに、両区の広域観光まちづくり事業スーパーバイザーを平成20～22年度より努める(現在はアドバイザー)。また、平成24年度より両国地区観光まちづくりブランドデザイナー等の委員長を努める他、東京都観光部や特別区協議会の講座・シンポジウム等に関わっている。千葉県内では、佐原、木更津、いすみ、久留米、市川中山、御宿、浦安、四街道、習志野、勝浦、長生村、九十九里、多古町等、群馬県では、みどり市大間々、甘楽町、伊勢崎市境島村、下仁田町、みなかみ町、渋川市伊香保温泉の観光まちづくりに関わっている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
大谷 聡	おおたに さとし	株式会社JTB 法人事業本部 事業推進部	JTBグループは『地球を舞台に、人々の交流を創造し、平和で心豊かな社会の実現に貢献する。』を経営理念として、日本全国各地域に正対し、様々な人流、物流、商流を生み出し、交流を創造することによって社会課題解決と地方創生に貢献する地域交流事業に取り組んでいます。 現在、中央府省庁や観光関連団体と連携し、国策と連動し観光を基軸とした地域活性化に向け、各種会議へ参画により政策提言や、中央と地域との情報連携、各種事業の推進をしております。 また、特に裾野の広いといわれる観光産業における、多分野連携や政府の観光ビジョンに掲載されている国立公園の利活用、農泊の推進、食と観光の連携、ICTの利活用等、幅広い分野において全国各地に情報発信やアドバイス等を行っております。
大宮 透	おおみや とおる	一般社団法人小布施まちイノベーションHUB/小布施町	小布施町では、自治体行政や地域の中で課題となっているものを発掘し、課題解決に向けた施策立案や計画策定に関わるとともに、課題解決のプロセスに多様な主体が関わり協働的な取り組みが生まれるように、行政と地域住民、地域外の住民(特に若者)や企業、大学などの様々なアクターを繋ぐ場をデザインしています。場のデザイン的具体例としては、2012年から開催している「小布施若者会議」や、長野県事業として実施した「信州つなぐらボ」の取り組みなどがあります。 また、住民や町外の専門家等を巻き込んだ政策形成の実践事例も多く、行政の政策形成に多様な人材を巻き込む手法やプロセスづくりに取り組んでいます。
大和 和道	おおわ かずみち	向島橋銀座商店街協同組合	向島橋銀座商店街協同組合(下町人情キラキラ橋商店街)にて、1970年代に青年部の立ち上げ以降、商店街の現場にて共同事業や地域活性化事業に携わってきた。商店街を地域人材の交流のプラットフォームと位置づけて、行政、地域団体、学校、地域金融機関等との連携事業を通じて地域活性化に取り組んできた。また、全国商店街振興組合連合会、東京都商店街振興組合連合会等の役員をとして、全国の商店街の現場をみて地域活性化に取り組んでいる。
岡部 友彦	おかべ ともひこ	コトラボ合同会社	12年間の地域活性化事業のノウハウを踏まえ、2012年度より愛媛県松山市三津浜地区にて地域活性化事業として空き家バンク、空き家活用事業、コミュニティアセット事業を行っている。 弊社では、地域に直接入り、地域の人々、企業とともにボランティアではなく、事業としてのまちづくり事業の構築を行っています。 【街や地域の新しいイメージを創り出す】 まちづくりや地域活性化プロジェクトなど、地域の活動には、様々な人の協力が必要となります。プロジェクト自体を多くの人々に知ってもらうためにも、発信手法の検討は欠かせません。 コトラボでは、イギリスの都市再生で行われているプロジェクトのプロモーションムービーにならって、街の現状や眠っている「資源」を可視化させたり、統計データを一目で分かるようなヴィジュアル化などを取り込みながら、プロジェクトやその地域に興味をもってもらえるような映像を創っています。http://vimeo.com/52294907 【地域の空き家と借りたい人とをマッチング】 2013年より愛媛県松山市より地域活性化事業を受託。築150年の古民家なども多く残っている港町三津浜地区の空き家を一軒一軒調査し活用可能な物件を収集、三津浜町屋バンクと称して広く利用者を募る。http://mitsuhamaru.com 【地域資源を活用した地場産業づくり】 日雇い労働者の街であった横浜寿町の空き部屋を建物所有者と連携して旅行者向け宿として改装し、事業として行いつつ新しい人の流れを創り出している。2004年から横浜寿町を拠点に街の資源を有効活用し、街に新たな産業を創る取り組みを行っている。横浜では地域にある簡易宿泊所の空き家を活用し旅行者向け安宿に変貌させたYOKOHAMA HOSTEL VILLAGEを運営している。
奥村 伸幸	おくむら のぶゆき	別府国際観光港みなとまちづくり協議会	自然環境保全のための高山植物の保護活動・植物等の定点観測・地熱発電と自然との共生の取り組みと提言、地域企業のCSR推進・災害速報の多言語音声、文字表示の普及
小倉 龍生	おくら りゅうせい	公益財団法人はまなす財団	テーマ:人口減少社会を前提とした新たなステージに向けた地域づくり全般 ○地域資源活用による地域活性化 ○地域経済の域内循環の再構築 ○地域づくりのための新たなデザイン・マネジメント ○販路拡大に向けたブランディング戦略とマーケティング戦略
小野塚 喜明	おのづか よしあき	しおざわ版ダッシュ村	四季を通して農業と観光の結び付きをツーリズムへのろしプロジェクトでは自立型事業へ産業廃棄物処理場計画から環境モデルへ各地へ講演活動
小幡 和輝	おばた かずき	NagomiShareFund / 地方創生会議	地方創生会議は47都道府県すべてから起業家・公務員・政治家・クリエイター・学生などが参加する地方創生のプラットフォーム。全国のローカルプレイヤーがつながり、事例共有や共同プロジェクトなどが生まれ、その取り組みを支援することで地域の活性化に繋げる。また、「NagomiShareFund」は株式による出資ではなく売上のレベニューシェアで回収するモデルを採用。これにより、既存のファンドが投資しづらい、地域の名産品や伝統工芸品などへの支援を実現。さらに、クラウドファンディングを活用した起業支援を全国各地で行っている。
折谷 久美子	おりたに くみこ	NPO法人 スプリングボードユニティ21	地域の人や行政の人、様々な人と協力しながら、人づくりまちづくりを通じて、住んでいる人も訪れる人も函館のまちを好きになってもらいたいと活動しています。 ○みなとまちづくりの活動では、函館イカマイスター取得により函館市の魚であるイカの出前講座に力を入れています。 ○おもてなしの気持ちをこめて、国道5号函館新道、道道函館空港線、JR函館駅などで植栽維持活動を春から秋まで実施。函館新道の活動では、平成22年5月「全国みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰」受賞。 ○手作りキャンダルで道路沿線を飾る「シーニックdeナイト」で、地域一体となって冬の函館観光を楽しく盛り上げています。
甲斐 寛人	かい ひろと	特定非営利活動法人シンクタンク九州	中心市街地商業活性化アドバイザーとして、中心市街地活性化基本計画の作成、中心市街地活性化協議会の運営に関するアドバイス等を行ってきました。また、中心市街地タウンマネージャーとして現場における実践的な活動も行ってきました。また、商店街活性化アドバイザーとして、商店街の活性化に関するアドバイスも行っています。 地方創生の人口ビジョン・総合戦略の策定支援や、総合戦略に基づく地方創生のための事業の立ち上げ支援に携わっています。
海津 ゆりえ	かいづ ゆりえ	文教大学国際学部	・1. 資源調査(宝探し)の支援 岩手県二戸市や南大東村など、里山や離島等での資源調査に関わってきました。住民とともに宝探しをし、そこからイノベーションを興す活動を支援しています。答えは観光ばかりではなく、ブランド開発等へも展開していきます。 ・2. エコツーリズムの推進 西表島や裏磐梯等でエコツーリズムのスタートアップの支援を行ってきました。このようなエコツーリズム推進地域への全般的アドバイス(推進方策、人材育成等)を行います。 ・3. 宝探しからエコツーリズムへ観光まちづくりへの支援 地域づくりは長い年月をかけ、多様な人とのネットワークを広げながら進めるものです。数年かけて、宝探しからエコツーリズムの推進までの経緯をトータルでサポートします。 ・4. その他 学生参加型調査、プロのガイドとの協働によるツアー開発、日本エコウォーク環境貢献推進機構との連携による「まちあるき」の開発等、私のチャンネルを活かした支援が可能です。



氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
風間 教司	かざま きょうじ	有限会社 風間総合サービス	自宅を改装しカフェ「饗茶庵」をオープン以降、元連れ込み宿や築100年の商家、など廃屋をリノベーションしたカフェ「日光珈琲 玉藻小路」「日光珈琲 朱雀」「日光珈琲 御用邸通」と北欧服飾雑貨店を栃木県内にて展開。珈琲の焙煎、卸、カフェ&フードビジネスコンサルティングを行う。 また、起業家育成事業「ネコヤド大市」、商業者による地域活性化プロジェクト「DANNAVISION」を手がけ、地域づくりと担い手づくりを行っている。 2015年より日光例幣使街道鹿沼宿旅館再生プロジェクト「CICACU」始動。 現在、旅館業のオーナーでもある。
梶川 貴子	かじかわ たかこ	株式会社 ウェルネスアリーナ	地域の特性を活かした、産業振興および活性化のサポート。マーケティング戦略の立案および実行など。
春日 俊雄	かすが としお	新潟産業大学	1988年から地域住民と協働して、地域のビジョンづくり及び実践、純産品マーケティング、人材養成、イベントづくりを行政職員として主導・自ら実践。交流観光施設「じよんのび村」、「茅葺の里」などに取り組み交流人口を3万人から23万人に伸ばした。その後も、特色ある集落振興ビジョンづくりや中山間地域直接支払い制度事業に取り組む。また、市町村合併後の広域観光まちづくり「相崎市七街道観光まちづくり事業」を観光交流課長として主導し、地域住民と協働で取り組む。 新潟県中越沖地震の発生による観光客対応から観光復興までを取り組む。宮城県町村会ははじめ新潟県上市朝日地区などの依頼により「協働の地域づくりに係る助言・指導」及び地元「住民の起業に係る助言・指導」に取り組む。また住んでいる萩ノ島集落についても新たな集落経営に向けて2011年ビジョンづくり、2012年外部人材の導入・空き家の実測、2013年～集落経営のツールとしての施設整備に取り組むなど実践している。そして平成27年に従来の不特定多数を対象とした交流から共感をベースに「共に支え合う共生・協働の都市農村交流」に転換し、横浜の社会福祉法人をはじめ5団体と協定を締結。米や野菜などの直販、移住者やインターンの受入、景観づくりなど集落の維持・持続に向けた活性化に取り組んでいる。2017年に萩ノ島集落が北陸農政局農山漁村活性化優良事例の認定を受ける。
片岡 由美	かたおか ゆみ	一般社団法人 東京都中小企業診断士協会 城南支部	●「観光」に関すること→マップづくり、シンポジウムコーディネート ●「まちづくり」に関すること→ イベント企画・実施、まちづくりワークショップ ●「商業活性化」に関すること→ 商店街・個店コンサルティング、商店街青年部勉強会の実施、創業セミナー・相談、空き店舗対策 ●「食」に関すること→ 地域産品などの開発、人材育成(特に女性)
加藤 孝一	かとう こういち	カルネコ株式会社	【理念】 『日本の森と水と空気を守る』 【しくみ】 環境貢献プラットフォームEVI ※95の森林クレジット(県別カバー率84.3%)預託 【目的】 森と企業と消費者を結び、クレジットの流通促進、環境保護の支援を行う 【事例】 ■規格外りんごをドライフルーツへ。規格外の稚芽をブランド化 ■地域住民による電気代節約活動と地域経済の活性化を支援 ■国産材・間伐材の利用促進のための販売サイト構築・稼働 ■被災地の森林保護活動を支援する防災キャンペーンの企画・実施(3年間) ■観光と環境貢献の融合=GREEN&CLEANリゾートの推進 ■EVIがサポートした取り組みの3事例が受賞 鳥取県日南町…日本カーボンオフセット大賞農林水産大臣賞受賞(2016年) 秋田県横手市…カーボンオフセット大賞農林水産大臣賞受賞(2017年) 株式会社八葉水産…東北カーボンオフセット大賞グランプリ受賞(2020年)
加藤 せい子	かとう せいこ	NPO法人吉備野工房ちみち/千道株式会社	「一人ひとりの夢が実現し希望と笑顔が生まれ幸せの和が広がる」を目的を達成するために「一人一品」の考え方を元に、一人ひとりの夢を実現させる場として「みちくさ小道」の運営を行っている。※一人一品とは、その人の一番の輝き多様なステーキフォルダーの集合体にて特徴である。 ★みちくさ小道から派生して出来た取組 ・中山間の地域資源発掘 ・里山×子育て体験 ・商品の販路開拓 ・地域文化の伝承 ・人材育成(インターンシップ、研修事業) ・仕組みづくり(小・中・高校生をつなぐ) ・健康増進 ・防災・見守り ・交流観光体験プログラム ★みちくさ小道の仲間たち ・湯原ついで(真庭市)・大分みちくさ小道(大分市)・伊達ルネッサンス(亶理町、山元町、新地町)・石巻に恋しちゃった(石巻市)・Re.us world(気仙沼市唐桑)・さんりくさんぼ(宮城県気仙沼市本吉地域)・かんぱく(香川県観音寺市)・・・ เทศบาลเมืองสุรินทร์(タイ国スリン県) ★JICA研修プログラムとしても活用(アジア太平洋大学×みちくさ小道) 7年間で45か国(アジア、アフリカ、アンデス地域)400名近い行政官、実施関係者、生産者が地域開発に必要なコミュニティ・キャパシティ開発を学ぶ。
加藤 文男	かとう ふみお	株式会社ちば南房総(枇杷倶楽部)	地域産業と文化の振興、情報発信基地を目指した「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」の初代駅長として、計画の立案から、開設後の運営管理に12年間にわたって取り組みました。その間、事業効果を高めるため、特産の枇杷を活用した商品開発や、集客資源を束ねて誘客する「一括受発注システム」を稼働させ、地域経済を拡大させるとともに、自治体が全額出資した道の駅の運営法人の黒字経営を維持させました。さらに、人形劇などの地域文化の磨き出しや、インターネットを活用した広域情報の発信による地場産業振興など、多角的な手法で広域的な地域振興を進め、観光客の増加と平準化、約60名の雇用の創出をもたらしました。 近年では、道の駅による地域活性化の開発途上国への応用のため、タイ、ベトナムでの活動を続けています。
加藤 誠	かとう まこと	株式会社JTB	近年ツーリズム産業を取り巻く環境は急速に変化しており、従来型のツアースタイルではマーケットニーズに応えることは不可能となっています。旅行会社が主導してきた発地型のマストツーリズムから、地域社会が主体となる着地型のニューツーリズムへと時代が移りつつあり、暮らしや文化など地域固有の魅力を生かした旅の創出が求められています。 JTBグループでは、事業ドメインを総合旅行業から「交流文化事業」に進化させ、国の成長戦略と位置づけられた観光を基軸とした交流人口拡大による地域活性化を推進しております。これまでの発地でのマーケティング活動にとどまらず、着地においては地域行政・住民を巻き込んだネットワークの構築、地域魅力を生かした旅行商品の開発・流通支援、地域ブランディング、観光まちづくり、など、地域の皆様とともに地域視点での取り組みを全国各地で進めております。観光振興プランの立案、人材育成、着地型旅行商品の開発等、地域のマネジメント活動に積極的に取り組んでおります。
金山 宏樹	かなやま ひろき	株式会社シカケノ一般社団法人 全国道の駅支援機構	淡路島の観光施設の売上を、“多店舗化なし”の状態でも4年間に181%伸ばした実績から、その施設は全国からの視察、メディア露出の絶えない観光施設になっている。「行きたくなる」飲食店の仕掛け、「買いたくなる」お買い場づくりの手法を開示するセミナーやコンサルティングをおこなっている。直近では木更津市の新設道の駅(2017年10月オープン)の商品開発に携わり年間2億5千万円の売上予算(市予測)を3ヶ月で達成。他エリアでは、飲食店等の売上対200%以上達成など数値の実績を出し続けています。その他、ふるさと納税を活用した地域商社の立ち上げで地域の産品の発掘・磨き上げ・発信をおこない持続可能な地域経済を創り上げていきます。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
唐橋 宏	からはし ひろし	有限会社 會津きり屋	そばによる地域づくりで北海道から沖縄までの数十か所で指導を行う代表的なところは、富山県利賀村のそばの郷づくりとそばによる国際交流、北海道幌加内町のそばの振興、栃木県日光市のそばまつり、長野県松本市のそばまつり、会津のそばによる地域振興、福島県内のソバネットワークの構築と地域振興、この他数十か所のそばによる地域振興、またネパール、韓国の平昌 モンゴルのそばの振興(朝青龍とともに)実施するとともに全国のそばの地域づくりとその振興団体「一般社団法人 全麵協」の発足から25年組織づくりを副理事長の立場で作り上げました。
川口 真	かわぐち まこと	標津町産業クラスター創造研究会	食中毒の風評被害によって、地域経済が危機に直面した事から、万が一にも食品事故を起さない取り組みとして、漁場・市場・加工・流通までを一貫した浜の高度衛生管理システムの「地域ハサップ」を樹立して、11年を経過。今や「地域ハサップ」は町の誇りや魅力として、鮭や帆立貝のブランド化に大きな貢献をしている。又、この活動を消費者に知らせるために、漁港などの生産現場を開いて消費者への「観光体験の拠点」としての活用を図った「標準版エコツーリズム事業」を創設し、鮭の荷揚げや水産加工などの産業現場体験や漁業者との交流を中心に、農業も含めた産業や生活、自然などの足元にあった「何気ない地域資源」を「体験観光素材」として磨き上げ、町民ボランティア観光ガイドの養成と組織化の融合によって、今や20校余りの修学旅行が関東・関西方面から訪れる「目的観光地」として成長した。これは、生産現場を開くという「産業の観光化」によって、「観光が産業化」したものである。
川崎 克寛	かわさき かつひろ	徳島大学	2010年より内閣府地域社会雇用創造事業(ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスのインターンシップ事業)のメンターとして関わり、四国の学生と地域企業とのマッチング・コーディネート活動に携わる。また、四国経済産業局主催の企業向けセミナーにおいて、コーディネーターとして参加。2011年3月から、東北での支援活動「つなプロ」に参画し、エリアマネージャーとして、現地にて地域住民の生活サポート、ボランティアスタッフのコーディネート活動のほか、同年6月より、ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスの復興支援インターンシップ事業である、岩手県陸前高田市で行われたT-ACT事業にも参画し、現地ディレクターとして、50名を超える学生を受入れ、地域再生プロジェクトのコーディネート活動を行っている。2014年、ネパールの地震復興支援活動を行う。2016年2月より徳島大学特別准教授・COC+推進コーディネーターとして、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC+事業)」に携わる。
河崎 妙子	かわさき たえこ	(有)河崎妙子事務所	有限会社 河崎妙子事務所はコンセプト作り、店舗レイアウト、メニュー開発、スタッフ教育、広報活動など、1店舗を立ち上げるためのノウハウを提供。特に女性の立場から見た店舗のプロデュースやメニュー開発を得意としています。主な活動範囲は、 ①「食」に関すること→食材研究、商品開発、人材教育、料理講習会の実施等 ②「観光・交流」に関すること→コンセプトに合わせた商品開発、店舗の立ち上げ等 ③「学び」に関すること→食材研究、ワイン、チーズ、スパイス等の使い方や知識についての勉強会を実施、薬膳料理の勉強会等、各地の食材を生かした幅広い講習会を実施
河部 眞弓	かわべ まゆみ	音楽で地域を元気に！ KAWAVEX・石州犬研究会	1空き家活用・定住促進 2コミュニティ・ビジネス□□開発支援 3地域マーケティング□ 特産品開発 4地域のIT化促進、ネット通販 5交流促進、田舎ツーリズム、□ これらの現場での活動を通して痛感する今後の地域振興課題や解決のポイントなどを歌詞にして楽曲を製作し「Kawavex」としてトーク&ライブ活動も行なっています。(例)Uタngo(定住促進はUターンしたその後が重要)・空き家のロッケンロール(全国820万個超の空家の嘆き)・このままでエンカ！(少子高齢化、人口減少、本当にこのままで、ええんか?)・地場サンバ(地場産業をマーケティングして地域を世界に売り込もう!)等
川村 一司	かわむら かずし	株式会社 パレスホテル 東京	1)2016年から2019年度 経済産業省関東経済局「ホテルコンシェルジュによる地域魅力発見・発信事業」アドバイザー 2)2018年10月17日 小布施文化観光協会創立70周年記念行事「パネルディスカッション、パネリスト 3)2018年7月 東京都労働局「おもてなし親善大使育成事業」ホスピタリティー研修、講師
菊池 新一	きくち しんいち	特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク	遠野のグリーン・ツーリズム研究会の立ち上げから、今日までグリーンツーリズムの振興に関わる。ふるさと公社では、道の駅「遠野風の丘」の立ち上げ、コミュニティビジネスの振興に関わる。商工観光課では、コミュニティビジネスを取り入れた、ショッピングセンターの再生に関わる。現在、震災の被災地や東北各地においてソーシャルビジネスの立ち上げをキーワードに、農家民宿、農家レストラン、産地直売所、農産物の加工など、六次産業化や農商工連携の起業支援を行っている。また、グリーンツーリズムの実践、着地型旅行業への参入などを行っている。
岸川 政之	きしかわ まさゆき	百五銀行/皇學館大学/(一社)未来の大人応援プロジェクト	三重県多気町にある相可高等学校食物調理科調理クラブが運営する高校生レストラン「まごの店」やその先輩が運営する惣菜とお弁当の店、(株)相可フードネット「せんばいの店」など、コミュニティビジネスの手法を取り入れた地域おこしに取り組む。これらの取り組みは、国土交通省ふるさと手づくり賞大賞、総務大臣優秀賞など多くの賞を受賞し、2011年5月からは「高校生レストラン」と題しテレビドラマ化もされ話題を呼んでいる。 また、高校生などの若者(未来の大人)たちと地域ビジネス創出事業(Social Business Project、略称:SBP)にも取り組んでいる。SBPは、地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していこうというもの。具体的には、自分たちのまちの地域資源(ひと、モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業等)と交流し、見直し、活用して「まちづくり」や「ビジネス」を提案していく。そして、その取組を地域で応援し支えていこうというもの。高校生レストラン「まごの店」等を先進事例に、2013年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のSBPを立ち上げ、その後このような地域に根ざした取組が全国に広がっている。そして、SBP活動に取り組む高校生が集い研鑽する「全国高校生交流フェア」は、2017年から文部科学省の共催事業となっている。 現在は地方の活性化をテーマに、全国各地で「まちづくり」、「商品開発」、「生き方・考え方のヒント」などをテーマにした講演やワークショップも多数開催するとともに、市町村、NPOなどのアドバイザーとしても活躍している。
木田 悟	きだ さとる	(一財)日本スポーツコミッション	●設立目的 (一財)日本スポーツコミッションは、スポーツをまちづくりや地域の活性化の手段として捉え、スポーツの有する多様な機能を活用したまちづくりや地域の活性化に資する調査研究や関連諸活動を行うことを目的として設立しました。 ●活動内容 ・各種スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する調査研究:自治体等からの調査等の受託 ・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資するセミナー・研究会の開催:スポーツコミッション研究会・サイクリズム推進研究会の開催 ・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する本・冊子等の発行 ・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する会員事業:スポーツコミッション連絡協議会の運営 ・商標である「スポーツコミッション」の的確な使用に向けた講演や執筆活動等の実施

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
北尾 洋二	きたお ようじ	株式会社ザメディアジョン・リージョナル／大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科	<p>「地域のために、地域を越えて」及び「新卒採用で地方創生」をミッションとした、新しいタイプの「創職」サポート「ジョブメーカー」として日々活動しています。メディアのアレンジメントから出版・広告代理・編集プロダクション、まちづくりコーディネート・社会調査、ワークライフバランス、男女共同参画推進、障害者雇用支援、新卒採用支援に至るまで、地域活性化から企業活性化までをカバーします。「ご縁と感謝の経営」を軸にしなが、「ひとつづくり まちづくり くにつくり」をモットーに活動を展開しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域活性化と発展は「雇用・就職」から／学生、企業、地域社会の立場をしっかりと理解し、お互いの納得度を高める就職支援と企業の採用支援(採用ノウハウの提供、経営指導など)、そして地域コミュニティとしての場づくりを行なっています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、厚生労働省「地域人づくり事業」、鳥根県庁、山口県庁、大阪府大阪市、岡山県岡山市、山口県山口市・下関市・岩国市、鳥根県益田市など)</li> <li>● 地域資源の掘り起こしを「若者目線」で／アクティブラーニング(サービスマーケティング)の手法を用いたフィールドワークで、地域の課題を若者目線で改善提案。「連携」という言葉の枠を越え、地域づくりを展開しています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、厚生労働省「地域人づくり事業」、日本環境協会「いきものみつけファーム」及び「こどもエコクラブ」、各自治体「まちづくり講演会」、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS/facebook, twitter, Instagramなど)を活用した情報発信事業及びイベント企画、SNSに関する利用実態調査、地域の魅力度調査、大分県竹田市・豊後高田市・姫島村、山口県山口市・下関市・宇部市、鳥根県江津市、高知県宿毛市、宮崎県串間市、山口銀行・山口フィナンシャルグループなど)</li> <li>● 地域の歴史をテーマとした研究活動、魅力発見及び研修事業展開／歴史街道・救済散策マップ実行委員会、夢街道ルネサンス、知覧研修、萩・松下村塾をテーマとした現地調査活動、月刊松下村塾・月刊高杉晋作・龍馬と長州等の歴史ムック発刊とプロモーション、日本風景街道などの調査研究及び産学連携のフィールドワークを実施しています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、鹿児島県南九州市、山口県周南市・萩市・山口市・防府市・下関市、宮崎県串間市など)</li> </ul>
北野 尚人	きたの ひさと	広島経済大学 メディアビジネス学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域絆と東京鮮度」をモットーに、マーケティングやコミュニケーションの知識・ノウハウを活かし、地方都市ならではの情報や時間面での真の豊かさの実現支援に向けて活動中。</li> <li>・今街中で起こっていることが分かれば、すぐに駆けつけられるサイズのコンパクトシティだからこそできること、ワークライフバランスの良さをどう生かすかを模索中。</li> <li>・情報堂のブランディング・ノウハウを活用した「地ブランド構築」支援活動も展開中。特に、最近では、農産物や水産物のブランド化、地方都市のブランド化、地方ならではの「食」のブランド化、等に関してもチャレンジ中。</li> <li>・「瀬戸内海」と「中国山地」「山陰地域」の魅力の棚卸しを、辛口の他者視点に立って推進中。</li> <li>・大学へ移ってからは、マーケティング、コミュニケーション、メディア、広告、広報、ブランディング等を研究。</li> <li>・学生に対しては、従来の常識に捉われない柔軟な発想で、物事を見つめ考えることを指導。</li> </ul>
北村 省一	きたむら しょういち	株式会社サイテック	<p>【地域産業支援】情報社会における企業のファインダビリティ(見つけてもらうこと)をテーマに、企業活動の存在を知ってもらう基盤づくり(Smart-PR等)、集客事業戦略を中心に取組んでいます。具体的には、チラシづくり、メディア活用を提案し、売上げ直結の支援を目指しています。</p> <p>【地域づくり(人材育成・産業振興)】80年代後半、経済成長が鈍化する中、地域振興(人材育成、産業振興)等の観点から公立等の大学づくりが熱心に行われてきました。福岡県、広島市、神戸市、滋賀県、兵庫県、和歌山県などで大学整備に向けた企画提案、構想づくりのお手伝いして参りました。中でも、広島市立大学や滋賀県立大学が設立され、地域に根差す先進的な大学となっています。</p> <p>【自然資源調査】各地の河川整備に伴う自然環境調査、福岡の那珂川、和歌山の日置川(河川水辺の国勢調査)などでは魚介類調査を行い、地域資源とその活用環境について明らかにし保全と創造の方向を提案しました。平成24年には高浜町の産業振興のため、青葉山の植 物調査を行い、有用植物の選出を行い、植物資源を活用した事業提案をしました。</p>
吉川 真嗣	きっかわ しんじ	村上町屋商人会／チーム黒塚プロジェクト／むらかみ町屋再生プロジェクト	<p>新潟県村上市は歴史ある城下町。平成9年、大規模な近代化計画が浮上。この中、町を守るための活動を開始した。それまで日陰の存在だった村上の古い町屋のもつ価値に光を当てる取り組みだった。町屋を活かし街の賑わいを取り戻せばきつと近代化を食い止めることができると思ったのだ。平成10年、生活空間である江戸や明治の町屋の内部が村上の財産だと確信し、生活空間である町屋の公開を22軒で始めた。話題を呼び、それまでゼロだった旅人が町に訪れ変化が起こる。更に2年後、タイムスリップしたような町屋の中に人形や屏風を展示して公開する「町屋の人形さま巡り」町屋の屏風まつりを企画し、旧町人町の町屋60軒で開催。一年を通し全国から30万人が訪れる町になる。しかしなおも近代化が推進されようとするその中、平成14年、市民自ら村上のあるべき姿を示そうと歴史的景観作りを開始。「黒塚1枚1000円運動」を行い、ブロック塀だった塀を市民の力で黒塚に変える「黒塚プロジェクト」を行う。これまでに460mの黒塚が完成した。平成16年、町屋再生プロジェクトを開始、町屋再生のための市民基金をつくり町屋の外観の再生を開始した。平成26年からは空家の再生も手がけ、市民による全国で初めての取り組みで外観再生、空家再生あわせて現在41軒が再生。街は徐々に城下町の風情を取り戻しつつあり、一年を通しての街の活性化につながってきている。一人から始めた取り組みだが、仲間ができ、やがて組織を成し、そして事を起こし、逆境の中にあつて、市民の意識を変えながら町を動かす強力な運動体へと発展した。行政に頼らない市民主導のまちづくりとして、全国から注目を集めている。</p>
衣笠 愛之	きぬがさ よしゆき	(有)夢前夢工房 (株)兵庫大地の会	<p>平成6年 ・農業規模拡大を決意する(専業農家へ)</p> <p>7年 ・経営改善計画認定取得する(認定農業者)・無農薬栽培本格的にはじめる</p> <p>9年 ・生きがい農園を主催する</p> <p>11年 ・農業生産法人設立 ・夢そば作付け開始 ・小学校農業体験に関わる</p> <p>12年 ・青空市場「夢」設立 ・夢そば推進協議会を結成する</p> <p>15年 ・特定農業生産法人認定される ・夢そば乾麺完成 ・ひょうご安心ブランド取得(無農薬認定)</p> <p>17年 ・新規就農研修施設「夢工房」を設立する</p> <p>18年 ・環境創造型農業兵庫モデル地区に認定される(10ha)</p> <p>20年 ・食育アドバイザー指導を始める ・第1回田んぼアートを開催 ・地元スーパーとの連携開始</p> <p>21年 ・姫路市夢さき夢のさとの指定管理者になる(夢やかた)・農家レストラン「夢工房」オープン</p> <p>22年 ・産官学連携商品開発への取り組み、米粉食品指導員免許取得((財)日本穀物検定協会)</p> <p>23年 ・6次化法認定(農林水産省)、食と地域の交流推進事業認定(平成23~24年)</p> <p>24年~25年・イチゴハウス(37a)、直売所「夢街道farm67」開設</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
木下 斉	きのした ひとし	一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス	<p>「地域の中心的なチームを組織して新たな事業を創り、その事業経営を通じて地域の抱える経済的・社会的課題を解決するのが、私のスタンスです。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1998年、早稲田商店会における環境を切り口とした商店街活性化に参画。「エコステーション」の運営を通じて、1999年より全国リサイクル商店街サミットを開催(現在までに全国で13回開催)。さらにネットを活用した情報共有を行い、2000年度新語流行語大賞「IT革命」受賞。</li> <li>・2008年には熊本市内における不動産価値の向上を目指し、熊本城東マネジメント株式会社を設立。不動産・店舗経営にかかる契約を一本化にすることでコスト削減と業務品質改善、まちづくり基金の創出する、エリア・フアシリティ・マネジメント事業を立ち上げる。現在、北海道から九州まで全国各地で同様の事業を立ち上げている。</li> <li>・2009年には全国各地の事業型まち会社とそれを共同で推進する民間企業や専門家によるアライアンス団体、一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンスを設立。現在11都市のまち会社が加盟し、共同で事業開発を推進している。</li> <li>・2011年からは、エリア・イノベーション・アライアンスにおいて、新たな事業開発プログラムである「エリア・イノベーターズ・ブートキャンプ」を定期開催。全国から参加者が集まり、事業開発に取り組み、成果を挙げている。さらに、インターネットを活用した事業プログラム販売などのプラットフォーム開発にも着手、まち会社が物理的な制約を越えられるよう、オンラインでの事業開発・経営推進を図っている。</li> <li>・2013年には公民連携事業を推進した実績から、地域活性化伝道師を務めるアフターヌーンソーサエティの清水氏、CRA合同会社の岡崎氏と共に一般社団法人公民連携事業機構を設立し理事を務める。同社では2015年より東北工大と提携し、公民連携プロフェッショナルスクールを開校し、自治体、民間横断での全国的な公民連携事業家の育成に当たり、既に全国で30以上の公民連携によるまちづくり事業の立ち上げにつなげている。さらに今年からは都市経営プロフェッショナルスクールへと進化させ、幅広い都市経営課題解決に対応する。インターネットと実地研修を組み合わせ、現場をもつ人々が互いに他の地域をもサポートできる体制をつくりあげることで、自立した地域づくりをサポートする。</li> </ul>
木村 博司	きむら ひろし	Code for MIKAWA / 株式会社ウェブインパクト	<p>オープンデータをはじめ、ITテクノロジーを活用を通して、地域活性化に繋がる活動を多岐にわたり取り組んでいます。詳しくは、<a href="https://uzura.org/">https://uzura.org/</a>、及び、下記の著書を御覧願います。 世界初のオープンデータ漫画『まち想い! シブすぎオープンデータ&amp;どうぞいシビクテック』 <a href="https://drive.google.com/file/d/1ybUUr8EE2F49SVsU1M0FT5SDcKc0Mya/view?usp=sharing">https://drive.google.com/file/d/1ybUUr8EE2F49SVsU1M0FT5SDcKc0Mya/view?usp=sharing</a></p>
木本 圭一	きもと けいいち	関西学院大学国際学部	<p>&lt;地域における活性化プロジェクト&gt; 2004年(平成16年)9月 文部科学省現代的教育ニーズ支援プログラム(地域活性化への貢献) 関西学院大学申請プログラム(学生による「劇場空間・宝塚」の都市再生)推進責任者(2007年3月まで)。地域の活性化を産官学連携で行う取組。授業責任者として平成26年3月まで担当。 2014年(平成26年)6月 兵庫県南県民センター 大学生による都市型ツーリズム推進事業によって、「関西学院大学・日本酒振興プロジェクト」を西宮郷の酒造メーカーと連携して推進。</p> <p>&lt;産官学連携による人材育成プロジェクト&gt; 2007年(平成19年)8月 文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム、関関同立共同申請プログラム「団塊世代が活躍するための地域貢献型社会起業家養成プログラム」の申請代表者・事業担当者(2010年3月まで)。 2008年(平成20年)10月 経済産業省「産学連携人材育成事業(産学人材育成パートナーシップ「経営・管理人材分科会」)プログラム開発・実証」、関西社会人大学院連合申請プログラム「国際競争を勝ち抜く次世代経営リーダー養成プログラムーアジア現地経営トップ養成ー」プログラムコーディネータ(2011年3月まで)。 2011年(平成23年)11月 大阪市からアジアビジネス研究センターへの委託事業「大学・大学院ネットワークを活用した人材育成力強化事業」プログラムコーディネータ(2014年3月まで)。</p>
久保 智	くぼ さとし	プロジェクト熊野	<p>熊野市役所在職中は、地域資源を活用した特産品開発として「さんま醤油(魚醤)」や「どぶろく」など新たな特産品の開発に関わる外、直販や異業種連携、ローカルネットを活用した地域産品の新たな販路を開拓してきた。 また、漁業の再活性化を図るため、安全安心の水産物生産や販路開拓についてハード・ソフト両面から取り組みを行った。</p> <p>個人の取り組みとしては、女性・中高齢者を社会資源と捉えたコミュニティビジネスの振興に関わる外、園芸による社会弱者の社会参加を支援する「くまの園芸福祉倶楽部」に参加してきた。 1998年からは都市と大学と村とをネットワーク(村都連携・村学連携)する「プロジェクトくまの」の現地世話人として活動している。</p>
久保田 良和	くぼた よしかず	稲倉の棚田保存会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な主体が関わる地域のまとめ役を担っている</li> <li>稲倉は、H11に棚田百選に認定されたことをきっかけに、自治会を中心とした「稲倉の保全と活性化をすすめる会」(現在の稲倉の棚田保存会)が発足し、地域おこし協力隊も導入しながら、棚田米の酒米としてのブランディングなどに取り組む。地域おこし協力隊等が設立したNPO法人まもりが運営する「棚田CAMP」等のアクティビティと連携しながら地域振興を図っている。</li> <li>・岡崎酒蔵(株)が「信州亀輪 稲倉の棚田産ひとごち純米吟醸」を醸造・発売。酒蔵イチ推しの人気銘柄となる</li> </ul>
熊倉 浩靖	くまくら ひろやす	高崎商科大学	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)市町村、小学校区等を単位とした地域づくりを歴史・文化資源を活かして支援</li> <li>(2)市町村総合計画・総合戦略の策定・進捗管理の策定・推進をアドバイス</li> <li>(3)市町村行政評価・経営改革をベンチャーマーケティング手法で分析・支援</li> </ol>
栗原 秀人	くりはら ひでと	下水道広報プラットフォーム	<p>「水の価値」は用水供給の他、街並み形成と品格、癒しと遊び、生態系保全、産業・観光などの地域産業等々多面的に及びます。一方で、災害、濁水、水質汚濁等々の水の脅威も私たちを取り巻いています。先人たちの「水の脅威」と闘いながら、「水の恵み」を得続けるための累々とした努力の積み重ねの上に、今日の私たちの暮らしや地域社会が育まれています。「水」は地域の宝ですが、ややもすれば豊かさや便利さの中で、そのことを忘れてしまい、水辺からも遠ざかってしまいがちです。何もなくても「水の恵み」が得続けられると思っているかもしれません。改めて、地域の皆さんと一緒に、現地踏査、ワークショップ、パネルディスカッション等の参加型・協働型取り組みを行い、①地域ごとの『水の脅威』と『水の恵み』の再確認 ②先人達が残した有形無形の『水遺産探し＝地域の宝探し』 ③『水を上手に付き合うこれからの街づくりの姿、目標像の共有(水辺づくり、水に強い街づくり、水を活かしたまちづくり、循環型社会づくり等々)』 ④目標の実現を目指した公共・市民等のそれぞれの行動計画(加害者と被害者等の立場を踏まえた協働・参画、責任と役割分担等)等を明らかにし、地域総ぐるみ活動を展開していきます。中でも、「下水道の価値と機能」を活かした新しい水環境づくりや下水道と一体となった農林水産業の展開による地域づくりを取りまとめていけたらと思っています。</p>
古賀 方子	こが まさこ	特定非営利活動法人 全国街道交流会議	<p>「全国街道交流会議」には、街道や歴史文化を活用して地域づくり、交流・連携に取り組む全国の自治体、民間団体、個人が参画している。全国大会の開催やまちづくり情報の共同発進などを通じてネットワーク化を進めるとともに、国、県、市区町村、住民間の連携をコーディネート。「往來再生」と「地域の自立」をテーマに、各地で官民協働によるまちおこし、まちおこし事業に取り組んでいる。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
古川 充	こがわ みつる	古川行成書士事務所/地域経営コンサル 合同会社なるさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県庁から人口2000人の小さな君田村役場に転職する。</li> <li>・1996年から宿泊、温泉などを備えた道の駅整備による村づくりを担当し、15年間事業の責任者を担う。住民240人の第3セクター経営により、年間利用者25万人の地域振興の拠点施設として持続経営の展開の基盤づくりを行なう。経営に従事する中で、収益の一部を村役場に5億3千5百万円の寄付を行なう。これを、村は、将来の施設修繕に充てる基金化する。</li> <li>・事務局や責任者として仕掛け続けた、組織、集落が下記を選奨</li> <li>・2000年 地域住民が連携した農村振興が認められ「豊かな村づくり賞農林水産大臣賞」</li> <li>・2004年 道の駅を核とした地域振興が認められ「立ち上がる農山漁村」に選定</li> <li>・2016年 中山間直接支払活動が評価され「中四国農政局長表彰最優秀賞」</li> <li>・地域振興組織が持続可能な取り組み方策の選択として、組織の法人化、組織運営の指導</li> <li>・第3セクター経営の改善支援</li> <li>・2004年 「地域産業担い手たち・地域ビジネスリーダー」(経済産業省中国経済産業局)</li> </ul>
児嶋 秀平	こじま しゅうへい	正林国際特許商標事務所	<p>経産省や警察での多様な公職経験も活かし、二級知的財産管理技能士として知財戦略、地域ブランド戦略等に取り組んでいます。</p>
小島 大	こじま だい	ささつな自治体協議会	<p>全国各地の40数人の首長陣が集う、ささつな(ささえる・つながる)自治体協議会の議長・事務局として、会員自治体を中心とした住民の皆様への生活に貢献・寄与する事を目的とし、都内の大学の教授陣や自治体職員と連携して、首長陣を中心とした交流促進のための意見交換会、勉強会、懇親会等の開催などにより、地域を超えた複数の自治体間で締結しました防災協定を主な活動として自治体支援活動に取り組んでいます。</p> <p>同時に、会員自治体の道の駅等の商業施設を連携させること等により、スケールメリットを活用させることで、地域産業の振興、特産品の販売等による地域経済の活性化活動に寄与して参りたいと思います。また地元大学の教授陣と研究会を開催しての農業・教育分野を中心としたまちづくり推進支援活動と共に、ささつな自治体協議会と連携しております大手企業陣の集い、ささつなCSR協議会の企業メンバーと協働することで、ささつな自治体協議会の会員自治体様を中心に多岐な分野において自治体支援事業を行って参りたいと思います。</p>
小島 玉雄	こじま たまお	サン・アクト株式会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の貴重樹木や天然記念物の診断や回復を通じた地域資源の保全、地域活性化。</li> <li>・サクラの樹勢回復による観光地の名所の保全、地域活性化。</li> <li>・サクラでは、各種メディアへ取り上げられ、数多くの観光客が訪れる事例を多数有する。</li> <li>・樹木の診断技術開発を産官学連携で行い、地域再生に繋がる仕組みを多数構築。</li> <li>・京都大学等、大学と連携したプロジェクトを実施し、地域に貢献する仕組みづくりの構築。</li> <li>・各種メディアや企業との連携により、地域の再生・活性化に繋がる仕組みづくりの構築。</li> <li>・サクラを活用した地域コミュニティの再生、活性化。</li> <li>・樹木再生だけでなく、対象地域の活性化・立ち上げ支援。</li> </ul>
小島 光治	こじま みつはる	ユーエンタープライズ株式会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20年以上、雑誌社の発行人として従事したため、広島都市部のまちづくりを提案し、官民一体のムーブメントを組織し、そのいくつかを実現。ーライトアップキャンペーン、水上バス運行推進、地元商店街振興ー</li> <li>・中国地方整備局、中経連が推進する「夢街道ルネサンス」の推進会議の委員として認定箇所(現在46箇所)の「地域活性化まちづくり」を指導。</li> <li>・国土交通省道路局の「社会実験推進に関する懇談会」委員として全国各地の採択箇所を視察、指導。</li> </ul>
小島 由光	こじま よしみつ	株式会社スーパーソニック / 五島列島水産流通株式会社	<p>第3次産業(流通・外食マーケティング)の目線で第1次産業、第2次産業を結びつける6次産業化を実現。地域の特産品を見出し、川下の流通戦略をもって生産物が流通</p> <p>し、地域活性化に繋がる仕組み構築を行います。第1次産業…地域活性化支援事業 農産物・水産物のブランディング及び流通提案。第2次産業…地域特産品の消費マーケットニーズ、ターゲティングを踏まえた商品開発提案。第3次産業…流通、外食事業コンサルティング、経営分析。●水産物(鮮魚)の産地直送の仕組み構築による目詰まり解消を行う。飲食店への直接 流通によって生産者の収入高と購入者の仕入れコスト削減を実現、また産地直送により最短時間で届くため鮮度保持が向上し、多くの水産物流通につながる。(五島列島水産流通) ●地域活性化に伴う地元主体組織構築と特産品開発、ブランディングにより産地消型消費構造から地産地消に拡大。地域の知名度向上と特産品販売増を実施。(久賀島 ファーム) ●千葉県鴨川市の海辺のエリアにおけるまちづくり計画のプロジェクトマネジメント業務、総合交流ターミナルを中心とした地域グランドデザイン基本設計を行う。(まちづくり計画) ●鹿児島空港の飲食施設基本コンセプト計画及び県産品の商品開発により6次産業化を行い販路拡大及び店舗のコンサルティングを行う。</p>
古関 和典	こせき かずのり	株式会社JTB外商部	<p>映画・映像を活用した地域活性化事業の推進。(主な事業実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クールジャパン推進事業(自治体連携により、アニメの「聖地」の中国へのプロモーションならびに誘客事業)経済産業省</li> <li>・映画「Railways」を活用した富山県のプロモーション事業(富山県観光連盟)</li> <li>・映画「天心」を活用した映画連携復興支援事業(茨城県)</li> <li>・映画「銀の匙」を活用した帯広市プロモーション事業(北海道帯広市)</li> <li>・日台合作映画「南風」による愛媛県インバウンドプロモーション事業(愛媛県)</li> <li>・連続テレビ小説「まれ」を活用した石川県・能登地方のプロモーション事業(石川県)</li> <li>・ロケ地紹介アプリケーション製作事業(東京都)</li> <li>・映画「半世界」を活用した林業活性化と伊勢志摩地域のプロモーション事業(林野庁協力・三重県)</li> </ul>
後藤 健市	ごとう けんいち	スノーピーク地方創生コンサルティング株式会社	<p>「場所文化」をキーワードに具体的な場の設定に関わり、地元の十勝・帯広では、北の屋台(2001)、スノーフィールドカフェ(2002)、東京では、場所文化フォーラム(2002)、とかちの…(2007)、にっぽんの…(2010)の立ち上げと運営に携わってきた。さらに、まちづくりのさまざまなアイデア実現のために会社・団体を複数設立し、場所の価値を生かした実践活動を行い、全国各地での講演や、地域の元気人材を巻き込んだ活性化事業に携わりながら、コミュニティビジネスやソーシャルビジネス創出の強化に取り組んでいる。また、2010年から海外での活動を開始し、シンガポール、ハワイ、そして極東ロシアなど、アジア&amp;パシフィックエリアの地域との連携を視野に入れた事業に取り組んでいる。地域活性化事業以外として、障害理解とコンプレックスの自覚のためのプログラムを行っており、また、ポケットサイズのカラー点字器を開発し、「名刺に点字を入れる」ボランティア運動も展開している。(カラー点字プレートは98年度のグッドデザイン賞中小企業庁長官特別賞を受賞。)</p>
駒田 健太郎	こまだ けんたろう	コマケンラボ	<p>2016年～ 会津地域インバウンド推進事業(「サムライシティ会津観光再生事業」コーディネーター)</p> <p>2015年～ 栃木県鹿沼市「加蘇芸術村」プロデュース、アートディレクション</p> <p>2015年～ 鹿沼市産梨「こっこりなし」の海外展開プロデュース</p> <p>2013年～2015年 岐阜県白川町エコツーリズム推進業務</p> <p>2013年～ 会津の新しい地域ブランド「ハンサムウーマン」プロデュース(経済産業省補助事業)</p> <p>2013年 会津地域の観光地域づくり事業プロデュース</p> <p>2013年 鹿沼さつき盆栽&amp;組子細工の海外展開プロデュース(経済産業省 クールジャパン事業)</p>
小松 裕介	こまつ ゆうすけ	株式会社スーツ	<p>観光施設の再生を通じた地域活性化にノウハウと実績を有していることから、マーケティング戦略など経営戦略の立案、広報体制の構築、オペレーションの改善、経費の削減、人材の育成やリスクマネジメント体制の構築など、幅広いスキルと経験を地域活性化の現場に活かします。</p> <p>また、公共施設老朽化対策における公民連携分野でのアドバイス経験を有していることから、より多くの人々を「巻き込んだ」仕事の進め方に慣れており、様々なステークホルダーをまとめるリーダーシップとコミュニケーションのノウハウを地域活性化の現場に活かします。</p> <p>具体的には、全国各地の地域振興や観光振興などの課題・問題点に対するアドバイス、コンサルティング、実際の計画立案支援や実行支援などを行います。</p> <p>また、「観光施設の再生」、「企業再生と地方創生」や「経営改革とリーダーシップ」などに関する講演も行います。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
小村 幸司	こむら こうじ	NPO法人小さな村総合研究所	2016年5月、全国各地域で一番小さな7つの村に連携を呼びかけ「小さな村g7サミット」を山梨県丹波山村で初開催し(以降各村で順次開催)、「小さな村」を逆に情報発信に取り組んでいる。地域おこし協力隊(2014年～2017年)時には、調理師専門学校生による「特産品料理コンテスト」、全国公募による「小さな村ビジネスアイデアコンテスト」などユニークな交流事業や情報発信を行う。2017年から、村民の1割にあたる57名ものボランティアドライバーによって「たばやま村民タクシー」(自家用車による有償旅客運送)を山梨県第一号としてスタート、高齢者や訪問客の大切な足となっている。2019年4月からは「丹波山村をはじめとする全国7つの一番小さな村の首都圏拠点事業」に取り組み、首都圏における産官学NPOと7つの小さな村との多様な協働事業をスタート。首都圏と小さな村が抱える双方のニーズや課題解決や補完事業に取り組み。2020年2月からはJR蒲田駅ビル・グランデュオ蒲田内にオフィスを設置、4月から特産品ショップをオープン予定など新たな協働事業に挑む。
小山 舜二	こやま しゅんじ	鞍掛山麓千枚田保存会	かつては約1,300枚の田が広がっていたが、耕作放棄が進行し、373枚まで減少、H3年、50歳の誕生日に四谷の千枚田を「地域の宝」と位置付け保存活動を始動。H9に「鞍掛山麓千枚田保存会」を結成し、保全に向けた取組を続けた結果、420枚まで復旧。多様性に富んだ四谷の千枚田を主役に自然観察会、地元小学校や高校、また、調理製菓専門学校等々の稲作体験学習の実施、企業研修の場として活用するとともに、癒やしを求める外部との交流「お田植感謝の夕べ」～灯そう千枚田～や「収穫感謝祭」を実施。会長として中心的な人物として地域をまとめ、取組を推進している。
西園寺 怜	さいおんじ れい	Team Mercurius	平成28年より3年間、経済産業省関東経済産業局が実施する「地域とホテルコンシェルジュが連携した、新たなインバウンド富裕層獲得のための支援事業」の中で、日英での地域紹介冊子の作成を担当。平成29年、埼玉県秩父市雇用創造協議会において、インバウンドを意識した町歩きタウンマップを作成。平成30年、山梨県富士川地域・身延線沿線観光振興協議会において、インバウンドを意識した観光商品開発およびドライブマップ・ガイドブック等の作成を企画において「観光資源データ化事業」に携わる。山梨県観光プロモーション課において、県内大学の留学生を対象とするSNSを利用した地域情報発信事業の講師を担当。その他、地方の寺社や小規模店舗に対して、インバウンド対応を意識したコンサルティングや商品開発を行う。
斉須 正男	さいす まさお	一茶のこみち美湯の宿	スノーモンキーを中心として山ノ内町の活性化と広域観光によるインバウンド観光の推進と地域の活性化、日本旅館で外国人の誘致地域観光の開発、日本らしさを前面に押し出した。旅館経営(日本文化の凝縮が旅館であり、特に欧米人に温泉文化と街並みを体験しアピールをしてみらう。) 外国人の雇用の拡大 外国人を雇用してお客様に日本の文化を教える町の良さをSNSで発信してもらい、また町の中での消費をして頂くために商店の若旦那、スタッフによる、町内の飲食店及びプチ観光のフリーペーパーの作成(費用についてはスポンサーを集めて作り上げる) 山ノ内町は、(国立公園志賀高原は特別地域になっており) 志賀高原(ユネスコパーク)と連携を取り冬はスノーモンキー志賀高原樹氷とパウダースノーで長期滞在を集めていく。グリーン期は国立公園を中心として志賀草津高原ルートが開通広域観光として東京から日光国立公園口マンチック街道で軽井沢、草津温泉、志賀高原国立公園横手山山頂2307メートルを超え野猿公園、湯田中温泉、中野市のふるさとバラ園、須坂蔵の町飯山伝統工芸、長野善光寺、松本城、山梨富士山伊豆、箱根、東京への広域観光を特に長野軽井沢から長野までの広域ルート国土交通省日本風景街道(シーニックバイウェイジャパン)、観光庁東国大回廊コースに県と共に広域観光の誘客戦略を促進取組んでいます。
齋藤 一成	さいとう かずなり	特定非営利活動法人アンプノ新庄市役所	「商店街活性化三種の神器」の一つ、「100円商店街」を考案。これまでに、全国の128自治体約330商店街に対しそのノウハウを技術供与。最小で5千人未満の町や、商店街の店舗数10店舗未満の地域、様々な災害のあった被災地等でも事業を実施できる汎用性の高さも最大の特徴。 また、必要経費は単色のチラシ代のみというコストパフォーマンスの高さも特徴の一つ。 「商店街の活性化とは、そこに在る個店の収益の増加」との見地から、高い収益性や爆発的な集客力を誇る事業へと進化させている。 全国平均で、1開催地当たりの平均集客数は1万人、来街者の平均購買額は1人@2千円であり、開催地には即日2千万円の経済効果を生むことが可能。 現在でも、100円商店街の導入を希望する地域が後を絶たない。 また、100円商店街から生まれた新たな活性化事業「クーポン券付日めくりカレンダー」も現在、全国の複数の地域で導入が進んでいる。
斉藤 俊幸	さいとう としゆき	イング総合計画株式会社	2003年関東学院大学まちなか研究室追浜こみゆに亭開設に参加(2003年)、有明高専現代GP事業推進(文部科学省2005年)、全国水産高校生徒研究発表大会四国大会で高知海洋高校うるめプロジェクト優勝支援(2009年)、国際教養大学生による高校生向け英語合宿開催(秋田県由利本荘市、総務省地域力創造アドバイザー事業2010年)、千葉県立松尾高校スーパーグローバルハイスクール「地域から考えるグローバル・エイジング研究」(文部科学省2015年)、大阪府立能勢高校スーパーグローバルハイスクール「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究」(文部科学省2015年)、地域活性化センター土日集中セミナー「魅力化による高校の生き残り」と地域活性化」主任講師
酒井 信一郎	さかい しんいちろう	城下町再生志士隊	地域の歴史的建造物の修景計画 ブロック塀を木材を使ったデザインの美装化の現場作業 歴史的建造物を調査して、一般市民に解りやすいよう価値体系づけを行う。
坂本 世津夫	さかもと せつお	愛媛大学 社会連携推進機構	H14年4月からH17年3月まで、愛媛大学にて「地域情報学」(伊予銀行寄附部門)を担当する。H17年4月からH23年3月まで、高知大学国際・地域連携センター教授(生涯学習部門長)。平成26年10月より、愛媛大学社会連携推進機構教授として、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」、「地域の未来をステークホルダーと共に創る実践的人材の育成」に取り組んでいる(愛媛県南予地域担当の、地域連携コーディネーター)。その他、日本の情報化を、地域という視点で見直し、地域における「知的能力」と「コミュニケーション能力」を高めることにより、新たな産業集積や地域の活性化(地域の自立)が実現できないか、研究・実践している。 APPLIC(一般財団法人 全国地域情報化推進協会)の「ICT地域イノベーション委員会」でアドバイザーを務めている他、四国のICT活用促進、ICT地域イノベーション、ICT人材育成に取り組んでいる。 平成15年9月、「地域産業おこしに燃える人」(内閣官房・経済産業省)に選定される(小泉総理より、首相官邸にて)。平成19年3月、内閣官房より「地域活性化伝道師」にも選定される。地域情報化アドバイザー(総務省委嘱)、四国情報通信懇談会、日本テレワーク協会(アドバイザー)、ICT地域マネージャー(総務省委嘱)、現代龍馬学会 他
佐々倉 玲於	ささくら れお	一般社団法人いなかパイプ	高知県・四万十川流域に暮らしながら、「いなか」と「とかい」をつなげる事業開発&人材育成に取り組んでいます。海・山・川的一次産業の再生に向けて、農家さんと漁師さんたちとインターンシップ事業や起業家育成の事業に取り組んだり、商品開発や観光開発に関わるワークショップの企画運営を行っています。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
笹原 司朗	ささはら もりあき	まちづくり役場	<p>明治33年、滋賀県長浜市の中心市街地に第百三十銀行長浜支店が建てられ、黒漆喰の外観から「黒壁銀行」という愛称で親しまれた。昭和40年代までは活況であったがモータリゼーションの発展や郊外型大型店の進出により中心市街地は急速に衰退していった。昭和27年から黒壁銀行はカトリック教会として使用されていたが、商店街の衰退とともに郊外への移転を余儀なくされ建物を売却した。建物が売却されたことで長浜市より要請を受け、昭和63年4月、長浜市(出資4,000万円)と地元企業8社(合計出資9,000万円)による第三セクター「株式会社黒壁」を設立。建物の保存と活用を目的とし事業を模索する中、「ヨーロッパでガラスを制作している所には人が集まる」という役員の一言でガラス事業の研究を提案。建物を含む「歴史性」祭りを含めた「文化芸術性」、「国際性」豊かなものを内在するガラス文化事業の推進を図る。平成元年7月1日、黒壁銀行を「黒壁ガラス館」としてガラス工房、レストランとともにオープン。来場者数の増加に伴い施設の拡張が必要となった折、長浜市の調査で黒壁ガラス館の横を通る北国街道沿いには江戸から明治にかけての商家や町屋が多く残っていることが分かりこれらを活用した事業展開を行う。現在、黒壁スクエアは約23店舗となり年間180万人の来場者で賑わう。</p>
佐藤 安紀子	さとう あきこ	NPO海のくに・日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業と食文化について考えるシンポジウムの開催(1993年～)</li> <li>・漁村の女性と都市部の女性の交流活動「浜のかあさんと語ろう会」(1996年～)</li> <li>・小学生と漁村が交流する海彦クラブ活動(2000年～2011年)</li> <li>・小学生が離島取材するわれは海の子活動(2012年～)</li> <li>・水産の意義を伝える本の制作、発行「クジラから世界が見える」</li> <li>・モロッコからナミビアまで西アフリカ22カ国の女性漁業者ネットワークを対象に、日本のすり身文化を伝えるワークショップ活動を連続実施(2011年～)。アフリカ開発会議にもアフリカの女性たちとともに参加し漁業の重要性を発信。</li> </ul>
佐藤 太紀	さとう たいき	株式会社エフエムもえる／株式会社コササル／留萌観光連盟／一般社団法人日本コミュニティ放送協会	<p>一人で口多くの地域住民が地域のことを「自分事化」でることを口目的としている。またこの活動を通じ口地域の人・経済の活性を目指す。</p> <p>・コミュニティFMラジオの局「株式会社エフエムもえる」地域の住民が主体的に関わる仕組みを構築し、1000人を超えるメンバーがクラブ100人のポリティィアパーソナリティ10人の運営委員会によって運営。住民が自主的に地域情報を集め、制作して放送する。365日24時間放送。放送を通じ口発言に権限と責任を持たせることで口批評家でなく口主体的にまちに関わる人を増やす。2019年より全国322局が加盟する日本コミュニティ放送協会代表理事に就任。</p> <p>・情報ツールの開発、運営 住民主導のフリーペーパーE口、観光ポータルサイト、8市町村のつながる 手書きマップ、8つのゆるキャラが合体するフルCGアニメーション、地域食材をメディアと口捉えたコミュニティカフェテリアなど、連携により強い地域</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
篠原 靖	しのはら やすし	跡見学園女子大学	小職は約30年間に渡り、大手旅行会社で商品開発やマーケティング業務を行う一方、地域素材を活かした数々の着地型旅行商品をヒットさせて来ました。現在は大学で「観光地域活性化」に関する教鞭をとる一方、その土地にしか無い観光資源の発掘とリメイクを行いながら新たな観光誘客に必要な受け入れ態勢の整備(日本版DMOの構築)のお手伝いをしております。地方創生戦略で新たに注目を集めているのは交流人口を拡大し地域の小さな経済を回す新しい概念の観光による地域活性化の手法です。観光は今や農業、漁業や商業、工業など地域力を総結集して地域の魅力を120%創出する事が求められています。一方インバウンド観光客は2000万時代を迎え訪日外国人旅行者の消費額は3兆円を突破しました。しかし課題は外国人観光客の地方分散です。こうした新たな流れの中で全国の市町村においても出来る対策を今から準備する必要に迫られています。しかし多くの地域は一生懸命に取り組んではいるものの、残念な事に空回りしている地域が大変多いのが現状です。全国各地で実践してきた現場の成功事例、失敗事例をベースしながら、『自分の地域を本当に何とかしたい!!』という熱い皆さんの地域を応援していきます。
四宮 博	しのみや ひろし	洞爺湖温泉利用協同組合	平成17年静岡県伊豆の国市伊豆長岡温泉の温泉供給施設の老朽化に伴い、温泉集中管理施設整備事業の設計管理に関わり温泉資源の見える化による資源保護と省エネ型供給施設の構築を実施した。また平成22年鳥取県米子市皆生温泉の温泉供給施設の一步進んだ集中管理施設整備のプランニング設計を構築。平成23年長野県安曇野市穂高温泉西穂高地区の温泉供給施設のエネルギー利用効率向上の技術指導を行った。平成25年岩手県盛岡市繋温泉が集中豪雨により温泉供給施設に被害を受け、復旧計画書を作成及び復旧事業支援を行う。令和元年度伊豆長岡温泉事業協同組合の温泉供給施設の効率化による省CO2促進事業の技術指導(温泉熱利用計画や電気設備(インバーター設備に更新)の利用効率向上など職員の技術向上に関するアドバイス指導)
柴田 いづみ	しばた いづみ	結まちづくり研究所・柴田いづみ まちなか研究室/SKM設計計 画事務所	主な取組 1 環境 → 内湖再生の基礎調査 琵琶湖の内湖再生の為の活動。 2 中心市街地活性化 → 学生サークルACT(Action Connect with Town)との空きビルを使った中心市街地拠点活動。 3 まちづくり → (主に滋賀)NPO彦根景観フォーラム副理事長として、又、LLPひこね街の駅等での活動。歴史・景観・まちづくりフォーラム実行委員長。大学より拠点をまちなかに移し、地域に密着したまちづくりに取り組む。重要伝統的建造物保存地区(文化庁選定)の景観計画、交通計画、建物の修景計画等のアドバイス。(東京)目白まちづくり倶楽部で各種活動。 4 耐震・防災 → NPO東京いのちのポータルサイト理事として、各方面に提言。防災・耐震・まちづくりフォーラム実行委員長、木造伝統構法の耐震事例づくり。
鳥谷 留美子	しまたに るみこ	(株)東北地域環境研究室	各地の観光調査、道の駅など地域の交流拠点施設等の企画、計画づくりにかかわっております。これまで岩手県平泉町の世界遺産登録に向けた観光まちづくり調査、宮城県大崎市、石巻市、秋田県横手市、山形県米沢市の道の駅建設事業、青森県東通村などの観光調査、農水産物直売所等建設計画などのお手伝いをさせて頂きました。平成23年度には、東北7県(新潟県を含む)の農山村の女性起業家の動向を調査し、起業をめざしたきっかけ、困難にぶつかったときにどう乗り越えたのか、事業を継続する上でのポイント、これからの目標等についてインタビューを行ってまとめました。地域の皆様とともに考え、課題を解決していくことを心がけております。
志村 尚一	しむら しょういち	有限会社ウィルビー/株式会社 源喜舎/劇団げんとようようくらぶ	「一人一人のキラめきが輝く未来をつくりだす」をモットーに、資源の発掘と活用の仕方、住民一人一人が人材(役に立つ人)となれるような人材育成を、地域に密着して指導・アドバイスを行っている。これまで指導した地域の方々からは、「自分達が気づいていなかった地域の可能性に気づかされ、実践方法も具体的にアドバイスしてくれるので、確実に成果が上がる」との声をいただいている。 現在、岩手県西和賀町の産業公社・湯田牛乳公社の相談役として就任し9年目、令和元年より花巻市東町第三セクターのコンサルタントも務めている。人材育成と、所得と雇用の確保を目的に、6次産業と相乗効果を生み出す協働という手段を用いながら、地元の資源を生かした産業振興を推進している。 平成23年から、三陸の震災被災地で地域コミュニティ再生・復興のための支援活動(延650回)を行っている。そのほかにも、全国各地で「6次産業化」「農林水産業」「教育」「福祉」「人材育成」など幅広いテーマで、講演・研修を行っている。また、自身が主宰する劇団「げんとようようくらぶ」は、「介護保険」などをはじめとする様々な課題を題材にした演劇を全国各地で多数上演。他にも、「市民憲章運動推進全国大会」「全国農業青年交換大会」「農山漁村女性の日記念の集い」などで、記念講演や演劇公演を行う。 平成29年からは、行政や地域の依頼を受けて、「共生型地域コミュニティ」や「地域包括ケアシステム」の構築につながる住民の意識改革・行動改革を目的とした講演・研修も行う。
下田 祥裕	しもだ よしひろ	真砂不動産株式会社/[元 NP O法人KAO(カオ)の会]	NPO法人KAOの会では、以下のエリアマネジメント活動を行っていました。 ※( )内は活動の概要、【 】内は仕組みを表しています。 1.公共空間の維持管理(駅前広場管理業務)【市委託+地域住民直接負担】 2.賑わい創出(イルミネーションイベント、夏祭り、コンサート、寄席)【公民連携、私企業協賛】 3.デザインコントロール(ビル外観や道並み景観の同調)【地権者間調整】 4.テナントミックス(リーシング、営業内容調整)【新規開発ビル商業床の一括上げ】 このほか、各種講演活動や視察アライジングの受入れも実施してきました。 いわき駅前復興まちづくりに於いては、今までの経験を生かしつつ、白紙のキャンパスに描くべく、「地域を元気に」、「未来に夢を」を基本理念として、「30年先を考えたまちづくり」を目標として、今出来ることを一歩一歩進めるべく助言し、実行可能な企画立案を行い、行動することを目指します。
白川 皓一	しらかわ こういち	室蘭港立市民大学	【北辰商店会】 ・商店会地域にある「札幌通り」の歴史を紹介する看板の設置 【NPO法人羅針盤】 豊かな自然と共生し、工業産業だけではなく、歴史文化も発信できる「みなとまち室蘭」を自主自立の精神に基づき創造することを目的としたNPO法人です。 ・2002 シーサイドフェア-西胆振びつくり市開催(→2007 スワンフェスタとなる) ・2004 室蘭港立市民大学(任意団体)設立 ※自主自立の精神に基づき「室蘭大好き人間」づくり ・2008 中央ふ頭空き倉庫を活用したジャズクルーズの開催(約10年) ・2012 室蘭港鉄人舟漕ぎ大会開催 ・2013 「なぜば為る蘭の鐘」を中央ふ頭に設置
白仁 昇	しらに のぼる	一般社団法人おきなわ離島応援 団	総務大臣 委嘱「地域力創造アドバイザー」(北大東村担当)においては、沖縄県の指定離島39島の中でも、もっとも生活環境の厳しい島のひとつである「北大東島」の事情に即した取組みを北大東村役場の村長はじめ、役場の職員と真剣に協議を行なった。全国発売の雑誌などにその取組みが複数回紹介され、平成20年2月7日には、沖縄の離島市町村単独主催のシンポジウムとしては極めて珍しい有料(3000円)の「頑張れ!北大東島シンポジウム」を都内で開催し、満員御礼となった。



氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
進士 徹	しんし とおる	一般社団法人あぶくまエヌエス ネット	1. 地域防災対策。著書「まさかの時の生き残り塾」があり、災害教育の視点から地域コミュニティのあり方を探求します。東日本大震災・福島原発事故経験から、非常時に対する備えなど地域間交流を日頃から活発に行う事の重要性をお伝えします。日本＝災害列島。命・地域を守る事をシェアしていきます。 2. 都市交流「ライフシェアリング」事業の提案をしています。過疎中山間地域には課題が山積しています。課題を交流事業から解決してゆく手法の提案です。1年365日のあなたの7日間を地方で汗を流しましょう・・・ 3. 地域再生のあり方を、過疎地での自然学校活動経験からお伝えします。キッズツーリズムで日本を元気にする。 4. 指導者養成「自然体験・地域リーダー・人材育成・まさかの時の生き残り塾」 上記事項を講演・セミナー・ワークショップ形式など受講者の参画型で行います。幼稚園・小・中・高・大学・専門学校、国立青少年自然の家、自治体、各種グループからの依頼。
須川 一幸	すがわ かずゆき	榊地域振興研究所/久留米大学	昭和58年から地域に入り、地域資源の調査の現場で「地域の宝物」を再発見する活動を実践してきた。イベントによる地域活性化から入り、商店街振興、観光振興、農業振興、福祉や教育・文化の振興など地域のあらゆる分野の活性化に企画・計画～実施～検証～時代に合った計画に修正～実施～検証と継続的に地域と関わってきた。特に、宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町については、グリーン・ツーリズムによる活性化にはじまり、商店街振興、観光振興、介護福祉計画、長期総合計画と町のすべての分野に関わり、町のシンクタンク的存在としての役割を担ってきた。その後、熊本県の農産物直売施設(道の駅物産館を含む)の立ち上げ、再建、運営指導などを行い、長崎・佐世保・雲仙アンテナショップ「キトラス」の販路拡大コーディネーターや福岡市商店街活力アップ支援事業の手伝い、JA熊本直売所の運営アドバイス、限界集落での高齢者による地域づくり活動支援等を行い、全国的には地域活性化センター「全国地域リーダー養成塾」の講師やNPO法人全国街道交流会議の理事として歴史街道市町村の街道を活かしたまちづくりにも参画している。また、JICAで中央アジアや中南米の行政研修の講師も務める。太宰府市では「米つくり隊」「カンボジアに井戸を掘る会」「東北の酒を飲む会」等地域づくりを地域住民と共に実践している。九州・沖縄地域づくり会議顧問、九州国立博物館を愛する会アドバイザー、博多献上道中実行委員、スリートピアプロジェクト実行委員を務める。現在は地域の最大の課題である地域組織再編について地域住民といっしょに進めている。
鈴木 邦治	すずき くにはる	一般社団法人 頑張る地域支援し隊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域イノベーション創出による地域活性化及び人材育成、まちづくり</li> <li>・自治体の広域連携による情報通信を用いた教育、介護、農業等の推進</li> <li>・新エネ省エネによる新産業の創出</li> <li>・地域資源を活用した6次産業の開拓</li> <li>・防災、減災を踏まえたまちづくり(スマートコミュニティ)</li> <li>・道の駅やインキュベーター施設などの活性化</li> <li>・企業誘致・公募事業による実証実験や研究ほか</li> </ul>
鈴木 達志	すずき たつし	NPO法人伊豆自然学校	地域コーディネーターとして、農山漁村の地域における資源を有効活用した、持続可能な着地型体験プログラムを開発し、地域全体を巻き込んだ観光プログラムを確立させている。 さらに、隣接市町との地域連携を図ることで、地域回遊も取り込んだ広域的視野の取り組みも行い地域活性化を目指す。 NPO法人伊豆自然学校を設立し、地域住民と観光客との接点となるビジターセンターを運営し、インストラクター人材育成から安全対策研修会、六次産業化支援など様々な企画を実践している。
鈴木 輝隆	すずき てるたか	立正大学経済学部/NPO法人 銀座ミツバチプロジェクト	山梨県甲州市勝沼町「榊中央葡萄園」の戦略とブランディング 八王子市「TAKAO 599 MUSEUM」の建設プロデューサーと運営協議会のコーディネーター 北海道清里町「清里焼酎ブランド」形成や町の総合的ブランディングのプロデューサー 愛媛県内子町石畳地区「小さな拠点を核としたふるさと集落生活圏形成推進事業」プロデューサー 熊本県人吉球磨日本遺産活用協議会「日本遺産人吉球磨ブランドづくり推進事業」総合プロデューサー(協力:建築家・隈研吾、デザイナー・原研哉) 北海道北竜町地域創造プロデューサー(協力:建築家・隈研吾、デザイナー・梅原真氏) 北海道東川町地域創造プロデューサー(協力:良品計画、レオスキャピタルワークス) 北海道標茶町茅沼地区観光宿泊施設アドバイザー(協力:建築家・隈研吾、デザイナー・原研哉)
鈴木 泰弘	すずき やすひろ	小名浜まちづくり市民会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小名浜まちづくり市民会議は、地域の各種団体30、企業、市民参加200名により、地域のタウンマネジメントを行っている。小名浜港アクアマリンパークの賑わいづくりでは港湾管理者との運営協定を締結し、年間250万人の交流空間として港を再生。中心市街地のまちづくりでは、商業の文化や地域の歴史を取り入れた活動を展開している。またいわき市のパートナーシップ協定により、行政と共同での地域計画作り、その進捗など官民が連携してのまちづくりを実施している。</li> <li>・小名浜美食ホテルは、港湾再開発事業としてスタートし公設民営の新しいモデルとして平成20年にスタート。食をテーマとした商業施設を開発させ、港のにぎわいづくりに大きく貢献している。津波と原発の風評にも負けず、平成23年12月にはたくましく再開を果たす。</li> <li>更に24年10月には、第2回SEA級グルメ全国大会を小名浜港に誘致しその開催に当たり、地域の元気を発信し続けている。</li> </ul>
関 いずみ	せき いずみ	東海大学海洋学部	全国の沿海地域(漁村)をフィールドとして、地域活性化やまちづくりに係る実践活動、女性と地域・産業に係る調査研究などを実施している。 【具体的なテーマ】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地市場の機能変化に関する調査</li> <li>・漁村女性の起業(六次産業化活動)に関する研究と支援活動</li> <li>・地域社会の高齢化問題と安心して暮らし続けられる地域づくりに関する研究</li> <li>・魚霊供養と地域水産業に関する研究</li> </ul> など
関 幸子	せき さちこ	株式会社ローカルファースト研究所	1997年よりSOHO CITY みたか構想、中心市街地活性化事業に取り組み、株式会社まちづくり三鷹を設立、三鷹産業プラザの建設、三鷹電子商店街、三鷹子育てわっと、三鷹光ワークスなどのプロジェクト、2002年～2005年 経済産業省の地域新生コンソーシアム事業にて高解像度医療用顕微鏡開発事業 2007年12月 秋葉原タウンメージメント株式会社設立: 広告事業などエリアマネジメント事業 2009年4月 財団法人まちみらい千代田 専門調査員就任:「市町村サテライトオフィス東京」 2010年10月株式会社ローカルファースト研究所設立。全国の人口減少・過疎化する地域の活性化と地域産業の振興に取り組み 2011年 震災復興ワークス設立 東日本大震災で大きな被害を受けた自治体支援 2015年 東洋大学にて地方創生推進に向けた人材育成塾を開催 2018年 内閣府自治体SDGs推進評価・調査検討委員会に就任し、SDGs未来都市への取り組みを支援している
善養寺 幸子	ぜんようじ さちこ	株式会社 日本農水産食品輸出貿易センター	《地域の賑わいづくり・地域活性化》 ・都会の団地と地方の生産者を繋げ、高齢者対策と地域活性化の両方の課題解決に向けた「団地の産直ぶちマルシェ」の事業化に向け、複数企業と協働実践研究に取り組み中。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
早田 吉伸	そうだ よしのぶ	県立広島大学	<p>・「システムデザイン」「情報アーキテクティング」の考え方をベースに、様々な社会課題を解決するためのコンセプトワーク及びその実現のための事業プロデュースを多様なフィールドを通じて実践しています。</p> <p>・中長期的なランドデザインを描くことから、現場における「何をやったらいいかわからない」という状況の打破まで、マクロ・ミクロの課題を各ステークホルダーの方々と一緒に考え、試行し、解決に導くことをモットーにしています。</p> <p>・特にIT(情報技術)の領域においては、「利活用」「公共サービス」の視点からコンサルティングを実施し、地域活性化に向けた課題解決につなげていきます。</p>
曾我 治夫	そが はるお	東日本旅客鉄道株式会社ニューヨーク事務所	<p>新潟支社勤務時は新潟県内及び山形県庄内エリアの地域振興に向けて、地域の観光資源の掘り起こし、磨き上げを行い主として首都圏からの送客に向けた観光開発・商品企画を担当しました。この経験を活かし、本社及び東京支社においては観光開発に向けた社内体制整備や送客側での体制整備の実務を担当するとともに、鉄道を利用した旅づくりを展開しました。横浜支社では特に伊豆・横浜エリアの観光開発に向けて、輸送事業者の責任者として地域の関係者の皆様とともに知恵出しを行い、様々な観光施策を展開し地域の活性化に努めました。運輸調査局では観光開発のほか、地域の公共交通機関についても活性化についての研究を進めました。現在は米州から日本へのインバウンド推進に取り組んでいます。</p>
曾根原 久司	そねはら ひさし	特定非営利活動法人えがおつなげて	<p>山梨県北杜市須玉町増富地域は、かつては農林業が盛んであったが、現在は担い手の減少や高齢化に歯止めがかからず、集落崩壊の危機が迫る地域である。高齢化率66%、耕作放棄地52%、という、いわゆる限界集落となってしまった地域である。そんな状況の中、2003年4月の構造改革特区認定のもと、都市農村交流活動を行うことにより交流人口を増大させ、地域の活性化につなげようとする活動が始まった。この活動の開始から約10年経過した現在、活動に賛同した農村ボランティア等も含めて都市部から約50,000人が訪れ、耕作放棄地5haの復活、その農地での新たな形の農業生産、また企業の連携による遊休農地活用等の成果も現れてきている。現在、連携している企業は、三菱地所グループをはじめ、博報堂などの大手企業に始まり、山梨県内の金精軒、清月などの菓子製造企業などである。また、全国の山梨、宮城、福島、三重、熊本、福岡、佐賀、東京などで、都市と農村つなぐビジネスプランを作る人材研修事業「えがおの学校」を実施している。受講された研修生は、700名ほどとなっている。また、そのうち200人ほどが、各地域で起業を果たしている。</p>
高木 治夫	たかぎ はるお	京都フラワーリズム合同会社	<p>・2012年度～2015年:羽曳野市 世界文化遺産認定実現への一助 古墳情報データベースの作成支援 2019年7月6日、百舌鳥・古市古墳群は世界遺産登録が決定！</p> <p>・2014年～2016年:岡山県市笠岡市北木島 日本遺産申請への一助 砕石跡湖の魅力発見 日本遺産実現へのビジョン化 2019年5月20日笠岡市「日本遺産」に認定</p> <p>・2008年～ 京都「花なび」(今咲いている花情報) タクシー運転手が、日々、花情報を提供 <a href="http://mk.kyoto-tnes.net/">http://mk.kyoto-tnes.net/</a></p> <p>・2015年～ 舞妓さん撮影会事業 顧客:世界で一瞬レフを持つカメラ愛好家 <a href="https://55maiko.net/">https://55maiko.net/</a></p> <p>・2015年～ 共感プロジェクト 人生100年時代、スマホでお得に楽しく <a href="https://www.facebook.com/groups/kyoukan/">https://www.facebook.com/groups/kyoukan/</a></p> <p>・2019年～ 舞妓さんのゴールデンホホバ ホホバの商品開発 <a href="https://jojoba.jp/">https://jojoba.jp/</a> 舞妓さんの肌悩み解決と大阪薬学部との砂漠緑化事業とのジョイント化</p>
高津 定弘	たかつ さだひろ	高千穂大学	国土計画、経済計画、地域開発、地域政策、経済政策など
高橋 和勸	たかはし かずゆき	NPO法人 ワップフィルム	<p>&lt;企画/コンサルティング 事例&gt;</p> <p>■まちづくり 経産省「コンテンツ制作を通じたまちづくり支援事業」 ・街のチカラ 映像のチカラ ～内子で見つけた魅力が映像に～</p> <p>■観光政策 特別区協議会「観光政策」</p> <p>・～映像を活かした観光振興～街を見せるから『魅せる』に～</p> <p>■産業振興 静岡ものづくり未来応援団事務局(静岡新聞グループ)「ものづくり連携開発」 ・ものづくりワークショップ</p> <p>■人材育成 広島県「創業意識啓発事業」 ・～自分たちで創る自分たちの未来～ 中小企業大学「創業支援事業」 ・未来に向けて一歩を踏み出すために必要なこと映画コンテンツを活用した、行政・企業・大学を対象とした研修、講義を行う。</p> <p>&lt;研修・講演事例&gt;</p> <p>■組織活性化 イノベーション創出 ■人材育成 コミュニケーション・チームビルディング・キャリア開発 ■働き方改革 ■メンタルヘルスケア ■事業開発 商品・サービス企画開発 ■地域活性化</p>
高橋 修一	たかはし しゅういち	NPO法人 あぐりねっと21	<p>○国の各種交付金事業を通して多くの地域活性化実態を把握し、事業後も独自でモニタリングなどにより、地域作りの調査研究を行っています。</p> <p>○東日本大震災で被災した地域の復興のため、土地利用再編、新しいまちづくりの指導助言を行い、円滑な復興事業実施に向けた支援を行っています。</p> <p>○被災した自治会・町内会のコミュニティ再生のため、地域住民と一体となって祭りの再開など地域活性化活動を実施しています。</p> <p>○農村と都市の交流促進のため、各種の企画運営及び業務管理を行っています。</p>



氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
田島 信太郎	たじま しんたろう	田島山業(株)	「森づくり」「森林環境教育」等のプログラムは、森林と林業、山村のライフスタイルを都市部の人々に紹介することを目的としている。国土の3分の2を占める森林と、そこに住む人々の暮らしを国民はほとんど知らない。山村は過疎化を通り越して「限界集落と呼ばれ始め、林業は既に「産業として成り立っていない」とすら言われている。これすなわち「国土の3分の2が危機的状況にある」ということだ。「助けてくれ」とは言わないが、せめて「警告を発する義務」はあるのではないかと。林業を効率化することで外材に打ち勝ち、更に森林と共に暮らす魅力を紹介することで、山村は活性化すると信じている。
田城 孝雄	たしろ たかお	放送大学	平成9年に国立大学医学部付属病院として初めての総合医療連携部門(医療社会福祉部)を立ち上げました。さらに地域包括ケアの先進モデルである広島県尾道市の取組みの解析を行い、多くの知見を得ました。東京都保健医療計画策定新協議会改定部会委員や、世田谷区地域保健福祉審議会での議論を通じ、地域における保健・医療・福祉計画の立案に関与しました。また、板橋区乳がんの地域連携バス検討委員会委員、足立区糖尿病対策協議会アドバイザー、横須賀市医師会医療連携協議会アドバイザー、さらに豊島区在宅医療推進協議会会長、文京区在宅医療推進協議会部会長など、行政と三師会などとの協議会の運営に関わり、いろいろな立場の方々の意見を尊重しながら、地域の保健・医療・介護・福祉のネットワーク作りに取り組んでいます。また、全国で招請され講演を行っております。内閣官房地域活性化統合本部 地域再生推進委員会 委員長として、地域再生を推進する方策の検討に取り組んでいます。
多田 朋孔	ただ ともよし	特定非営利活動法人地域おこし	棚田地域振興法施行を踏まえ、現在関係市町村において棚田地域振興のための協議会の設立、活動計画の策定作業を活性化させる予定。 このようなか、「中越地震をきっかけに復活した奇跡の集落の棚田」と呼ばれる池谷集落の棚田保全・棚田地域の振興に中心的役割を果たす。
舘 逸志	たち いつし	公益資本主義推進協議会	平成18年～25年の8年間、北陸先端大にて地域再生システム論を開講。カリキュラムの作成、企画・運営に関わる。以来、大学を拠点とする産官学連携の地域活性化に関わってきた。具体的には、北陸先端大では、温泉地の活性化、伝統工芸と地域活性化、鳥取大では、地元出身の経済人の地域貢献活動の支援としての大山活性化講座の開講、熱海・湯河原では民間主導で県境を跨る広域的な地域活性化を進める取り組みを支援してきた。内閣府の経済社会総合研究所においては、こうした大学の地域活性化システム論の展開を横断的に支援するためにカリキュラム研究会を開催、平成24年度には「地域活性化システム論カリキュラム研究会報告書」 <a href="http://www.esri.go.jp/prj/hou/hou061/hou61.pdf">http://www.esri.go.jp/prj/hou/hou061/hou61.pdf</a> を纏めた。平成20年からは、木村俊昭氏らとともに地域活性化学会の発足に関わり、現在副会長、研究推進委員長として産官学の連携による地域活性化を各分野で推進するプラットフォームづくりをお手伝い。公益資本主義推進協議会が進めるマイコミュニティフォーラムでは大学と地元若手実業家の連携による地域活性化を促進。企業経営者の推進する産官学協力の地域活性化事業の推進をお手伝い。母校埼玉大学では平成30年度から地元創業経営者などから学生が生業、起業、事業継承などを学ぶ「実践ベンチャー論」を開講。現在、離島振興・地方創生協会の発足に参画。2020年度には離島の農水産物のバリューチェーン構築に取り組む予定。
橋 真美子	たちばな まみこ	東京都中小企業診断士協会城東支部/南伊豆応援隊	■現在の主な活動 〈南伊豆応援隊〉 中小企業診断士の有志により結成された「南伊豆応援隊」にて、静岡県南伊豆町の地域活性化に取り組んでいます。南伊豆町商工会からの依頼による事業者様の経営支援や、特産品開発の支援、南伊豆町の総合計画等審議会アドバイザー等を務めています。 〈6次産業化支援〉 福島県、静岡県、千葉県、群馬県6次産業化専門家として地域の6次化に取り組む事業者様を支援しています 〈東京での活動〉 墨田区、葛飾区経営相談員として各区内の様々な業種の経営相談に対応している他、東京商工会議所登録専門家、東京信用保証協会登録専門家として経営相談に対応しています。 特に、ホームページやSNS、GoogleマイビジネスなどのWebを活用した情報発信についてのセミナーや個別支援のご依頼が多いです。 ■得意分野 ・6次産業化 ・創業支援 ・地域活性化 ・補助金を活用した新規事業計画 ・ホームページ、SNS活用によるWeb戦略
田中 淳一	たなか じゅんいち	一般社団法人ローカルソリューションズ	これまでの企業経営・新規事業企画・PR企画などの経験を活かし、少子化対策・移住定住・女性活躍等の分野に於いて、農業ICTやシェアリングエコノミー等の新しいテクノロジーの導入によって地域の女性を取り巻く社会環境を向上させ、旧来型の社会規範が根強い地域の「文化のスマート化」を推進するなど、地域の人口流出といった課題に対して様々なテクノロジーを複合的に活用する取り組みを支援しています。
田中 文裕	たなか たけひろ	特定非営利活動法人 里海づくり研究会	・アマモ場は、「海のゆりかご」と呼ばれ、海洋生態系や沿岸環境の保全に不可欠であるだけでなく、ブルーカーボンとして温室効果ガスCO2の吸着固定にも重要な役割を果たしている。「アマモ場再生活動発祥の地」と言われる備前市日生町において、35年以上にわたって漁師達と共にアマモ場再生活動に取り組み、ほとんど消滅したアマモ場を250ha以上にまで回復させた。これを契機として周辺にもこの取り組みが広がり、2007年岡山市、2013年瀬戸内市が着手し、1980年代に県下で約550haまで衰退したアマモ場は2015年には約1,845haまで回復、2015年には笠岡市、寄島町、玉野市も参画して活動範囲はほぼ県下全域に拡大、さらなるアマモ場の回復に注力している。 ・アマモ場再生活動など里海づくりをベースとして、2013年からは小中高校の子ども達、一般市民、農林業者など世代や立場・地域を越えた活動を展開するとともに、「みなと学習会」・「みなと親子学習会」などを企画開催し、海の生き物と触れ合いながら、港や海についての学びの場を提供するなど、学校教育・社会教育としての海洋教育の推進に取り組んでいる。 ・森里川海の連環を軸に据えながら、備前市・笠岡市など「里海」と真庭市など「里山」を結び、さらには人と物の流れで里海・里山・「まち」を繋ぐことにより、真の循環型地域社会の構築を目指している。 ・シンポジウムや交流会、ワークショップなどを企画開催するとともに、国内外の各地において講演や学会活動等を通じ、里海概念の普及と里海づくりに奔走している。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
田邊 寛子	たなべ ひろこ	まちひとこと総合計画室／うなぎのねどこ／ご近所大学うなぎキャンパス	<p>【アドバイザーとしての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光：地形や境界など地理的な要素も地域資源ととらえ、歴史や産業と合いましたその地域らしい観光づくりを持続可能な仕組みづくりを視点にアドバイスをしている。</li> <li>例)長野県辰野町：横川渓谷地域資源活用観光モデルコースの住民の主体的な開発事業に講師として参画。</li> <li>・社会福祉：離島の福祉について、地域資源の活用し、障がい者や高齢者の「生きがい」「自立」「持続可能」を視点に場づくりの支援を行っている。</li> <li>例)鹿児島県徳之島：社会福祉法人の複数の施設の再編と改善を地域と連携した施設づくりのアドバイザーとして参画。</li> </ul> <p>【コンサルタント・景観デザイナーとしての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景観デザイン：その地域の地域資源である風景は人々の暮らしと生業が根本にあり、ハードのデザインだけでなく、ヒト・コトづくりにつながる関係のデザインも同時にアドバイスしている。</li> <li>例)葛飾柴又帝釈天参道周辺：住民主体の景観づくりを2004年からまちなみガイドラインの作成やまちなみ協議会の運営を支援し、2018年文化的景観に選定</li> </ul> <p>【空き家活用シェアスペースうなぎのねどことしての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・築100年の空き家をDIYしながら改修しシェアスペースとして蘇生。3年間でイベント400回超、延べ1700人を超える人が出会いました。</li> </ul> <p>【ご近所大学うなぎキャンパスとしての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが先生、誰もが生徒！趣味や特技を生かして講座を開く取り組みです。うなぎご講座を実験的に行い力を育みます。ご近所大学のような様々な活動が街中、日本中に展開することを目指しています。2019年、舞鶴本校・生口島瀬戸田CP・世田谷経堂CP・赤羽CP、そしてうなぎのねどこCPの5校があります。長野県辰野町CP・鹿児島県徳之島CPが開校準備をしています。</li> </ul>
谷本 訓男	たにもと のりお	八幡浜港みなとまちづくり協議会	<p>八幡浜港みなとまちづくりの会長として、市民フォーラムの開催、みなとまちづくりプランの策定、みなとまちづくりコンペの実施、市長へのみなとまちづくり提言書の提出など、産・民・官・学の連携による地域のみなとまちづくりを先導的に推進しています。</p> <p>平成18年より地元高校生徒に授業として「まちづくりのつくり」の講演行っておりです。</p> <p>平成25年4月より非常勤活動法人港まちづくり八幡浜でみなと交流館の指定管理業務。</p> <p>平成19年 社団法人日本港湾協会 企画賞受賞。</p> <p>平成24年 社団法人日本港湾協会 企画賞受賞。</p> <p>平成25年 公益社団法人日本港湾協会港湾功労賞受賞</p> <p>平成25年 ポート オフ ザ イヤー 受賞</p>
谷本 互	たにもと わたる	まち&むら研究所	<p>地方シンクタンクに入り研究員から役員を務める。金沢を拠点において、地域産業、地域食品、地域文化を軸に国、県、市町村、経済団体の事業の支援を行ってきた。「困難なもの、わからないもの、初めてのもの」は「私に尋ねてみる」とばかりに、先駆的な事業や取り組みに関わることができた。調査研究、ビジョン策定、イベント・会議事業、診断提案事業など多様に行ってきた。特に酒造、発酵食品分野では先進的な取り組みや支援活動を進めてきた。</p> <p>地域産業の支援と自ら事業にも携わっている。長期間に渡って講演、委員、コーディネーターなどの依頼も多く様々な地域貢献活動にも関わっていた。また、異業種の新聞、テレビ、出版関係、編集者、ライターとの関わりが多く活動において連携してきた。</p> <p>地方にあって非常に国内外、時空間を超えた成果を見出した。富山県コロンブス計画、石川県西田幾多郎記念哲学館の構想から運営計画、酒蔵トラストと地酒列車の構想から実施、酒蔵維持発展システム調査、食を中心とする観光プログラム、産業観光の枠組みの構築、公営民営官舎及び運営組織の診断と再構築などに具現化されている。</p> <p>ふるさと財団地域再生マネージャー診断事業派遣(長野県南木曾町、富山県南砺市、石川県能登広域圏、岐阜県輪之内町、兵庫県加東市、石川県志賀町、福島県伊達市、和歌山県古座川町、愛媛県東温市、三重県熊野市、鹿児島県十島村、石川県白山市、兵庫県加東市、鹿児島県吉市広域圏、石川県志賀町)、北陸フェア・ホテルグランパシフィック台場、江ノ電北陸うまいもの号企画調整、実行支援(北陸経済連合会)などにも関わる。</p> <p>事務所立ち上げ、南砺市でのプロジェクトに参画しつつ農林水産加工事業、交流協会の立て直し、実業としてワイナリーの役員も務めている。大学ではシンクタンク在職中から地域経済論などを講義し、現在、ものづくり補助事業のコーディネーターとしても活動する。</p>
種市 俊也	たねいち しゅんや	有限会社 食と地域・建築研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産業をはじめ第1次産業を主産業とする地域における地域活性化や生活・産業基盤整備、災害からの復興の計画立案に、主に行政を支援する立場から関わっています。</li> <li>・第3者の計画技術の専門家として、地域の関係者の意向・アイデアの把握、地域の情報収集・分析、実現のためのたたき台案をつくり、意見交換を通じて合意形成につなげる裏方の役割を仕事としています。具体的には、①地域の特色の把握・確認、②資源の探索と活用のためのアイデア出し、③活用方策の練り上げ、④実現のための体制づくり、⑤支援方策導入を目論んだ事業化計画づくり をお手伝いしています。</li> </ul>
田淵 正人	たぶち まさと	滋賀県愛荘町	<ul style="list-style-type: none"> <li>■観光振興・地域振興等に対する支援や指導、アドバイス <ul style="list-style-type: none"> <li>○観光地域づくり</li> <li>○ニューリズム・着地型観光・体験交流型観光</li> <li>○観光振興計画・観光ビジョン等の策定</li> <li>○観光振興・地域振興・人材育成等の講演会や研修会、セミナー等の講師</li> <li>○プラットフォームや広域連携等の仕組み作り、強化等</li> <li>○人材育成(担い手・コーディネーター)や農家民宿開発等</li> <li>○着地型旅行商品や体験交流プログラム等の商品造成</li> <li>○第6次産業化、農商工連携</li> </ul> </li> <li>■まちづくり・地域活性化・地域再生 <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域活性化支援アドバイザー</li> <li>○地域資源活用アドバイザー</li> </ul> </li> </ul>
玉村 雅敏	たまむら まさとし	慶應義塾大学 総合政策学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の地域戦略の立案・推進や官民連携モデルの構築支援、SDGsやグローバル戦略、企業のソーシャルマーケティング戦略やCSV戦略の立案、社会インパクト評価、生活価値や幸福度の評価手法開発、地域マレージ、ミュージアムマーケティング、学校評価、政策マーケティング(青森県・東海市等)、ふり奨学プログラム(長島町・氷見市・大崎町)、スポーツによるまちづくりなどのシステム設計を手がける</li> <li>・全国各地にて、実効性のある総合計画の構築や、トータルマネジメントシステムの構築、計画群の総合化など、自治体経営のシステム構築に従事</li> <li>・地域の生活課題や生活価値、幸福度などを、関係者協働で調査し、その「みえる化」と「共有化」から協働・共創を促すシステム構築を支援</li> <li>・公共施設のリノベーションや、ミュージアムや図書館等の文化・観光施設、企業のコミュニケーション施設の基本構想検討を支援</li> </ul>
田村 和彦	たむら かずひこ	株式会社丹青社 文化空間事業部	<p>(1)PPP(PFI、指定管理者)事業を通じて、地域活性化に取組んできました。こども施設、観光施設、防災学習施設、ミュージアムなどの施設づくりから運営までを担う中で、地域の人材、大学、商店街、企業、団体などととも、地域に賑わいをつくり、人づくり、商品開発などに貢献する事業を企画実施してきました。</p> <p>(2)中小企業診断士として、商工会議所等の派遣専門家に登録し、地域の飲食店、小売り、卸売、サービス業など様々な事業者の経営相談や商品開発、販路開拓、創業サポートなどのアドバイス、支援を行っています。</p> <p>(3)また、某自治会による地域活性化拠点施設検討会や、某銭湯事業者による地域の人が集まれる施設事業づくりなどのプロジェクトに参加し、アドバイス等を行っています。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
近兼 孝休	ちかかね たかやす	株式会社琴平グランドホテル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国の重要文化財指定「旧金毘羅大芝居(金丸座)」で、春の歌舞伎公演を30回実現</li> <li>○国の重要文化財指定「旧金毘羅大芝居(金丸座)」で、秋の歌舞伎公演を2回実現</li> <li>○自社掘削の温泉を地元旅館に供給して「こんびら温泉郷」をつくる</li> <li>○「こんびら温泉祭り」の開催</li> <li>○「石段マラソン」を実行委員長として開催</li> </ul>
鶴田 浩一郎	つるた こういちろう	NPO法人 ハットウ・オンパク	<p>NPO法人ハットウ・オンパクは、別府八湯地域において温泉を核とした様々な産業を起こす事を目的としています。この取組みを通じて実現したいのは以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の資源(温泉、自然環境、町並み、人材など)を活かした多彩なプログラムの提供を通じて、各種のサービス産業が成長すること</li> <li>2. オンパクに参加する事で住民が健康で前向きな暮らし(ウェルネスライフ)を送る事ができ、生活の質(QOL)の向上につながる事</li> <li>3. 旅行者がオンパクに参加し、各種の体験や交流の機会を得る事で別府八湯のファンになっていただき、リピート化や長期滞在化を実現すること</li> </ol>
堂前 助之新	どうまえ すけのしん	白米千枚田愛耕会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者不足と高齢化で地元農家だけでは耕作を続けていくことが難しい状況の中、白米千枚田愛耕会や市役所など多くのボランティアの協力とともに、地域の景観維持等に貢献。</li> <li>・2011年には能登里山里海が世界農業遺産(GIAHS)に認定された。</li> <li>・2017年11月、白米千枚田愛耕会として、地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰を受賞した。</li> </ul>
刀根 浩志	とね ひろし	観光ビジネス総研株式会社/ (独)中小機構	<p>07年～現在 経産省「地域資源活用法・農工商等連携促進法」認定支援事業</p> <p>15年～現在 沖縄県「沖縄元氣プロジェクト」「観光コンテンツ開発支援事業」ほか</p> <p>16年～現在 (独)中小機構 中小企業大学校「着地型観光ビジネスセミナー」開講</p> <p>18年～現在 島根県出雲市「出雲市・観光満喫プロジェクト事業」</p> <p>18年～現在 観光庁「広域周遊ルート人材派遣事業」(和歌山県・島根県ほか)</p> <p>18年～現在 京都府北部「海の京都DMO(京丹後市・伊根町)」</p> <p>「観光プラットフォーム整備・国内およびインバウンド集客事業」</p> <p>福井県越前海岸「地域ツーリズム創造・観光プラットフォーム整備」</p>
殿村 美樹	とのむら みき	株式会社TMオフィス/一般社団法人地方PR機構	<p>PR(パブリック・リレーションズ)の基本コンセプトであるWin-Winのコミュニケーション概念を生かし、地域が自律的に活性化する仕組みづくりをプロデュースしています。日本の地域には長い歴史と奥深い文化があり、どの地域にも必ず、世界に引けを取らない魅力が眠っています。ただ、その魅力を引き出すためには客観的な視点と時代のニーズを把握する視点、さらにはタイミングを見据えた情報発信技術が必要になります。私はこれまで約30年間にわたり、約3,000件の実績を積むことで、これらを成功させることに成功しました。</p> <p>また、2019年(一社)地方PR機構を設立し、日本初の職業能力開発促進法に基づくPR講座を立ち上げ、大阪府認定「広報PR基礎講座」として開講しました。</p> <p>大阪の講座だけでなくWeb講座、出張講座を行うとともに、具体的なPRプランの立案アドバイスを行っています。</p>
土肥 健夫	どひ たけお	株式会社 事業開発推進機構	<p>一般的な商業集積、観光施設作り等に加えて、事業化・収益化が難しいと考えられている、以下のようなソフト事業の自立的な事業化に取り組んでおります。取り組みの“事業としての仕立て”を最も得手としております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・御当地検定: 明石タコ検定(兵庫県明石市)</li> <li>・食によるまちづくり: 「鍋焼きラーメン」によるまちづくりと「浪花麺だらけ(大阪市)」、「新横浜ラーメン博物館(横浜市)」への出店支援(高知県須崎市)</li> <li>・観光案内人、各種アクティビティ</li> <li>・インストラクター等のプログラムを絡めた、伝統的建造物群保全地区における漁家民宿整備(京都府伊根町)</li> <li>・地域活性化と連動したスポーツ・マネジメント(石川県金沢市等)</li> </ul>
富田 宏	とみた ひろし	株式会社 漁村計画	<p>漁村・漁港に係る地域振興計画や中小漁村を中心としたまちづくりに関するコンサルタント活動を中心に、大学などの研究者や現場でのシンポジウムや住民との膝詰めのパネルディスカッション、雑誌・著作等を通じて漁村の地域振興に関する提案及び具体的な直販・交流施設等の企画・基本・実施設計などにも取り組んでいる。</p> <p>日本大震災以後は、ボランティアによる被災漁村復興支援活動と共に、主に水産庁、市町村委託による漁村復興計画策定と並行して、大学、各種学会他のシンポジウム等に積極的に参加、発言を続けている。また、最近では、水産庁の主要施策となっている「浜の活力再生プラン」の策定について、それぞれの漁協等を中心とした再生委員会の活動の相談に応じ、プラン作成を一過性の書類作成に終わらせるのではなく、息の長い漁業・漁村づくりにつなげるための助言・支援を行っている。</p>
富山 俊二	とみやま しゅんじ	黒部都市漁村推進交流協議会	<p>漁業が持続可能な産業として適切な資源管理をはじめ漁場管理をしていき漁村を残すためには漁家所得の向上対策が重要との観点から、流通改革が必要である。くろべ漁協では漁業者、漁協が直販施設を通じて消費者のニーズを直接把握し、魚だけではなく漁業や浜の情報、そして食文化を発信しながらファン作りに取り組んできた。特に魚は勿論、漁協女性部が取り組んできた一夜干をブランド化し、多くのファンを作り上げた。さらに定期開催を含めて年間20回以上に及ぶ料理教室、一夜干教室を通じ魚食普及を続けてきた。又、ボランティアガイドとの連携による漁村の町歩き、市内企業との産業観光との連携などを行うとともに着地型観光商品の開発など交流人口を増加させてきた。漁協が取り組む六次産業が鉄道も通らない町を年間25万人が訪れる町へと変化した、地域の課活性化が進んでいる。</p>
友廣 裕一	ともひろ ゆういち	一般社団法人つむぎや	<p>□過疎地・限界集落 日本一周プロジェクト「ムラアかりをゆく」</p> <p>全国約80以上の農山漁村を訪ねた。その間はすべて地域の人の家に泊めてもらいながら、それぞれの土地に根ざした仕事を手伝わせた。農林水産、畜産等々の労働に加えて寝食を共にする中で、より生活に近いところから「地域」を体感し、真の「地域活性化」とはなにかを学ばせていただいた。</p> <p>□地域の未利用資源である鹿角&amp;漁網補修糸を使った手仕事ブランド「OCICA」</p> <p>石巻市牡鹿半島漁村の女性達が、土地の素材である鹿角を加工して手仕事でつくる製品ブランド。商品製作および販売を通して女性達への手仕事収入創出とコミュニティ再生を目的として開始、海外にも販売店舗を広げている。鹿革をつかった商品を地元福祉作業所とともに制作・販売中。(http://www.ocica.jp/)</p> <p>□漁網100%ミサンガ+ほっぽら食堂</p> <p>石巻市牡鹿半島 鮎川浜で、牡鹿漁協女性部有志により「漁網100%ミサンガ」の製作・販売支援を行う。その収益を元に、2012年7月には地元水産物を活用したお弁当屋さん「ほっぽら食堂」をオープン。一般社団法人マーマメイドを立ちあげ、現在も事業を続けている。</p> <p>□WEBメディア「東北マニファクチュール・ストーリー」</p> <p>東日本大震災後、新たに生まれたものづくりの背景にある物語を、一つひとつの現場を巡りながら伝えるWEBメディア「東北マニファクチュール・ストーリー」(http://www.tohoku-manufacture.jp/)の運営・コーディネートを担当。</p> <p>□東北から、アジアへの扉をひらく「DOOR to ASIA」</p> <p>地元中小業者のもとにアジアの若手デザイナーが滞在し、アジアで販売するためのコミュニケーション・デザインを提案するプログラムを国際交流基金と共に企画・運営。</p> <p>奈良県奥大和地域や、長野県小布施町、東京都内(JR山手線)でもスピンオフ企画を実施。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
長岡 力	ながおか つとむ	株式会社リンクアンドイノベーション	地域と中小企業のイノベーションを目指す経営コンサルタント。 これまでの主な活動実績 1. 特定非営利活動法人への支援 ・特定非営利活動法人グローバル・ヒューマン・イノベーション協会(東京都渋谷区)、特定非営利活動法人グローバル新世代イノベーター育成協会(東京都渋谷区)、特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク(東京都杉並区)、特定非営利活動法人 ピアサポートネットしぶや(東京都渋谷区)が行う各種活動の支援 2. 中小企業経済団体への支援 ・群馬県商工会連合会、福島県商工会連合会、沼田市東部商工会(群馬県)、片品村商工会(群馬県)、昭和村商工会(群馬県)、群馬伊勢崎商工会(群馬県)、前橋東部商工会(群馬県)、高崎市橋名商工会(群馬県)、長野原町商工会(群馬県)、みえ熊野古道商工会(三重県)、南あわじ市商工会(兵庫県)等が実施する事業支援 3. 大学への支援 ・青山学院大学(東京都渋谷区)、別府清部学園短期大学(大分県別府市)、大分大学(大分県大分市)が実施する各種事業への企画段階からの参入支援 4. 中小企業への支援 ・ものづくり製造業等への経営戦略構築、経営革新計画、ものづくり補助金、持続化補助金策定支援 5. その他 小規模事業者持続化補助金事業書審査委員、6次産業化プランナー、東京商工会議所エキスパート、ミラサボ専門家他
長坂 尚登	ながさか なおと	豊橋屋 / WE LOVE MIKAWA	愛知県豊橋市の商店街マネージャーとして、まちなか活性化のために奔走。 ■「豊橋まちなかお店マップ」「豊橋まちなか看板娘マップ」の作成 ■空き店舗を改修した交流拠点「花園ベース: HANACOYA」の設置、運営【グッドデザイン賞2014】 ■空き店舗・空き家見学ツアー ■「豊橋に日本一の図書館をつくらうプロジェクト」 などを実施。地元の学生や若手社会人らを、戦力的に活用し、成果を上げている。 <経歴・実績> H21農水省: 農業を通じた日系ブラジル人青少年と地域社会との共生プロジェクト(豊橋市) H20.21内閣府、H22.23経済省: 高齢者対応の長期滞在旅行の立ち上げ(沖縄県久米島町) H19経産省、H20全国商工会連合会: 食物アレルギー対応旅行の立ち上げ(沖縄県久米島町) その他、国内消費財メーカーなどBtoC企業へのマーケティング調査多数。
長坂 泰之	ながさか やすゆき	学校法人中内学園 流通科学大学	地域の課題が複雑化する中で、商業機能を含むまちの機能の集約を中心に、地域再生・創生、中心市街地の再生、震災復興支援、まちなか観光、地域資源活用などをプロジェクトチームを組んで支援をしています。また、事業リスク、事業の成立性、投資採算性、コミュニティの創造、エリア価値の創造、そして人づくりの観点から、プロジェクトをチェックし、時代の変化に対応し、かつ身の丈に合った計画づくりを心掛けてご支援をさせていただいています。 これまで、全国各地の中心市街地活性化基本計画策定支援、中心市街地実効性評価事業・中心市街地診断サポート事業などを通じた中心市街地に対する支援のほか、阪神淡路大震災では新長田地区の小売市場や商店街の再生支援、東日本大震災では津波被災地のまちなか再生計画策定支援などを行ってきました。その他南海トラフ地震の事前復興に関する研究会などにも参画しています。
中澤 さかな	なかさわ さかな	道の駅/萩一まーと	●郷土料理遺産の活用プロジェクト(島根県隠岐の島町 2012~) ●久礼大正町市場を中心とした漁師町の再生(高知県中土佐町 2013~) ●道の駅整備計画基本構想策定(京都府宮津市2013~) ●水産物直売施設の整備検討(熊本県芦北町2013~) ●道の駅整備計画(第二期)基本構想策定(秋田県にかほ市2013~) ●直売施設整備計画 基本構想策定(秋田県羽後町2014~) ●直売施設整備計画 基本構想策定(宮崎県延岡市2014~) ●水産加工 & 直売施設整備計画(高知県奈半町2014~) ●地域食資源の開発(秋田県鹿角市2015~) ●地域活性化拠点施設の整備計画(沖縄県うるま市2015~) ●地域食資源を活用した観光開発(三重県尾鷲市2015~) ●地域水産資源を活用した特産開発(長崎県長崎市2015~)ほか
中島 淳	なかしま じゅん	㈱カルチャーアットフォーシーズンズ	活動のミッション:日本の地方により多くの「挑戦」をつくること~主体(当事者)と仕組みづくり~ 観光まちづくり、特産品づくり、移住促進、集落自立化、地域運営・経済事業、地域おこし協力隊サポート、地域の高校魅力化サポート、ローカルベンチャー支援等。 分野は幅広いのですが、全てにおいてその「主体」づくりに注力しています。 「誰が」それを行うのかを決めるプロセスを省くと、仕事は楽になります。その取り組みは継続しません。 毎年全国10ヶ所ほどでお世話になっておりますが、いずれの地域も3年間ほどのミッションを負って、現地に入り込みます。特に最近は集落の自立化(自立自治)に関する場面が増えております。とても難しい問題ですが、将来の地域の在り方が問われる重要な問題だと捉えております。 【2018年度】長崎県平戸市、宮崎県綾町・木城町、熊本県甲佐町、高知県香美市、愛媛県伊方町、和歌山県印南町、千葉県南房総市、北海道利尻町・厚真町、新潟県阿賀町 ほか ローカルベンチャー推進協議会(全国11団体)プロジェクト
中嶋 成夫	なかじま しげお	塩沢商工会	この通りでは、雪国の町屋様式で雁木を備えていたが、近年の生活環境の改善による改装等の影響により、その魅力は損なわれ賑わいを失った時期もあった。しかし、「雪国の歴史と文化を活かすまちづくり」をコンセプトとして、官民協働で街路と建物を一体的に整備することで、旧三国街道塩沢宿を感じさせる雪国特有の街並みとその魅力を復元。また、牧之通り組合では、街路事業と同時に沿道の建築物を2m幅で壁面後退(セットバック)したスペースに、連続する雁木の建築(復元)を行い、街の統一されたまちなみ形成と冬の降雪期に対応した、雪国ならではの特色ある快適な公共・公的空間を創出し、まちづくり活動にも積極的に取り組んでいる。これらの社会資本の整備と協調した「射干の会」主体で始まった地域活性化イベントの成果もあって、現在では最盛期に優るとも劣らない賑わいと交流活動を再生している。
中村 健二	なかむら けんじ	株式会社フードランド	-
中村 隆行	なかむら たかゆき	広島経済大学 / ひろしまNPOセンター	①中間支援組織として立ち上げ相談、運営支援、資源提供・助成金制度、共同事務所運営、など資源循環システムの運営、情報提供などに取り組む ②非営利組織のマネジメント、評価について研究。若者育成のためプロジェクトベースドラニーングに取り組んでいる。
中村 哲雄	なかむら てつお	一般社団法人葛巻町畜産開発公社	平成24年1月22日農林水産省東北農政局主催の農山漁村の地域活性化シンポジウムのパネラー、地域活性化講演実績、北海道東川町、七飯町、宮城県北6町の議会議員、蒲谷町、山形県山形市、最上町、東京目黒区めぐろシティーカレッジ、大学関係では、お茶の水女子大学生、岩手大学生8回講義。葛巻町に来町した沖縄県名護市議会議員、北中城村議会議員、千葉県印旛郡議会議員、早稲田大学院生、明治大学生、日本大学生、東北学院大学生などに地域活性化について講演。平成25年は山形県最上町、宮城県蒲谷町、岩手県岩泉町、奥州市、神奈川県川崎市、東京都稲城市などで地域活性化について講演。平成26年は東京都、金沢星陵大学などで講演、来日したフィリピンの農林省若手職員に地域開発と地域活性化について講演、現地指導など

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
中山 哲郎	なかやま てつお	一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構【JSTA】	スポーツツーリズム推進組織(地域スポーツコミッション等)、スポーツイベント・合宿誘致・スポーツツーリズム商品等の計画策定・アドバイス・国内外組織のビジネスマッチングを行っています。 2019年ラグビーワールドカップ、Tokyo2020オリンピック・パラリンピック、2021年ワールドマスターズゲームス関西大会を開催する日本に世界が注目しており、地域をアピールする絶好の機会となります。メガスポートイベントを活用するとともに、各々の地域スポーツ振興・スポーツツーリズム推進の在り方を構想する契機となっています。
名越 涼	なごし りょう	-	<p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材含めた地域の魅力の掘り起こし、それらの発信方法のディレクション</li> <li>・エンタメを切り口にした発信やイベントなどのプロデュース</li> <li>・SNS、動画、WEBなどを活用したメディアづくり</li> </ul> <p>■これまでの実績</p> <p>【MC・ファシリテーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農林水産省主催「新農業人フェア」MC</li> <li>日経アグサム「農業高校から始まる未来の農業イノベーション」ファシリテーター</li> <li>マイナビ農業「DEEP VALLEY Agritech Award2019」MC</li> <li>時事通信社「食の安全・安心を考える」MC</li> <li>Yahoo! Japan主催「地域デザインラボ展」MC など多数</li> </ul> <p>【執筆】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時事通信 Agrio/農林中金 Agriweb/東京都「多摩の魅力発信プロジェクト」</li> <li>旅メディア Wonderlust 神社仏閣コラム/東京都農林水産メディア「TOKYO GROWN」マイナビ農業</li> </ul> <p>【媒体出演】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新田舎人 100号記念スペシャル対談「新しい時代のふるさと・水と土を語る」</li> <li>美の旅(ライフスタイルマガジン)「美の習慣」</li> </ul> <p>【企画・プロデュース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業生産法人「なまら十勝野」HP</li> <li>monkuwa HP</li> <li>農作業着ファッションショー(北海道興部町)</li> </ul> <p>【講演・パネルディスカッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国水土里ネット主催《今後の農業・農村での女性の活躍に期待すること》</li> <li>岩手県土地改良事業団体連合会主催《今、全国で活躍する農業者たち》</li> <li>低コスト水管理省力化システムの開発・普及コンソーシアム主宰《スマート水田 社会実装に向けたシンポジウム》</li> </ul> <p>【講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Schoo《日本の農業って進化していて面白い》</li> <li>パソナ【しまねアグリビジネス実践スクール】にて「情報発信の手法」</li> </ul>
奈良 寿昭	なら としあき	(株)たげんご クローバーインターナショナルスクール	漁師と田舎暮らしから得た経験を活かし、食と命を学ぶ保育プログラムを企画。子供とともに農業に取り組み、収穫する喜びや食べる喜びを学ぶ場となっており、魚の調理により命の大切さを学ぶ場作りにも取り組んでいる。また、家業であるインターナショナルスクールの強みを活かし、国際交流事業も手掛けており、新たに取得した日本語教師の立場から、日本の地方と世界を結び事業を展開している。
納戸 義彦	のと よしひこ	NPO法人島の風 / 合同会社島の元気研究所	<p>■「古民家をリサイクルし、地域住民が運営するコミュニティ・ツーリズムを推進するプロジェクト」(古民家再生プロジェクト) ■「沖縄古民家再生職人養成カレッジ」 ■「農的暮らしキャンプ」 ■「住民による島の宝再発見事業[しまあかり]」 ■「風の学び地の学び『島塾』(新規人材育成事業) ■「地産地創」(島の元気研究所)等、それぞれの事業は決して大きくはないが、それらを互いに力強くリンクさせることで「島を残し守り伝える」ことをミッションにした「開発に頼らない持続可能な島づくり」という大きな総論に根ざした事業構築をめざしている。</p> <p>地域活性化の戦略、メソッドが華やかな現在、あえて総論の議論に立ち戻り、地域に今必要な、あるいは次世代に引き継ぐために必要な「Something for Nothing」(何かのためではない大切なこと)という事業展開である。</p>
芳賀沼 伸	はがぬま しん	株式会社芳賀沼製作 / NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク 榊マストロ・ジベット / NPO法人南会津はりゅう里の会	<p>〈榊芳賀沼製作 概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内でログハウスの先駆者として、ログハウス村「はりゅうウッド村」を37年前より建設し、現在99棟となる。</li> <li>・2011年東日本大震災後、福島県木造仮設住宅でログハウスでの仮設住宅の提案者メンバーとなり、600棟を建設する。</li> <li>・2015、16年度縦ログ構法が林野庁「林業白書」に掲載される。</li> </ul> <p>〈NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク 概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元林業従事者21団体(3森林組合含む)と木材(立木)の価格を守り、収入を増やす為、古くて新しい産業づくりを展開(素材での有効活用法)。</li> <li>・森林認証材の具体的な活用法を提案、実施(A・B材-縦ログ・家具、B・C材-日用品・玩具、C材-アロマ、薪利用)</li> </ul> <p>〈榊マストロ・ジベット 概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内加工業者4社と都市在中デザイナーと組み、海外(ヨーロッパ・中東・アジア)を見据えた木製玩具の販売展開中。</li> </ul> <p>〈NPO法人南会津はりゅう里の会 概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元住民とタウン・二地域居住者(土地を借地方式とした「はりゅうウッド村」の住人)による、山村での豊かな生き方・暮らし方の実践を現在進行中、事務局の役割になろう。アロマ事業を開設し、地元住民が採取した枝葉でオイルを精製し、出口販売先と共同で新しい職づくりを展開。</li> <li>・山村大学から継続している野外教育事業を発展し、広大なフィールドを活用した新たな観光産業を展開。</li> </ul>
白田 典子	はくた のりこ	(有)良品工房	<p>「いいものプロジェクト」を推進。消費者の声をメーカーや小売店に届ける仕組みをつくり消費者が選んだおすすめ商品・訪れた地域で見つけた商品をセレクトし販売している。地域商品のブラッシュアップや新商品開発へのアドバイス等も手掛ける。</p> <p>【平成23年度実績】岐阜県飛騨市神岡町 【平成26年度実績】富山県小矢部市</p>
橋立 達夫	はしだて たつお	作新学院大学	集落活性化を中心テーマとして、地域の方々とワークショップを行う中で、地域の課題を明らかにし、解決の方策を考える取組みを行っている。地域の中に秘められている活性化に向けての力に気づいていただくことにより、可能性が見えてくる。また、ワークショップを行う過程で、事業実施の機運と体制を作っていくことを重視している。
長谷川 潤一	はせがわ じゅんいち	一般社団法人食農共創プロデューサーズ	<p>《取組の概要》</p> <p>食料産業クラスター、農工商等連携、6次産業化、地方創生などの政策や現場において、地域連携や産業連携に向けた地域の食農ビジネス創出支援の取り組みを行ってきました。</p> <p>また、これらの取組の進め方、意図等の理解を促す、講演活動や人材育成支援を行うとともに、これを進める人材を育成し、客観的に評価する「食Pro.制度」を創設・運営しています。</p> <p>上記をとおして、全国数千名からなる有識者、実務者のネットワークを持ち、公的組織の立場から、各地の課題解決に取り組んでいます。</p> <p>《よくあるご依頼》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■講演 食農ビジネスによる地域活性化の考え方、取組を進めるための戦略、地域産品のブランディング戦略、戦略の見える化、産業連携・地域連携の人材マネジメント</li> <li>■研修: 戦略立案と戦略分析手法、STPによる実需者戦略、計画の見える化手法</li> </ul>



氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
畠田 千鶴	はただ ちづる	一般財団法人 地域活性化センター	<p>■活動テーマ 地域活性化全般、自治体アンテナショップ、地域ブランディング、地域プロモーション</p> <p>■主な活動 【講演・講義・アドバイザー】官公庁、地方自治体、大学、民間企業、経済団体ほか ・早稲田大学北社講座「地域ブランディング／地域イメージ形成戦略論」2019年</p> <p>・「銀座で自治体アンテナショップがなぜ支持されるのか」百貨店経営研究会2018年 ・「観光特化型アンテナショップの可能性調査」JTB総合研究所2018年 【アドバイザー・委員】地域ブランド、アンテナショップ運営、広報プロモーション 自治体：秋田県、石川県、福井県、滋賀県ほか 大学：茨城大学、法政大学、早稲田大学ほか 海外：公的機関約50ヶ国（JICA、自治体国際化協会、大学プログラムほか）</p>
蜂谷 潤	はちや じゅん	一般社団法人 うみ路 / 合同会社 シーベジタブル	<p>2013年3月、高知県東端に位置する室戸を拠点とした地域の会社「一般社団法人うみ路」を設立。主に地域内で生産される農産品や水産品を使用した加工品の開発や販売、地域内外の交流イベントや勉強会の企画、カフェの運営など地域に根ざした事業を多岐にわたって展開している。</p> <p>2016年4月、海藻の陸上用養殖を中心に合同会社シーベジタブルを設立。室戸市の特産品である海洋深層水で海藻の陸上養殖モデルを確立。その後は日本各地で展開できるよう、海水井戸水（地下海水）を活用し海藻やアワビ類の陸上養殖のモデル作りを行ってきた。現在はこのモデルをもとに、福祉作業所や高齢者等、成立させることが難しい事業者とパートナーシップを組んだ日本各地での事業モデル作りを行っている。</p>
服部 彰治	はっとり しょうじ	札幌大通まちづくり株式会社	<p>政令指定都市の中心市街地において、初めて設立された「まちづくり会社」。まちづくりに貢献し、収益を確保する事業を実施し、自立的に運営を行っている。さらに、まちの新陳代謝を生むため、収益をまちづくりに還元し、まちの活性化に繋げている。平成23年12月には、都市再生特別措置法に位置づけられている「都市再生整備推進法人」に全国初認定され、都市再生整備計画への提案、特例道路内での利便増進協定施設の運用などを行う。</p>
服部 年明	はっとり としあき	有限会社 リテイルウォーク / 株式会社 全国商店街支援センター	<p>① 02年から5年間長野TMOタウンマネージャー就任。大型空店舗が相次ぎ撤退した中央地域と、空洞化した善光寺門前の活性化に取り組む。まちづくり会社を設立し、地域住民の要望に応え、市と連携し大型空き店舗に公益の交流と子育て支援施設と直営の食品スーパーを開設、同時に500人を雇用するコールセンターを誘致した。次いで善光寺門前の連鎖する空店舗及び蔵、居宅を活用し、パティオ形式の商業施設を開設、同駐車場整備等5事業を事業化。一方で民間事業を誘発しまちなか居住、空店舗へのテナント誘致に取り組み、空洞化した中央地域再生の口火を切る。一方で後継のタウンマネージャー育成に取り組む。</p> <p>② 商店街支援センターにおいては、全国各地での地域商店街活性化活性化計画策定と事業推進の指導、支援にあたる一方で、個店の魅力向上と繁盛店づくり、次代を担う人材の育成に取り組む。</p> <p>③ 中活アドバイザーとして、伝道師として上越市、焼津市、沼田市などの中心市街地活性化計画検討の指導、助言にあたる。</p>
花井 恒三	はない こうぞう	奄美のトラさん	<p>①奄美と本土・沖縄の人材マッチング（ヒューマンネットワークウェア） ②本土・沖縄から奄美に住みたい、投資をしたい、貢献したい方、奄美を調査・研究・提言したい方、奄美で自分を極めたい、表現したい方（マドンナ、男性 含む）への奄美の入口案内ボランティア。</p>
林 光一	はやし こういち	一般財団法人 地域活性化センター（兼務 一般社団法人移住交流推進機構）	<p>地方債協会時代では、全国で展開する地方債資金を活用した地域づくりに関する各種施設を取材してまいりました。平成3年から地域活性化センターでの地域づくりへのかわり、企画調査時代での、自ら考え自ら行う地域づくり事業の事例収集整理などをはじめとして、冊子の編集、映像コンテンツの作成、新聞広報の取り纏め、自治体の各種計画づくりの支援、民間が実施する地域づくり活動への支援、人材育成プログラムの実施などに関わってきました。</p> <p>また、28年度には総務省が設置した首都圏から地方への移住を希望する国民を対象とした相談窓口「移住・交流情報ガーデン」で、移住希望者との相談業務を行いました。29年度下期からは総務省が「移住・交流情報ガーデン」に設置した「地域おこし協力隊サポートデスク」で地域おこし協力隊制度の活用に向けての相談業務を行って来ています。</p>
林 弘樹	はやし ひろき	ものがたり法人 FireWorks	<p>商店街を舞台にした住民参加型映画「らくだ銀座」プロジェクトでの全国展開を機に、北海道から沖縄まで様々な事業を行っている。この事業の特色である『地域づくりに興味のない住民層をも「地域づくり」に巻き込む手法』や『個人や企業、学校等での「関係性の中から創り出す物語」の生成メソッド』が人材育成の研修として注目されている。特にそのプロセスづくりを大切にしている。</p> <p>プロジェクトの取組みの中で、多くの人々がひとつのことに向けて、時間・体力・頭脳を使い、関わり、仲間をつくり、共に汗を流す、そんな「創発型のまちづくり」をプロデュースし続けている。経済産業省「地域におけるキーパーソン活用・支援方針に関する研究会」委員として、地域からの相談に対し幅広く活躍する。地域の人を巻き込んだ場づくりを得意として、地域情報発信や自分たちの地域で創造する力を意識する講演会、討論会、ワークショップなどを行っている。</p>
引地 恵	ひきち めぐみ	株式会社WATALIS / 一般社団法人WATALIS	<p>震災後は、互理町職員として救援物資を担当し、体育館内で物資の搬入・搬出などに携わる傍ら、地域文化伝承講座の開設や宮城大学と連携した学習支援（稲盛財団東日本大震災復興ボランティア助成事業）、日本ヒブノセラピー協会主催のメンタルケアセミナー（独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業）の運営などのボランティア活動を実施した。互理町職員退職後、WATALISを立ち上げ、東日本大震災の被災地域において、着物を再利用した手しごとによる商品を企画・販売し、長時間の就労が困難である高齢の女性や乳幼児を持つ母親などに対する就労支援を行い、地域経済活性化の一助としている。受け継がれてきた地域の文化や人々の思いを商品という形にし、様々な世代の女性たちがその製作者となることで、地域社会が潜在的に持つ高齢者の知恵や縫製技術などの人的パワーを振り起こし次世代に受け継ぎながら、既存の枠組みを越えたあらたな地域コミュニティを創り持続発展させる事業を実施している。</p>
百武 兵衛	ひやくたけ ひょうえ	蕨野棚田保存会 / 蕨野棚田直売所	<p>蕨野の棚田では、H13に町主導で地域活性化のための実行委員会を設立してウォーキングイベントを開催したところ、900人の都市住民が来訪。参加者へのお米の販売を考えたことをきっかけに、住民有志で「蕨野棚田保存会」を発足。品質とパッケージを統一し、「棚田米蕨野」を販売。中心人物として地域をまとめ、取組を推進。</p> <p>・棚田米の販売 23.8ト（H28年産） ・直売所への来訪者 2,600人（H29）</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
平野 龍平	ひらの りゅうへい	富士急行株式会社／一般財団法人コレゾ財団	<p>数々の地域活性化や観光振興のお手伝いをさせて頂いている内に、言うだけで何もしない人が多いこの世の中で、自ら考え、行動を起こし、真っ当で当たり前なことをごく当たり前に続けている人たちこそ、貴重で、尊い存在であり、行動し続ける先にしか、結果は生まれず、成果は後からついてくるものだ、ということに気が付きました。</p> <p>いろんな地域のさまざまな事例を拝見してきて、成功事例や素晴らしい取り組み、活動に唯一、共通しているのが、魅力的な担い手の皆さんの存在です。</p> <p>「COREZO(コレゾ)賞」表彰事業は、そんな方々が一堂に会して、ウマイ食を食べ、ウマイお酒を飲み交わしたら、きっとおもしろいことが起こるだろうと思って始めました。</p> <p>「COREZO(コレゾ)賞」は、「権威なし」、「名誉なし」、「賞金なし」の三拍子揃った「三なし賞」の上、毎年、表彰式は、受賞者のおられる地方で自主開催して頂き、旅費、宿泊費は、自腹、飲食も参加者の持ち寄りなのに、既に4回実施し、延べ300名近い表彰者と関係者、賛同者の交流の場にもなっています。</p> <p>案の定、日常、交流することもない、分野も職種も職種も違う多士済々な皆さんが一堂に会することで、思いもよらない化学反応が起こり、主催者も知らないところで、いろんなコラボや協働等、おもしろいことが次々に始まっています。</p> <p>自分のような若輩者が「地域活性化伝道師」に認定され、何かアドバイスするなんておこがしく、先達の皆さんに対し、失礼に過ぎると自覚していますが、「COREZO(コレゾ)賞」他を通じて、数多くの皆さんとのご縁と人的ネットワークだけは、有しており、「人」と「人」のご縁をつなぐ役割は果たせるのではないかと考えています。</p>
平原 秀則	ひらはら ひでのり	平原建設株式会社	<p>例えば沖縄の慰霊地に奉納された千羽鶴。実はその最終処分方法は自治体の大きな悩みです。そこで、千羽鶴を再生紙として甦らせ、ノートや名刺の台紙などに製品化して慰霊地の記念品として販売。これを発展途上国の子どもの教育に役立てています。</p> <p>また、千羽鶴の解体、仕分け作業を障害福祉施設の利用者にお渡し、工賃の向上を担っております。さらには、沖縄や広島への修学旅行の平和学習プログラムとして、千羽鶴の解体・仕分け作業のボランティア活動を組み入れるなど、人と人をつなぎ、地域とつながる方法を考えて来ました。また被災地支援では、北海道等で産業廃棄物に過ぎないホタテの貝殻を、牡蠣養殖の採苗用に被災地の被災障害者施設で加工し、広島等の養殖地に販売する取り組みを進めており、被災地の障害者の就労支援を通じて、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを再生することを目指しています。</p> <p>直近の事例としては、平成24年8月、北海道の北広島市で、障害者支援施設を運営する地元社会福祉法人の地域貢献をコンセプトに、北海道と広島の酒造協会の協力の下、銘酒の試飲会のイベント「北の酒祭り」を開催し、地域住民の絆づくり、地域活性化のお手伝いをさせて頂きました。</p>
フィンドレー・ロス・アントニー	ふいんどれー・ろす・あんとにー	株式会社 NAC	<p>『通年型アウトドア体験観光カリスマ』</p> <p>冬のスキーによる観光のみの北海道ニセコ地域にラフティングなど下記体験観光の魅力を付加し国内外からの観光客が集まる通年観光の地に変貌させた。また、「一般社団法人ラフティング協会」の設立に当初から参加しラフティングの安全性やサービスの向上を通じてラフティング人口の増加に寄与した。北海道のフィールドを活かしたアウトドアアクティビティを通して地域の魅力を引き出し、また地域の活性化につながればとの思いで常に新しい視点で「楽しさ」を発掘しつつけている。</p>
福留 強	ふくどめ つよし	聖徳大学 / NPO法人全国生涯学習まちづくり協会	<p>①大学と地域の連携によるまちづくりの連携 ②高齢社会の活性化の提案、「創年運動」の提唱 ③「子ほめ条例」のまちの推進、まち全体で子どもの健全育成 ④NPO法人全国生涯学習まちづくり協会での活動、まちづくりイベント、研修の企画、実施、地域の調査など、行政職員の研修 ⑤観光でまちづくり、着地型観光と指導者養成を実施 ⑥日本・韓国生涯学習まちづくり国際フォーラムの実施</p>
藤井 信雄	ふじい のぶお	大橋学園グループ ユマニテクプラザ	<p>・都市計画課で近鉄四日市駅西の四日市工業高校跡地開発を担当 ・企画調整課で名古屋圏の主要5都市(名古屋・豊橋市・岐阜市・浜松市・四日市市)による都市間ネットワークや総合計画策定などを担当 ・商工課で中心市街地活性化基本計画策定や四日市工業高校跡地開発のリニューアルオープン、技術集積活用型産業再生特区などを担当 ・市民文化課で市民活動による地域再生計画や丹羽文雄記念室整備などを担当 ・四日市港管理組合で四日市港長期構想の策定などを担当 ・政策推進部で2011年度から2020年度までの総合計画(基本構想・基本計画・第1次推進計画)の策定、並びに第2次推進計画の策定(2014年1月)、四日市市産業活性化戦略の策定(2014年3月)、四日市市産業活性化戦略に関する提言書に掲げられた先導的事業の推進(2014年度)などを担当 ・ユマニテクプラザで三重大学、東京大学、三重県産業支援センターなどとともに産学官連携拠点に関する諸調整を担当</p>
藤木 徳彦	ふじき のりひこ	オーベルジュ・エスポワール／日本ジビエ振興協会	<p>野生鳥獣を地域の資源として活用するために、商品力をつけること、販売の方法をアドバイスする。調理に携わるプロとして、魅力ある精肉の商品づくり、調理が難しい野生鳥獣をおいしく活用できる調理方法の講習、指導、野生鳥獣と地域の特産品を組み合わせた加工品の開発指導を行う。できあがった商品は地域のみならず、大消費地にプロモーションを行い、滞りがちな流通を開く。「信州ジビエ」の例では、長野県内のジビエを使い、長野県内の福祉施設で加工品を製造し、JR東日本エリアのエキナカの飲食店において開発した商品でのメニュー提案を行い、ジビエの加工品の流通を実現した。東京駅でのジビエ弁当販売や、都内レストランを借りての地域フェアなどで地域のセールスを行う。</p>
藤倉 潤一郎	ふじくら じゅんいちろう	法政大学大学院政策創造研究科	<p>・コミュニティの潜在力や総合力を引き出し、地域住民等が協力し合って主体的に地域社会課題を解決していけるよう、様々なコミュニティビジネス／ソーシャルビジネスが生み出される環境を整えていく取り組みをお手伝いします。 ・また、個々の事業の立ち上げ支援、各地の活動の知見を共有化し、地域間の連携により様々な共同事業を展開していくための仕組みづくりなどにも取り組んでいます。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
藤崎 慎一	ふじさき しんいち	株式会社 地域活性プランニング	<p>◆今国内外から、観光の起爆剤として期待される「ロケツーリズム」の成功地域事例の共有、観光へ活用するノウハウをアドバイスすることを目的とした「ロケツーリズム協議会」の会長を務める。</p> <p>のべ412団体(地方自治体・企業)が参加し、年5回セミナー・グループワーキング形式にて会員が学び、各地で実践を行う。その成果をフォーラムでアワード表彰するほか、参加団体・個人にはロケツーリズム認定証を発行している。</p> <p>◆上記のノウハウを踏まえ、以下の取り組みに携わる。</p> <p>「まちづくりはひとつ」をキーワードに「よそ者、わか者、ばか者」を活用した住民参加型の自立型地域を目指す。一過性で終わらない継続的な活動を実現するために、ビジネス視点でのコーチングにより成果を上げていく。</p> <p>・【静岡県】「四季を通じて観光客を魅了する河津グルメ&amp;魅力発信プロジェクト」 河津桜で有名な静岡県河津町は、桜の季節に観光客が集中し、それ以外は閑古鳥だったことが大きな課題だった。認知度の向上をめざし、地元住民が自発的に情報発信を実行する体制を作り上げた。ドラマ『孤独のグルメ』で紹介されたご当地グルメ「わさび丼」をきっかけに観光客が押し寄せ、ドラマ放送までわずか2軒だったわさび丼が食べられるお店が15軒に急増。聖地化されることになった。さらに地元の「わさび」そのものが見直され、わさびを使ったグルメ開発で、平成27年4月、まちおこし集団が株式会社化した。</p> <p>・【静岡県】「富士宮観光戦略プロジェクト」 まだB級ご当地グルメがメジャー化する前に、富士宮やきそば学会が、ご当地グルメ「富士宮やきそば」を観光資源として活用すべく立ち上がった際に、講師として招聘。地域人材を活用し、「資源発掘→ターゲット設定」という手順で、地元グルメを活用した観光街づくり一体化に向けたプロジェクトを成功に導いた。</p> <p>・【大分県】ロケツーリズム推進協議会設立で観光客UP! 2014年に放送されたNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』の影響により、同県中津市にある資料館に1年間で30万人もの観光客が訪れた。マスメディアへの露出が、観光に与える影響は大きなものであったが、県内にある市町村単位のフィルムコミッションや他関係団体が相互に連絡・協力を図る体制が確立できていなかったことから、「大分県ロケツーリズム推進協議会」を設立。ロケツーリズムの第一人者として招聘を受け、マスメディアの効果的な活用方法について、各団体に所属する職員へと向けた人材育成を実施した。</p> <p>・【千葉県】成田空港ブランド戦略会議 「成田空港をブランド化へ向けたPR戦略と、情報発信体制の造成アドバイザー」。 成田ブランドを伝える自立した情報発信組織「成田空援隊」を結成し、官民が一体となってロケ誘致を行いシティプロモーションへと繋げる仕組みづくりに導いた。また新たな特産品「成田ソラあんぱん」の開発に携わり、成田市女性職員を中心とした広報担当「成田ソラガール」を結成し、成田市のみならず都内、そしてアメリカ・ロサンゼルスでのPRイベントも成功した。</p> <p>・【東京都】「映像作品版權活用ワーキンググループ」 映画やドラマの撮影実績を、まちのプロモーションに活用すべく、都内の行政担当者と一般企業へと向けた勉強会の開催。映像業界の現状と需要から交渉ノウハウまでを指導。</p>
藤田 とし子	ふじた としこ	まちとひと 感動のデザイン研究所	<p>1) 戦略的情報発信事業による、まちのにぎわい創出 &amp; 回遊性の演出</p> <p>・「情報の受け手」である市民・消費者を「情報の発信者」に！を合言葉に、市民参加型まち歩きMAP＝(ペーパー版 facebook)プロジェクトを各地で展開しています。</p> <p>・市民有志が自ら住み慣れたまちなかを歩き調査し、集めた情報を自身の言葉でMAPに綴ることで、既成のマップと差別化。情報の受け手の共感→共振→感動のスパイラルを醸成し、「訪れて楽しいまち」のイメージ形成へとつなげていきます。</p> <p>2) まちのブランディングと新たな担い手の育成</p> <p>・地域の多様な主体の参加によるワークショップを開催。地域の現状・特性の把握を行い、「このまちならでは」の魅力発見と地域活性化の手法を皆で見出し、まちのブランディングへとつながる事業を展開していきます。</p> <p>・事業展開の過程において、地域活性化の新たな担い手を見出し、地域ぐるみで育成していく「しくみ」と「ネットワーク」の形成にも、力を注いでいます。</p>
藤原 啓	ふじはら けい	株式会社シーズ総合政策研究所	<p>まちづくり会社運営など、中山間地域の現場で蓄積してきたノウハウをもとに、中山間地域における地域資源活用や課題解決を目的とするコミュニティ・ビジネス、ソーシャルビジネスの検討から立ち上げ、実施に至るまで支援して参りました。さらに、中山間地域の現場で元気にコミュニティデザインを実践する若き担い手世代とのネットワークを強化し、首都圏在住のソーシャル層を対象にした講座「しまことアカデミー(島根県)」を平成24年に、雑誌ソフトとともにプロデュース。首都圏在住のソーシャル関心層を対象に、島根県との関係人口づくりを都内講座と現地実習によるプログラムで展開してきました。しまことアカデミーは2019年には東京講座(8年目)、関西講座(5年目)に加え、広島島根講座がスタートし、姉妹講座を含めると6講座、受講修了者数は270名を超えています。その約3割が島根に移住。5割以上が関係人口として首都圏でつながりプロジェクトなどを展開しています。このほか、これまでに関係人口講座として、岩手県、福島県、富山県、広島県、鹿児島市、東広島市、高知県内、島根県内などの企画運営を行っています。</p>
藤村 望洋	ふじむら ぼうよう	早稲田エコステーション研究所(ぼうさい朝市ネットワーク)	<p>災害を想定しながらも「美味しく楽しい」地域活性化活動「ぼうさい朝市」の仕掛け人。かつての 前船ルートでつながる港町をネットワークして、日頃から防災をテーマに活動し、いざというときの救援物資に った特産品(美味しい救援物資)を全国各地から運び込み、地域住民が訓練を兼ねて設置したテントで販売する産直市「ぼうさい朝市」を開催。この仕組みを活用して、山形県庄内地方の特産物の大阪への流通コースを構築する「特産物のフルコースディナー」を開催(H23年度山形県鶴岡市と酒田市と大阪を結ぶ地域活性化伝道師活動)。</p> <p>「ぼうさい朝市ネットワーク」では、いざという時は混乱する被災地ではなく、安全な「隣」が拠点となって支援する仕組みを提唱。壊滅的な被害を受けた南三 町「おさかな通り商店街」もネットワークに参加しており、その経過から、山形県酒田が「災害時の隣」となり、全国各地から酒田を中継基地として南三 町へ救援を行い、第2段階で「復興市」を立ち上げ、第3段階で地方都市と南三陸を結ぶ地域連携による商店街再生のビジネスマodel構築を支援している。「復興市」はH23年度「地域づくり大賞」を受賞。H24年3月、全国からの被災地支援団体・企業と被災地の地元団体をつなぐコーディネート組織「一般社団法人南三陸復興まちづくり機構」を設立。漁業及び林業の6次産業化を全国連携で取り組んでいる。</p> <p>瀬戸内海は、エーゲ海やカリブ海に勝るとも劣らない歴史と風景と地域資源をもつ海洋観光の最適エリアである。しかしエーゲ海等で今や巨大な観光産業となっている小型船による島めぐりクルージングはほとんど行われていない。国際的な海洋観光産業を瀬戸内海に事業構築するために、瀬戸内海の島々のNPOや地元自治体や各種の専門家と連携して一般社団法人日本海洋観光推進機構を設立。</p>
藤原 一夫	ふじわら いつお	藤原コンサルティング	<p>中小建設業の経営革新、再生、新分野進出等、建設業関連専門の経営コンサルタントとして経営指導等を業務とする傍ら、中小企業診断協会東京支部の建設業経営研究会の代表幹事として、建設業経営の情報交換・勉強会を主催しております。</p>
船崎 美智子	ふなざき みちこ	ライフスタイル協同組合/(株)ライフスタイル研究所/NPO法人やまぐち県民ネット21/公益財団法人山口きらめき財団/山口県立大学	<p>得意分野は、地域づくりを生かしたワークショップのファシリテーターである。地域、行政、企業、大学とNPO等をつなぐための仕組みづくりや、協働事業への取り組みを実施。地域の資源を生かした「地域づくり」、女性の視点で商品やサービスを提案する「モノづくり」、若者の就職支援や企業の人材育成などの「人づくり」の活動をする「地域プロデューサー」として活動している。</p> <p>特に「農商工連携」や「6次産業化」の講師やシンポジウムのパネリスト、栄養士としての視点を生かして商品開発の企画・運営・経営戦略等の提案を行っている。また、最近では「協働のまちづくり条例」等の講演や協働事例の提供、中山間地域づくりなど広い分野で活動している。</p> <p>①6次産業化の取り組みと商品開発 ②まちづくり、地域づくりの実践ワークショップ ③商店街活性化のコーディネーター ④地域コミュニティの場づくり</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
古川 直文	ふるかわ なおぶみ	(株)楽市白河	<p>【まちづくり会社の運営】                      経理全般・銀行対応・事業企画・店舗管理運営                      【中心市街地活性化】                      中心市街地活性化協議会の推進・イベントの開催・講演・経営指導                      【楽市白河の事例】                      1. カフェ・宅配弁当事業                      2. 公共施設の管理運営(指定管理者)                      3. 空き店舗対策事業・チャレンジショップ事業                      4. マンション建設・管理                      5. 商業施設の建設・管理                      6. その他中心市街地活性化事業</p>
古庄 浩	ふるしょう ひろし	(株)古庄企画	<p>大手ホテルの総料理長、山形県庄内・食の親善大使、テレビ料理番組レギュラー出演、地域の食文化の講演会など経験豊富。                      「地産地消」。現在の主要流通ルートは、大量生産と大量流通を前提として組み立てられており、その中に小規模生産者も料理人の調理場も小規模販売者も組み込まれ、互いの連携や流通ルートを持っていない状況である。地産地消を、生産と販売だけの仕組みだけでなく、料理の現場と料理のノウハウと料理人のネットワークという視点を加えることにより、特にこだわりの小規模生産者に対して、生産方法や生産物の種類の考え方や新たな販路を協働で構築することが可能となり、商店街の店舗や飲食店舗は、大手スーパーにない独自色を出したメニューや品ぞろえが可能となる。地域の食材を使つてのフルコースディナー付き商談会の開催や、伝統的食材とその料理方法をプラスした直売所の運営などを通して、食材と料理と商店街が協働で行う地産地消の推進による地域活性化の取り組み。                      「新たな全国流通ルートの構築」。料理人の全国ネットワークの活用によって、料理人が推薦する食材を、料理人が推薦するレストランやスーパーで販売する、小規模な生産者と、料理人と、販売者やレストランの連携による新たな流通ルートの構築。「北前船ルートぼうさい朝市ネットワーク」の全国各地と連携する大阪圏のシェフを「蔵奉行」に認定し、ふるさと食材使った料理とその食材の販売を推進するシェフのネットワークを構築している(現在35名のシェフを認定)。</p>
古野 克彦	ふるの かつひこ	株式会社 にぎわい総合研究所	<p>「にぎわいをプロデュース」する会社をめざしています。                      今まさに地域からの創生力と発信力、地域の暮らし方が問われています。地域の人々の生きがいづくりでの活性化、観光活性化、集客催事、景観づくりという地域創生の視点から見直しの必要性を感じています。                      地方自治体業務を中心に活動しており、今までに愛知県の岡崎市、豊川市、一宮市などの商業や観光活性化ビジョンの策定。静岡市南アルプス山麓地域などにおける観光活性化やブランド創生などの調査、構想策定に従事。                      平成30年は、民間企業の100周年記念事業イベントのプロデュースや自治体の観光事業の実施プロデュースを手がける。</p>
北條 規	ほうじょう ただし	大正大学 地域構想研究所	<p>1982年から通販事業を立ち上げ、当時は通信販売がまだマイナーな評価であったが、通販で先行しているアメリカを中心に製品を仕入れ、自社通販で販売し、日本でも独自性の高い付加価値型通販会社として注目を集めた。当時はカタログ中心であるが、スピード重視で毎月3本のカタログを発行、毎月100アイテムの新商品を開発し、どこよりもニュース性の高い商品情報を独自の編集スタイルで発信していた。その独自性が評価され、2012年にJASDAQに上場。製品の差別化を図るために全国の産地を回ってオリジナル商品を開発し、市場に投入することで地域性の高い製品を数多くヒットさせることができた。また、2007年より経済産業省関東経済局の「地域資源活用」「農商工連携」の事業評価委員に就任し関東局管内の事業評価ならびに支援活動に携わることで、地域資源の活用、六次産業化をはじめ全国の事例やビジネスモデル、事業スキームなどの豊富な知見とノウハウを有している。加えて、2012年から大正大学地域構想研究所の教授に就任したのを契機に、大学のプラットフォーム(大学が運営するアンテナショップ、学生のフィールドワーク、研究調査活動、全国90自治体との連携)と連携しながら、地域資源の発掘、地域産品や観光地づくりの再編集などその分野が広がり新しい付加価値化の取り組みを行っている。                      ・地域資源を活用した新商品の企画、開発(食・プロダクト)                      ・地域のブランディング、地域デザイン                      ・マーケティングとメディアへの情報プロモーション                      ・新規事業の事業計画の策定とプロデュース</p>
星野 智子	ほしの ともこ	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>環境省と国連大学の共同事業である「地球環境パートナーシッププラザ」の運営業務に関わり、環境教育、持続可能な地域づくり、生物多様性保全、NPO活動支援、ボランティア活動の普及、地球規模課題の普及啓発など、環境政策コミュニケーションャーターとして、多様な主体との対話づくり、パートナーシップ構築を日々行っている。                      地域における青年・女性の役割に重視しており、活動サポートに注力してきた。1994年に青年環境団体で開発したイベントごみリサイクルのためのボランティアコーディネートは今では全国で見られるようになった。現在では東京2020大会に向け、ボランティアにサステナビリティの視点を普及啓発している。                      安全な食の普及とエコツーリズムに関心があり、毎年田んぼに通い、生産者と消費者の交流の場を作っている。また仕事とプライベートで多くの農山漁村・島を訪れ、ヨソ者視点で地元住民との交流、地元産品の研究を各地で行っている。                      H11年6月地球環境行動会議主催 UNDESA共催「グローバル・コモンズ世界環境会議'99」企画・運営                      H11年10月地球環境行動会議主催 UNFCCC/COP5(ボン)でのサイドイベント 企画・運営                      H12年環境省 国際シンポジウム「水俣病の経験普及セミナー」(ヴェトナム) 企画・運営                      H13年環境省 国際シンポジウム「水俣病の経験普及セミナー」(タイ) 企画・運営                      H14年8月ヨハネスブルグサミット NGOフォーラム 現地ブース出展・ワークショップ企画・運営                      H15年地球環境行動会議主催 「エコユース会議」企画・運営                      H16 ドイツ日本学会(発表)日本の環境NGOについて(ミュンヘン)                      H19・UNUグローバルセミナー 講義(沖縄・神奈川)(英語)                      H20・G8洞爺湖サミット NGOフォーラム、G8市民サミット 企画・運営                      H21・大阪経済法科大学 講義(大阪)(英語)                      H22・CBD-COP10 UNU主催サイドイベント 里山知事サミット 企画・運営                      H23・水銀条約政府間会合(INC2)環境省主催サイドイベント 司会(英語)                      H25国連大学グローバル・セミナー 2013湘南セッション                      H26・ESDユネスコ会議併催イベント UNU共催(11/12) 企画・運営・登壇</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
細尾 勝博	ほそお かつひろ	地域再生研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市農村交流を中心とした観光産業による地域づくりのコンサル・アドバイザー活動。</li> <li>・地産地消の仕事人として直売所の意義・目的・条件【12か条】・使命・価値観や共通課題についての解決方法など助言・指導。</li> <li>・ボランティア・プランナーとしての6次産業化の認定承認や意欲的な事業推進による所得の向上や地域活性化推進などの指導。</li> <li>・豊かな自然や景観を持つ中山間地域での「2地域居住」推進。</li> <li>・都市住民の「真の新しい心のふるさとづくり」、地域資源を最大限に活用した「ファン・リピーター作り」の助言・指導。</li> <li>・共生対流の交流イズムを駆使しながら「定住化促進」「地方創生」「道」の道「地域主体の交流づくり」を構築するための助言・指導。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市農村共生・対流総合対策交付金の対象地区8地域のハード事業、ソフト事業の指導・助言。</li> <li>・全国各地からの要請により、アドバイザーとして年間40回以上講演及びワークショップ・シンポジウム等をコーディネーターやボトムアップ型町づくりを進めている。</li> <li>・国のアドバイザーや県の自治研修所の講師なども務めている。</li> <li>・「活性化伝道師」として、企業誘致を行うことによって新たな「都市・農村交流」が図られ、仕掛け作りを間違わなければ、永年続く事が認識できた。今年、2社の大阪企業を誘致し、OB(企業の都市住民)、地元、現企業との交流会を開催し、農村の良さを売る事が出来た。来年は、企業を通じた体験交流活動を盛んに進めていきたい。</li> <li>・近畿圏内の大学生と提携を行い、学生達の知恵袋と地元住民の体験力、行動力などによってそれぞれの地域を「心の温まる心のふるさと」として、残るように持っていく。また、「卒論のテーマ」地として、学生達に宣伝をさせる事によって卒論を描く学生達が多く集まってくる。</li> <li>・6次産業化の推進を行うに当たって、都市住民の知恵、識見などを持った人を募集し、地元住民の6次産業化力と合わせた特産品づくりを行い、販売戦略や宣伝手法を相互に協議していくような特産品販売も1つの思考と考える。</li> </ul>
堀田 誉	ほった ほまれ	株式会社 Co-Lab	<p>地域資源を活用した、観光、農商工連携事業に従事。</p> <p>地域における観光おもてなし講座の講師のほか、有志による里山資本主義フォーラム実行委員会メンバーとして、里山資本主義の深化や地域のネットワーク活動にも取り組む。</p>
堀口 悟	ほりぐち さとる	ランドブレイン株式会社	<p>データに基づく分析とワクワクを起点にPDCAを回し、まちづくりや生業づくりを仕組み化で支える裏方専門のプロデューサーです。地域が主語となって、目的を実現するため、地域の歩幅にあった方法論を提案します。</p> <p>得意なこと①: まちやむらの総合診療医としての確かな初期診断の実施 →データに基づく分析や話の聞き取りによって、複数の角度から大切な情報を引き出し、交通整理することで、課題の本質を見える化します。</p> <p>得意なこと②: 道の駅や地域商社・DMOによる稼ぐ地域づくりの支援 →道の駅の新設・再生、地域商社やDMOの創業経験を活かし、1次2次3次の事業者を核に地域全体の外貨獲得の仕組みづくりを支援します。</p> <p>得意なこと③: 合意形成を軸に地域を主語にしたブランド化の支援 →関係者の合意形成を大切にしながら、開発や販促の“攻め”と商標制度等の“守り”をバランスよく押さえ、地域のブランド化につなげます。</p> <p>得意なこと④: 一歩踏み出すために走りながら考える伴走型の支援 →関係者が共有できる目的設定と、いまできる一歩目のアクションを決めて、動きながら改善・実践する行動マネジメントと一緒に伴走します。</p>
本田 勝之助	ほんだ かつのすけ	本田屋本店 有限会社	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農業と食から実績を積んだ地域プロデュースの総合専門会社を経営。</li> <li>2. 代表商品は「本田屋継承米(氏郷)」。肥料開発及び、生産管理、販売まで一貫して行っている。納入先には銀座久兵衛や金田中などの名店、京都伊右衛門サロンなどカフェレストラン等で使われている。</li> <li>3. 全国各市町村への戦略的アドバイス、ブランドや商品開発、産業活性化への各種取り組みなどの要望に応え、地域との官民連携で戦略的にプロデュースしている。</li> <li>4. 伝統工芸品のリブランド、商品開発。(Futradition WAOとの協業)</li> <li>5. クリエイティブ: PR制作物(コピー、ポスター、リーフレット、映像、各種)</li> <li>6. 観光やまちづくり、スマートシティ等のモデルづくり。</li> <li>7. 日本遺産認定の全地域に対しての統括プロデューサー業務</li> </ol>
本田 節	ほんだ せつ	有限会社 ひまわり亭	<p>1998年に、地域のボランティアグループ「ひまわりグループ」のメンバーと共に地域の主婦たちによる地産地消の農村レストランを立ち上げました。</p> <p>「もったいない」をキーワードとし、地域の財産ともいえる「おばちゃん・おばあちゃんの知恵・経験・技・感性」を活かさないと「もったいない」、地域の素晴らしい食材を活かさないと「もったいない」、取り壊し寸前の築120年の古民家が「もったいない」、ということと古民家を移築したお店を拠点に地域の素材を出来る限り活用し、安心安全な食を提供しています。</p> <p>また、「食」を通して、地域づくりへの貢献や食育活動、女性の起業アドバイスにも力を注いでいます。</p> <p>さらに、2002年頃からは、グリーンツーリズムの推進にも積極的に取り組んでおり、地元地域を巻き込んで「広域連携によるグリーンツーリズム実践」を推進しています。</p> <p>日本各地、さらには韓国等国外からの視察研修を受入れており、学生のインターンなども積極的に受入れております。</p>
前神 有里	まえがみ ゆり	(一財)地域活性化センター/愛媛県伊予市移住サポートセンターいよりん	<p>取組のキーワードは、人財育成、移住、関係人口、希望活動人口、遠隔地・遠隔自治体間連携、虐待防止、権利擁護、生活困窮者支援、地域共生社会です。課題から入るのではなく新しい価値を創造することで解決していく、巻き込みよりも共感で仲間を増やそうにしています。人・コト・地域・取組を横につないでいく「横結(よこゆい)」、異分野連携・広域連携・遠隔地連携が得意です。若手職員・学生人財育成、移住交流の地域づくり、横結の地域づくり・人づくり・仕組みづくり・場づくりの研修・ワークショップ・計画策定、事業進め方等、お気軽にご相談ください。</p>
前畑 洋平	まえはた ようへい	特定非営利活動法人J-heritage	<p>&lt;業務内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業遺産を活用したツーリズム事業の開発・推進</li> <li>・産業遺産を活用したアートプロジェクトのプロデュース</li> <li>・産業遺産を活用する組織の立上げ及びガイド等の人材育成</li> <li>・産業遺産を活用する人・組織のネットワーク構築</li> <li>・地域資源を活用した地域内外の交流推進</li> <li>・地域資源の発掘および活用するためのワークショップの実施</li> <li>・地域資源の戦略的な情報発信を行うための支援指導</li> </ul>
町田 直子	まちだ なおこ	特定非営利活動法人 ACTY/株式会社ACプロモート	<p>NPO法人と株式会社にて地域ブランディング戦略による地域プロデュースをすすめています。NPOでは、環境省が設置した種差海岸インフォメーションセンターの運営管理、「みちのく潮風トレイル」の運営管理を担いながら、青森県ならではの地域資源を最大限にいかしながらブランディング化をすすめ、地域経済の活性化をすすめています。地元住民とのネットワークを構築し、地域が主体となり参加できるシステムを作っています。株式会社では、観光開発に力をいれ、着地型体験の旅行商品を作成し、漁業者、農業者、または三セク鉄道との連携によるプログラムを多数開発・販売しています。中心街にカフェを設置し、情報発信の拠点として、また観光客の拠点として運営をしています。カフェ事業部、お土産品の販売、ツアーの商品化により、開発から商品化を一貫して行います。地域ブランド戦略による事業展開を進めています。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
松嶋 匡史	まつしま ただし	株式会社瀬戸内ジャムズガーデン	手作りジャム専門店「株式会社瀬戸内ジャムズガーデン」代表取締役。周防大島観光協会副会長のほか山口県のキャリア教育推進委員や活力創出推進会議委員なども務める。 2001年10月に新婚旅行先のパリでジャム屋と出会い2003年11月個人事業として手作りジャム専門店を高齢化率日本一と言われた瀬戸内の島、周防大島(山口県)にて創業。 耕作放棄地を借り受けて自社農業部門を立上げ、現在はブルーベリー・あんず・金時いも・いちご等を生産。店舗では自家製ジャムを活用したスイーツが楽しめるカフェギャラリーを運営するなど、ジャム加工のみでなく、農業(一次産業)・加工工業(二次産業)・サービス業(三次産業)をミックスした6次産業形態の事業を展開。地域を巻き込んだ6次産業化を実現している。地域資源を活用し、地域に産業と雇用を創出することを主眼に活動を展開し、現在では首都圏からの移住者を含めスタッフは30人の規模。最近はお寺と連携した空き家のリノベーションで移住者の呼び込みを行ったり、全国初の小中高連携起業家教育への取り組みなど活動は多種多様。2014年新書大賞受賞の「里山資本主義(角川書店)」などでその取り組みが紹介されている。
松島 信雄	まつしま のぶお	(公益財団法人)南信州・飯田産業センター	地域の中小企業の体質改革と新産業クラスター形成に取り組んでいる。事業は4つの柱を基本にしている。 ①ネットワーク形成と地域連携事業: 広域連携としては新潟等との協力活動を展開している。飯田地域においては企業間の交流を通して相互の信頼を高め、協力風土の醸成を図っている。また産学公の連携で地域のポテンシャルアップに繋げている。 ②新産業クラスターの育成: 航空宇宙クラスターの形成を重点プロジェクトとして位置づけている。 4つのワーキングチーム活動を通してQMSの体制確立や技術の向上を図りながら地域一貫生産、共同受注を目指し、実績を上げている。 ③販路開拓支援: マーケティング機能を持たない中小企業にとって販路開拓は大きな課題である。海外も含めた展示会出展や顧客開拓支援に力を注いでいる。海外市場開拓支援としてParis, Farnborough, Belrin, Singapore, HK, Toulouse, NBAA等のAirshowに出展参加してきた。 ④人材育成: 技術・技能のレベルアップと後継者育成を目指して、働きながら学ぶ風土を醸成しようと産業技術大学を立ち上げ人材育成に注力している。年間150社を超える企業から延べ1000~2000人近い企業人が学んでいる。2014年には地域企業人材共同育成事業の経産省委託を受け、地域共同人材育成プロジェクトマネージャーも務めた。航空宇宙のQAと生産技術コンサルティング、非破壊検査員の育成に取り組んでいる。
松場 登美	まつば とみ	(株)石見銀山生活文化研究所 /(株)他郷阿部家	石見銀山生活文化研究所では衣・食・住のデザインに取り組み、衣においては国内の素材と加工にこだわった商品の企画製造販売、食においては再生した民家を活用した飲食店の経営、石見銀山で発見した梅花酵母菌を生かした商品開発、住においては島根県大田市大森町で約20年にわたり民家再生を行っている。大田市大森町以外に、東京・西荻窪の昭和初期の民家を再生し活用している。
松橋 京子	まつはし きょうこ	-	2015年ニセコ花園に「坐忘林」を立ち上げ、開業2年もたずして「ミシュランガイド北海道2017」で5つ星を獲得、地域の核となるオンリーワンの宿づくりに寄与。現在はホテル、旅館再生、新規立ち上げ、レストラン誘致やオープンの実行プランの企画、道外企業や外資の新しいプロジェクトのマーケティング支援や商品開発のブランディング、販路拡大など多岐にわたる事業の相談に対応。自治体などではおもてなしの極意や、中学、高校、大学ではキャリアデザインなど新しい切り口のセミナーや講話なども実施。
松原 裕樹	まつばら ひろき	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター	1982年広島生まれ。NPOや企業、渡米経験を経て、環境、教育、地域づくり、観光、防災などに関する事業の企画、運営、コーディネートを行っている。2017年からひろしまNPOセンター事務局長に就任。ゆたかな市民社会の実現に向けて、NPOやボランティア活動の支援、地域課題の解決やSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた多様な主体との協働に取り組む。平成30年7月豪雨災害では広島市災害ボランティア本部の副本部長を務めた。環境省中国環境パートナーシップオフィス(EPOちゅうごく)・中国地方ESD活動支援センター 事務局長。
松村 拓也	まつむら たくや	一般社団法人 日本土地資源協会	地域活性化とは「地域の担い手たちによる事業創出」のはずなのに、肝心な土地所有者が地域を諦め、土地や建物の放置が増えています。 そこで、 ①土地の所有者と事業者と利用者の交流の促進 ②土地所有者による遊休資源に関する情報開示の促進 ③事業者や利用者による所有者への事業提案の促進 に取り組むことで、所有者を事業者に・事業者を所有者に変化させ、「所有者による土地活用事業の創出」を促進しています。
政所 利子	まんどころ としこ	株式会社 玄(げん)	1. 地域/環境計画・総合プロデュース 地域計画・環境計画・公共事業・事業計画・産業活性化計画の総合プロデュース 2. 地域ブランド/国産ブランド/商品開発・商品企画/人材教育 プロダクト・ブランニング・ビジネスプロデュース・メディア計画 3. 地域PR・SP計画の企画制作 SP企画、マーケティング計画、メディア計画、総合コミュニケーションプロジェクト 4. 行催事の企画制作・実施/海外向け地域ブランドPR事業の企画制作 イベントのブランニングからのプロデュース、実施 5. グラフィック・エディトリアル・映像・立体デザインの企画制作 SP・PR・コピー編集、デザイン、展示映像制作等のマルチメディア企画 6. 都市計画・地域計画・事業計画に関わるソフト事業の企画・設計と運営管理 地域計画に関連する人材教育の各種ツール制作、快適環境整備等のソフト事業設計 7. 和学塾食会議事務局 国産食材のPR事業を通じて国内農産品生産地の活性化と次世代の後継者づくりに貢献します。
三木 茂樹	みき しげき	一般社団法人国際交流サービス協会	・2011年「会津若松市訪日外国人旅行者の受入環境整備」(観光庁)プロデュース ・2013年「在京外国人留学生島根県モニターツアー」(島根県)プロデュース ・2015年「平成26年度外務省地方連携フォーラム分科会」(外務省)講師 ・2016年「駐日各国大使館員高島町(山形県)視察ツアー」(高島町)プロデュース ・2016~2018年「都内ホテルコンシェルジュとの連携によるインバウンド富裕層の地域誘客事業」(経済産業省関東経済産業局)専門家 ・2017年「平成29年度東京都インバウンド専門家派遣(宿泊)」(東京都)アドバイザー ・2018,19年「ミスインターナショナル各国代表加賀ツアー」(加賀市)プロデュース ・2019年「駐日各国大使館員長野県視察ツアー」(長野県)プロデュース ・2019年「農泊地域高度化推進事業(石巻市雄勝町)」(東北農政局)アドバイザー ・インバウンドセミナー講演:北海道、宮城県、新潟県、群馬県、沖縄県、他多数 ・外国人富裕層やVIPが喜ぶおもてなしや体験観光等のアドバイス

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
水野 正文	みずの まさふみ	郡上大和総合開発株式会社	1993年から古今伝授の里づくりに関わり和歌文化の拠点施設「古今伝授の里フィールドミュージアム」をオープン。1999年「やまと温泉やすらぎ館」の立上げ、営業指導を行い雇用の創出、福祉向上を図る。続いて2001年「くつろぎ広場」、道の駅をオープンさせ、特産品開発、販売サービス、営業指導管理を行い、若者・女性の働き場を確保。2005年に東海北陸自動車道「ぎふ大和PA」内にサービス施設をオープンさせ、高速交通網を活かした特産品の販売拠点を整備。4施設設の経営管理を市から指定管理料0円で3セクが受託し、その利益から順調に開発型インター借入金金を償還。2007年から郡上地域活性化協議会・交流部会長として、国の地方の元気再生事業により「郡上長良川源流域森と川の恵み集落再生実証事業」に取り組む。県のアグリマスターとして、他市を指導。全国的には、三重県、鳥取県、九州、福井県でのまちづくり、3セク経営などの講演活動と共に、関係者の現地研修受入指導を実施。また、JICAに協力し、中国、ブルガリア、ベトナム、中央アジアからの視察研修受入指導、ベトナムにおける国道の駅管理運営指導を行う。 NPO法人コミシス郡上の監事として、福祉、教育活動を行う。 現在は郡上市役所を早期退職し、まちづくりを行う第三セクターの代表取締役として、経営管理を行っている。
御園 慎一郎	みその しんいちろう	大阪大学ノ地域活性学会	・自治省入省後、地方財政制度の企画立案に参画。また、福井県、愛知県、茨城県において県政運営に関わるとともに県下市町村の行財政運営にも関与する。制度立案過程の構造と組織運営の提言を学ぶ ・サッカープレーヤーであったことなどによる日本サッカー界との縁で2002FIFAワールドカップ組織委員会に勤務。アジアで初めて、初めての共同開催というワールドカップの成功に寄与。スポーツの持つ一体感や形成力を実感するとともにサポーターとの距離感の取り方の重要性や国際的事業における交渉力の大切さを痛感。 ・内閣官房地域再生本部において地域社会の活力を構築するための国家組織をあげてのシステムを構築。その一環として地域再生法を制定。全国に地域再生の輪を広げる。 ・地域再生のため大学との連携システムを考案。「地域再生システム論」として30を上回る大学における地域活性化講座開設に寄与。自らも複数の大学で教鞭もとる。 ・地域活性化をともに語りともに進めるための集団としての「地域活性学会」の設立を提案。発足にも貢献。現在副会長として学会活動の進展、とりわけ学会スポーツ振興部会長として2020東京オリンピックパラリンピックのホストタウン運動を契機とした地域づくりの支援活動を積極的に展開中。 ・厚生労働省において介護保険や生活保護などを担当。介護予防を地域で支える事業の一環として「リーグのチームによる地域の健康作り活動の展開を提唱し実現」。その延長線上の活動として医療介護のサービスの質の向上や究極の地域づくりである「地域包括ケアシステムの構築」に際して欠かすことのできないヘルスデータをクラウド上で管理することを目的とするNPO法人の活動を展開中。
満尾 哲広	みつお あきひろ	フルライトスペース株式会社	図書館を含めた、公共施設の新しいあり方・役割・運営方法が見直され、注目されている昨今において、公共図書館の計画だけでなく、実際の現場にて計画から準備、そして運営をマネジメントの観点から支援を行います。 全国の様々な地域の図書館や関連施設整備を支援してきた経験は、公共図書館の更なるまちづくりの拠点機能への活かされるものであり、抱えている課題や状況、条件の異なる中で、画一的な図書館・公共施設ではなく、その地域に合った機能の提供などを地域や地域の方々と一緒に取り組むことで、地域の課題解決につなげていきます。
宮 桂子	みや けいこ	NPO法人 菜の花トラスト	'97菜の花サポーター(第1期)登録
宮城 治男	みやぎ はるお	特定非営利活動法人ETIC(エティック)	自らの意志と行動で社会の課題を解決し新しい価値を生み出す「起業家型リーダー」の育成及び輩出並びに「起業家型リーダー」を育む社会基盤の創造及び整備を行うことを通じて社会全体の改革を創造し、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。 取組概要 (1) 起業家型リーダー育成事業 (2) 起業家型リーダーを育む社会基盤創造整備事業 (3) 職業紹介及び労働者派遣事業 (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
三宅 曜子	みやけ ようこ	(株)クリエイティブ・ワイズ 株式会社マーケティング・ナビ	女性の感性を生かし、消費者ニーズを的確にとらえた中小企業のマーケティング全般の支援、地域の活性化事業支援を行っています。特に食関連のマーケティングに関しては、メニュー開発をはじめとする商品開発、パッケージやラベル、広告戦略、販路開拓までトータルに支援。工芸品に関しては、広島県熊野町の化粧筆を世界レベルのブランドにプロデュースするなど、商品開発から戦略支援までを実施。2007年、経済産業省の中小企業地域資源活用事業プログラムの政策審議会委員、また、衆議院経済産業委員会、中小企業地域資源活用促進法案参考人として国会に立ちました。以後、地域資源を活用した商品開発や販売促進、販路開拓、観光事業開発、農工商連携事業や農業の六次化、建設業の業態拡張や業態転換、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、海外展開支援等、中小企業の活性化に対する幅広いインソーン支援を行っています。
村上 和子	むらかみ かずこ	NPO法人神戸グランドアンカー	1) みなとの文化交流施設「TEN×TEN神戸元町」の企画運営。 2) 神戸港の親水ゾーンの人の賑わい創成へ向けた取り組み。
望月 孝	もちつき たかし	株式会社プロジェクト地域活性	東北地域において、地域の人財育成・確保、農工商連携等6次産業化・地域ブランドの推進、観光・ツーリズムの推進等、地域の「人財」を核にして地域活性化を支援しています。現在、東日本大震災からの復興農工商連携等6次産業化による地域の活性化に重点を置き、東北地域の6次産業化を担う人財を育成・確保する『6次産業化プロデューサー育成塾』東北のムラで働き隊！プロジェクト』等の取組みを実施しています。
森賀 盾雄	もりが たてお	人間環境大学	36年間「はみ出し公務員」といわれ、新居浜市職員として前例のないことを主に取り組んできた。市職員退職一年前に愛媛大学に引っ張られて専任准教授になり、一年後に経済学博士学位を取得し、さらにもう一年後に教授になった。担当科目は「起業論」「マーケティング論」「地域マネジメント論」など。愛媛大学では愛媛大学紙産業修士コース創設に中心的役割を担い2010年に開設(現・バイオマス資源学コースとして全国の紙産業の研究・教育の拠点化を進めている)。2015年に六年間の専任教員を退職し、非常勤講師をしながら地域人材づくりに奔走。愛媛大学社会人講座修了生(愛媛県内をはじめ近県165名)を中心とした「地域再生塾」塾長、高知県須崎市「須崎未来塾」塾長などで、人と地域に内在して地域づくりに取り組んでいる。産業遺産活用では我が国草創の頃から30年以上取り組み、新居浜市の新しい顔に定着させた。市職員・大学教員・地域人材塾で蓄積した地域現場に適合した知的地域づくりを進めている。得意とするのはイノベーション論・マネジメント論・マーケティング論の様々な分野に横断的に適用した分析・実践である。
森田 潔	もりた きよし	一般社団法人 神戸港振興協会	①地域の様々なイベントの実施 ・神戸港カッターレース～横浜・大阪・広島・南淡町・豊岡市など 全国のカッターレースに実施要領を提供し各地で開催されるようになった。 ・メリケンフェスタ、みなとこくべ海上花火大会、Kobe Love Portみなとまつり、KOBEみなとマルシェ、波止場まつり、神戸港フオークリフト荷役技能向上大会、神戸まつりヨットレース、神戸港ポート天国、ロープワーク教室、ボトルシップ教室、市民クルージング、体験航海、進水式見学会など ②産業観光への取組み ・コーディネーターとして案内したり、旅行商品となりうるものの発掘 ③クルーズ客船や帆船の入出港の歓送迎や船内一般公開の実施 ④海人材の育成 ・県下の小・中学校への出前授業や船を使った海上からの港の見学等
森本 明夫	もりもと あきお	COテクノロジー株式会社	-

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
森山 明能	もりやま あきよし	七尾自動車学校／株式会社御蔵川／一般社団法人地域・人材共創機構	<p>故郷である石川県七尾市をベースに、民間まちづくり会社のシニアコーディネーターとして地域や企業の担い手の挑戦をサポートしています。地域ネット商社機能／インタープロジェクトの開発・マッチング・実施運営／クラウドファンディング募集サポートなど複数の支援メニューを組み合わせ「マチ・ミセ・ヒト」の関係性の再構築を目指しています。特に、「能登留学」では、これまでに200名を超える大学生(内、長期100名超)と地域の企業／組織をつなげ、受入先の改革・活性化を支援すると共に、若手人材の地域誘致に結びつけて来ています。また、上記のサービスについて効率よく利用してもらうことと地域の人材育成を組み合わせプロジェクトとして、2015年10月からはコミュニティ大学「御蔵川大学」の運営もスタートしました。</p> <p>近年は、能登と首都圏の人や組織を結びつけて実施するプロジェクトのコーディネートに多く関わっています。具体例として、丸の内朝大学では、地域プロデューサークラス受講生受入をきっかけに能登島地区の若手経営者・公務員・漁師などが集まったコミュニティ組織「能登島観光協会青年部」の発足に携わりました。同組織が主催しているコミュニティ観光プログラム「うれし！たのし！島流し！」はリピーター率6割を超える人気プログラムに成長し、能登島の地域づくり人材の育成と東京における能登島コミュニティの醸成に繋がってきています。</p> <p>このように七尾自動車学校(家業)も含めた地域内での活動をベースとしつつも、能登のトライセクターリーダーとして活躍していけるよう、能登／首都圏、民間／行政、公／私などの隔たり無き活動を行っています。</p>
矢口 正武	やぐち まさたけ	NPO法人 元気・まちネット	<p>多くの地方は少子高齢化によって過疎化が進んでいます。</p> <p>元気・まちネットは、そうした過疎に悩む地方から、相談を頂ければ出かけて行き、地元の皆さんと膝を交えてお話をし、その土地にまつわる歴史・文化を掘り起こし、その土地ならではの活性化に寄与出来ればと考えています。</p> <p>また、スポーツイベントの開催にしても協会や連盟などに登録しなくても可能なローカルルールを考案・構築して、地元の方々も一緒に参加出来る、楽しめる企画を考案出来ます。</p>
谷中 修吾	やなか しゅうご	地方創生イノベータープラットフォーム INSPIRE／BBT大学 経営学部グローバル経営学科	<p>◆価値創造型の超絶まちづくり～突き抜けたアイデアを事業化する～</p> <p>国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE(インスパイア)」を立ち上げ、日本全国の地方創生まちづくりで活躍するイノベーターを束ね、彼らの実践しているノウハウを体系化した「超絶まちづくりの集合知」を社会にシェアする取組を推進している。1万人の地方創生イノベーターコミュニティを形成し、中央省庁、地方自治体、グローバルカンパニーとのタイアップ事業を展開。突き抜けたアイデアから事業を生み出す価値創造型のビジネスデザイン技法を伝授するとともに、地域における「イノベーターの発掘・育成・活用」を支援している。アイデアソンやアクセラレータなどの事業プロデュースに関する専門的知見を活かし、日本全国で地域におけるイノベータープラットフォームを構築した支援実績多数。また、ビジネススクール(MBA)教授として教鞭を執り、理論と実践に基づいて、地域に対して再現性のある実務ノウハウの伝授に努めている。</p> <p>【主たる支援内容】①価値創造型のビジネスデザイン技法の伝授(講話、ワークショップ)、②イノベーターの発掘・育成・活用を通じた地域イノベータープラットフォームの構築支援(カンファレンス、アイデアソン、アクセラレータ)、③地方創生事業の総合プロデュース(プロデューサー、アドバイザー)</p>
矢野 邦子	やの くにこ	FoodDesignアトリエやの	<p>農山漁村の課題解決のための6次産業化について助言・商品開発等を行っています。</p> <p>例1 真鯛の一夜干しを作るときに出る真鯛の骨の商品化。真鯛の骨をベスト状にしてベジマメルソースを考案。FOODXで金賞受賞。</p> <p>例2 毎年10トンもの規格外トマトの破棄に悩んだ地域でトマトの6次産業化。農家レストランのトマトキーマカレーを開発。山村の農家レストランに毎月3千人の人が来るようになる。他</p> <p>中央商店街の賑わい創出事業は、歩道が拡張整備され憩いの場となるよう、イベントを企画運営・助言・指導します。</p> <p>例1 通りで本物の結婚式 商店街を幸せなイメージブランディング。商店街にあるブライダル専門学校とコラボ企画。地元の商店街の花屋さんが通りを飾る。</p> <p>例2 俳人正岡子規の生誕の地を活用し吟行や正岡子規が書いた仰臥漫録から正岡子規が食べたであろうノボサンカレーを作り参加者へふるまう。他</p> <p>その地域に合った課題解決に向けて、多くの話し合いの中から地域の課題解決と、何を継続的にしていきたいのかを見極め、地域の皆さんとともに作り上げていきましょう。講演依頼も引き受けますので、まちづくりのきっかけに活用してください。</p>
矢野 富夫	やの とみお	高知県橋原町	<p>町長時代に、町民の不安に思うことや町内外の意見等を調査分析し、絆と自立をキーワードに、小さな拠点ゆずはらづくりを掲げ、「自分たちでできることは自分たちです」を合言葉に、地域の課題を解決する小さな拠点・地域運営組織(橋原町では集落活動センターという。)を町内全域に6ヶ所設立するとともに、ゆずはら未来大使を任命している国立競技場を設計した世界的建築家隈研吾氏とともにまちづくりに取り組み、町内にある隈研吾氏が設計した6つの建築物を生かしながら、町民みんなと心をつなぐ、生きる仕組みをつくり、人口減少に歯止めがかかりはじめるなど、まちづくりのモデルとなっている。</p> <p>そうした経験から、全国各地の大学、各種団体、市町村や市町村議会等に出向いての講演や内閣府の小さな拠点・地域運営組織の形成推進に関する有識者懇談会委員及び学校法人平成学園アドバイザー等の活動を行う。</p>
山川 進	やまかわ すずむ	公益財団法人 三重県産業支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「企業誘致」…製薬会社、外資系企業など大型企業誘致を実現。東京、福岡において「SOHO(スモールオフィス・ホームオフィス)形態」での企業誘致活動を行い、企業・行政との新たなネットワーク構築を行う。</li> <li>・「新たな企業投資促進制度の創設」…マイレージ制度、マザー工場化の促進などを柱とする新たな制度を創設し、県内への企業投資を促進。</li> <li>・「コンビナートの再生」…行政・産業界が協働した、規制改革や新たな産業展開の内容を「パッケージ」とし、構造改革特区に申請、第1号認定を受けることに尽力する。</li> <li>・「様々な連携」…「地域発のオープン・イノベーション創出」を行う「高度人材イノベーションセンター(AMIC)」を三重県四日市市に設置。地域の産業構造の「知識集約型産業構造」への転換を目指す。ここで、現在も異業種・同業種連携、大企業と中小企業の連携、各種課題解決、産業人材の育成などを行っている。</li> <li>・「温泉街の活性化」…三重県孤野町の湯ノ山温泉にて、各業者での取組を地域一丸となったものへとコーディネートし、「女将の会」結成などにつなげる。</li> <li>・「町おこしリーダー研修」…三重県紀北町の町おこしリーダー研修にてアドバイザーを務め、研修生の成果を行政や地元産業界とも連携した継続的な取組へと繋げる。</li> <li>・「中小企業連携(シンジケート)の促進」…複数のものづくり中小企業が得意とする技術やノウハウを結集し、技術レベル向上や新たな市場開拓などにつなげるための中小企業連携体の構成に尽力。三重県には全国トップクラスの連携体が構成されるに至っている。</li> <li>・「三重県海外ビジネスサポートデスクの開設」…成長する新興国等の市場を取り込むため、中小企業の海外展開を支援する「海外ビジネスサポートデスク(中国、ASEAN)」の設置に尽力。</li> <li>・「三重県と北海道との産業連携」…「『三重県・北海道』産業連携推進会議」の設立に尽力。三重県と北海道の「ものづくり技術」と「地域資源」の連携を進め、新たなビジネスの創出、さらには地域経済の活性化に繋げる。</li> <li>・「首都圏営業拠点「三重テラス」…東京日本橋において、三重県の魅力を総合的に発信する拠点「三重テラス」の開設に尽力。</li> <li>・「三重県中小企業・小規模振興条例の策定」に尽力</li> <li>・職員研修センターで県職員向けの研修を実施。三重県職員の人づくりの参画、三重県の商工部門の第1人者として活躍した経験に基づき、自ら研修講師として三重県職員に語りかけることで、現場を大切にしている職員を育成。</li> <li>・経済産業省の「ひとづくりの切磋琢磨による地域創生実行会議」の委員として参画。</li> <li>・沖繩県と連携して、沖繩の物流特区を活用した東アジア戦略を模索するほか、他地域との連携を検討中。さらに地域のコアとなる中小企業との連携を深めて、海外への販路拡大や現地の人材育成の取組を進める。</li> <li>・各地の事業者や産業支援機関と連携し、地域産品の販売や中小企業が連携した新たなビジネスや人材交流を促進。</li> </ul>



氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
山岸 秀雄	やまぎし ひでお	NPOサポートセンター/法政大学 名誉教授	NPOの社会的役割である「地域・社会の課題解決と社会システムの変革」をよびかけ、全国のNPOと中間支援組織の支援を続けて約4半世紀が経った。NPOには様々な役割があるが、私とNPOサポートセンターは人材育成・雇用問題と政策提言を軸に「産官学民プラットフォーム」(NPOと大学を主軸にしたコミュニティ創り)、社会的企業、新しいコミュニティ創造としてのマンション問題の実験、NPOの教育力による地域教育の再生等に取組んでいる。個人的には湘南最大の自然(660ヘクタール)を誇る二子山系自然保護活動の理事長として産官学民の協働事業を行ってきた。
山口 成美	やまぐち なるみ	有限会社 シュシュ	地域農業の活性化を目指し平成8年にビニールハウスで農産物直売所をオープン後様々な施設を建設し、現在では農業交流拠点施設おおむら夢ファームシュシュに年間49万人の来場者を迎えており従業員数約80名で地域の活性化及び雇用に大きく役立っている。 また、六次産業にも積極的に取り組んでおり、アイス、パン、洋菓子、レストラン、農産物加工センター等で地域で採れた農畜産物を加工販売することにより農家の所得向上と付加価値を高めた地域ブランド商品作りを行なっている。 他にもグリーンツーリズムによる地域の活性化も行なっており、イチゴ、梨、ブドウ、ブルーベリー等の観光農園や農家民泊にも取り組んでおり、都市と農村の交流を行なっている。
山下 真輝	やました まさき	株式会社JTB総合研究所	JTBグループが推進する観光を基軸にした地域活性化事業である地域交流事業の推進役として戦略策定や人材育成などに取組み、全国各地の自治体との連携による観光振興に関わる各種支援を行っている。(一社)日本スポーツツーリズム推進機構の設立メンバーとして、観光庁におけるスポーツツーリズム政策策定に関わっている。また福岡市等の都市におけるMICE戦略策定、訪日外国人旅行者誘致にむけた受入体制づくり、食・食文化を活かしたガストロノミーツーリズムなど幅広い分野の観光振興の戦略策定にむけたアドバイスをし、全国各地のセミナー・シンポジウムに多数出演している。 日本地域広告協会主催・観光マーケティング実務者養成講座、日本フードツーリズム協会主催・フードツーリズムマイスター養成講座、古民家ツーリズム協議会主催・古民家ツーリズムまちづくりプランナー講習等の各種講座で講師を務めている。 地域住民を巻き込んだ着地型旅行商品づくりを通じた地域ブランドづくりの手法として「地域デザインング」を提唱し、各地でワークショップを開催している。
山下 雅司	やました まさし	ヤマシタ経営診断支援オフィス	(1) 全国商店街支援パートナーとしての受託業務 ① トータルプラン作成支援事業(プランづくりコース) ・ 網走中央商店街振興組合(平成25年度～平成26年度) ・ 粟山駅前通り商店街(平成26年度) ・ 根室市緑町商店街振興組合(平成27年度) (2) 経済産業省補助事業に係る調査事業 ・ 平成26年度北竜町商業自立促進調査分析事業(ニーズ調査) ・ 平成28年度根室市地域まちなか商業活性化支援事業(ニーズ調査) ・ 平成28年度森町地域まちなか商業活性化支援事業(ニーズ調査) ・ 平成28年度斜里町伴走型小規模事業者支援推進事業(ニーズ調査) ・ 平成30年度紋別市商業活性化に向けた行政連携による共通ポイントカードシステム等導入に向けた調査分析事業 ・ 浦河町大通商店街 活性化に向けた行政連携による共通ポイントカードシステム等導入に向けた調査分析事業 ・ 令和元年度小清水町地域まちなか活性化 ・ 魅力創出支援事業に係る調査分析事業 ・ 新十津川町商工会商店街活性化調査研究事業 (3) 道の駅に関する経営診断: 真狩フラワー振興公社・美深町 双子座館(実態調査) 滝川市・中札内村・大樹町・忠類村 (4) 地域振興計画の策定 清水町・北竜町・余市町・芦別市・栗山町・初山別村・幌加内町他
山田 桂一郎	やまだ けいいちろう	JTIC.SWISS	これまで北海道から沖縄県の離島まで全国各地のあらゆる地域振興や活性化に関わってきました。特に、住民主体の地域経営組織の立ち上げと運営や民間事業として様々なビジネス化による 収益事業で成果をあげています。基本は全て「自立」と「持続」です。また、政策、施策、事業化には地域経営の視点を重視しています。どれだけ良い計画やデザインであったとしても人間社会の「エコ」と「利害」により全てが崩壊します。多くの地域で、行政の単年度やりっぱなし事業で地域が疲弊疲弊している現実があります。地域 住民も何をやって良いのか全くわからない場合もあります。それ以上に目の前の生活に困っていない人もいます。このような状況から脱出するためには、地域の問題、課題を自分事として住民が認識することが重要であり、住民が根本的な解決と共に自らの未来を切り開く活動に取り組むことが必要です。学問や机上の空論の世界ではなく、日々現場で地域の生き残りを皆さんと一緒に真剣に考え、実践しています
山田 崇	やまだ たかし	空き家から始まる商店街の賑わい創出プロジェクトnanoda(ののだ)	「空き家から始まる商店街の賑わい創出プロジェクトnanoda」を2012年4月から開始。「地域の課題を想像で捉えるのではなく、実際に住んでみると商店街の現状・課題は わからない」と、地元塩尻の「大門商店街」に空き家を借りて可能な限り身を置き、毎朝降りてしまったシャッターを開ける取り組みから、地域、大学生、首都圏の社会人を巻き込むプロジェクトに発展。「信州移住計画」2015年6月スタート。地域の外に飛び出すと、地域の中に遊びに来る人が増える。「空き家nanoda」は、交流 人口増加や移住者コミュニティとしての受け皿に発展。結果、商店街の空き店舗だった 拠点に10ヶ月で126人が短期滞在、4年間で商店街に9人が移住。民間団体等と連携した「信州移住計画」を設立。京都からスタートした「京都移住計画」、全国的に広がりを みせる「みんなの移住計画」との連携により、「好きなまちで自分らしく暮らす」をコンセプトとした若者の移住定住支援を行う。
山田 拓	やまだ たく	株式会社美ら地球	2007年、「クールな田舎をプロデュースする」株式会社美ら地球を飛騨古川に設立。 自らの旅人経験を活かし、里山や民家など地域資源を活用したツーリズムを推進する。 ボランティア活動や調査など、地域住民との地域資源の保全活動をベースとし、国内外のSATOYAMAに魅了される人々の1ストップソリューション「SATOYAMA EXPERIENCE」をプロデュース。 農村集落を巡るガイドツアー「飛騨里山サイクリング」、古民家をオフィス用途に転用した「里山オフィスプロジェクト」など、中山間地での新たな複数のビジネスを内包する。 近年は、地方部各地でのツーリズム・ビジネスの立上げ支援や人材育成プロジェクトに従事する。著書に「外国人が熱狂するクールな田舎の作り方」(新潮新書)がある株式会社 美ら地球(ちゅらぼし) CEO、総務省 地域力創造アドバイザー、内閣官房クールジャパン・地域プロデューサー 奈良県生まれ。横浜国立大学大学院工学研究科修了。 (株)ブライスウォーターハウス・コンサルタント(現:IBM)にて多くのグローバル企業の企業変革支援に従事した後、退職。その後、(株)モンベル社等のスポンサー支援を受け、足かけ2年、29カ国にわたる世界放浪の旅に出発し、期間中はWebサイト「美ら地球回遊記」を通じて、小学校との交流、雑誌記事執筆、現地からのニュースレポートなどを行う。帰国後、地方部の原風景に受け継がれる日本文化の価値を再認識し、岐阜県の飛騨古川に移住。 2007年、「クールな田舎をプロデュースする」株式会社美ら地球を飛騨古川に設立。 自らの旅人経験を活かし、里山や民家など地域資源を活用したツーリズムを推進する。 ボランティア活動や調査など、地域住民との地域資源の保全活動をベースとし、国内外のSATOYAMAに魅了される人々の1ストップソリューション「SATOYAMA EXPERIENCE」をプロデュース。 農村集落を巡るガイドツアー「飛騨里山サイクリング」、古民家をオフィス用途に転用した「里山オフィスプロジェクト」など、中山間地での新たな複数のビジネスを内包する。 近年は、地方部各地でのツーリズム・ビジネスの立上げ支援や人材育成プロジェクトに従事する。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
山本 哲	やまもと さとし	NPO法人せんがまち倶楽部	「千榎(せんがまち)」の棚田を守ろうとNPO法人「せんがまち棚田倶楽部」が活動している。現理事長として、減り続ける棚田をなんとかしたいと思い、地元菊川市の上倉沢にある棚田を活動の場として、仲間と「千枚田を考える会」を発足。平成11年にこの棚田が静岡県内の「棚田等十選」に選ばれ、「棚田保全推進委員会」と名前を変えて米作りに本格的に乗り出した。その10年後にNPO法人となり、棚田オーナー制度を導入、「棚田いこうよ」と大勢の人に呼びかけて保全活動をしている。
山本 浩史	やまもと ひろし	NPO法人地域おこし	池谷・入山地区は、新潟県中越地震で被災し、廃村の危機にあったが、外部からのボランティアを受け入れたことをきっかけに、ボランティアの受入団体を母体に「十日町市地域おこし実行委員会」(現在のNPO法人地域おこし)が発足し、都市部との交流や移住促進、ブランド米の生産に取り組む。一度は6世帯13人まで減少した集落が11世帯25人にまで増えた「奇跡の集落」。
遊佐 順和	ゆさ よりかず	札幌国際大学短期大学部総合生活キャリア学科	<p>◆地域資源活用による地域の活性化と矜持形成の活動</p> <p>2013.7~2014.3 「域連携 北海道利3町活性化モデル事業」 - 利尻島、礼文島の地域資源を活用したご島地グルメ、観光マップの創作 -</p> <p>2015.10~2018.12 「日本の昆布文化と道内産地の経済社会の相互連関に関する研究」 (日本学術振興会「課題設定による先導的人文・社会学研究推進事業」 実社会対応プログラム(公募型研究テーマ)、研究分担者)</p> <p>2018.7~2018.9 「北の昆布展」実行委員会委員 (於:市立函館博物館)</p> <p>2018.8~2018.9 「フロから学ぶお昆布の旨み探訪(昆布の品種別6回シリーズ)」 ホテル、レストラン、老舗料亭の料理人、昆布屋主人等を講師に迎えた料理教室の企画運営 (於:函館市国際水産・海洋総合研究センター)</p> <p>2018.8 「北の昆布シンポジウム in HAKODATE」主催 (於:レストランバスク)</p> <p>2018.10 「鹿部町応援企画”食と健康からこれからの観光を考える夕べ”」主催 (於:札幌グランドホテル)</p> <p>◆地域資源の価値を学ぶ教育プログラムの開発</p> <p>① 奈良、京都の老舗名宿、料亭、和菓子屋等を巡り、北海道食材の優位性を五感で体感。 ② 那覇、首里、今帰仁、伊江島を巡り、独自の食文化、歴史、自然や伝統工芸などを学ぶ。</p>
養父 信夫	ようふ のぶお	一般社団法人 九州のムラ	1986年 九州大学法学部卒業後、株式会社リクルート入社 その後、1995年独立、「ムラの命をマチの暮らしに、マチの力をムラの生業に」を理念に、九州のグリーンツーリズムを拓ける活動を開始。翌97年、雑誌「九州のムラ」を発刊。2000年より編集長。民間企業と農村漁村を繋げる「ムラプロジェクト」、も開始。九州ムラ市場(マリノアシティ内、福岡地所関連会社)、九州ムラコレ市場(ネット通販、九州電力関連会社)、Gazoo MURA(トヨタ自動車)などの企画立案なども行う。2014年度からは一般社団法人九州のムラを立ち上げ、観光地域づくりについては全国に、環境地域づくりについては郷里宗像に特化して活動を開始。観光地域づくりの実績地域としては、長崎県東彼杵町(お茶専業農家を中心にインバウンドを展開。グリーンツーリズムの推進)、広島県府中市上下町(歴史町並みを活かした上下天領ツーリズムの推進)、和歌山県由良町(海の熊野古道プロジェクト、観光DMOの立ち上げ)など。また宗像では海の環境保全活動を推進するために、「海の鎮守の森プロジェクト」を開始。宗像国際環境会議を定期的に開催。
横田 純子	よこた じゅんこ	特定非営利活動法人 素材広場	<p>福島県地産地消推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県内の素材情報発信</li> <li>・受発注業務</li> </ul> <p>福島県地産地消企画事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿の地産地消に関わるリニューアルやスタッフ研修など</li> <li>・行政や会員外からの地産地消に関わる企画および運営</li> </ul> <p>旅行事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿の手配</li> <li>・体験プログラムの構築</li> <li>・着物レンタル</li> </ul>
善井 靖	よしい やすし	一般社団法人 観光マーケティング協会	<p>2000年に立ち上がった弊社は、平成15年から「地域活性化」の事業を先駆けて実施。事業展開を全国各地で展開している。平成28年~平成32年の事業テーマを「Inbound&amp;Outbound,DMO」とし、注力事業としてDMOコンサルティング、地域のインバウンド支援、地域情報サイト制作、MICE運営に取り組んでる。内閣府の地域活性化伝道師や、総務省の地域力創造アドバイザーに登録されている代表の吉井靖を中心として、日本中の地域でコンサルティング活動を行っている。</p> <p>男鹿市ではDMO形成の前の市民意識醸成施策として、地元中学生が大人たち(市職員、観光アドバイザー等)と一緒に地元の観光プログラムを作成。情勢や旅行代理店への交渉(プレゼンテーション)まで実施。地元の魅力と郷土愛を育むきっかけとなり、進学や就職でまちを離れた後も、いずれは戻ってきたいと思う次世代を育成する機会となった。また、地域課題が抱える課題に対し、確かな成果をあげたことが評価され、2017年度にJLAA地域創生アワード優秀賞を男鹿市職員とともに受賞した。</p> <p>茨城県鹿行地区では、5市の地域連携DMOのアドバイザーとして、「アントラーズ・ホームタウンDMO」の形成を図った。その他サービスとして、インバウンド誘客のためのサービスメニューを持っており、特に、海外放送局招へいサービスは、インバウンド誘客展開を図りたい自治体に高く評価され、東北観光推進機構のご依頼で、18年1月に東北六県の冬をテーマとした旅番組を招致し、台湾で地上波放送と、二次使用によるネット展開を実施している。民間会社においては、地方創生に取り組むにあたってのビジネスコンサルティングを担当している。2017年10月観光庁の後援を頂き、観光マーケティング実務責任者養成講座を開設し、全国のDMOの課題であるCMOの育成に取り組んでいる。</p>
吉澤 武彦	よしざわ たけひこ	一般社団法人 日本カーシェアリング協会	<p>寄付で集めた車を使った以下の3つの支援事業を行っています。</p> <p>①ご近所のカーシェアで支え合う地域を作るサポート(コミュニティ・カーシェアリング事業)</p> <p>被災地の高齢化・交通弱者・コミュニティ作りといった課題に向き合い作られた取組。従来のカーシェアと異なり①地域づくりを目的として、②住民がルールと役割を決めて運営を担い、③車の維持費など経費実費を平等に分担する特徴を持ちます。石巻市では地域づくりの手法として行われており、石巻で10地域・石巻以外の5地域の導入実績があります。(2020年3月時点)</p> <p>②災害時に車が不足して困らないための仕組み作り(モビリティ・レジリエンス事業)</p> <p>発災時に寄付車を現地に集め被災者や支援活動を行う組織に車を無料で貸し出す支援活動を行っています。いざという時に有機的な連携ができるような体制作りをサポートします。</p> <p>③人と地域を元気にする仕組み作り(ソーシャル・カーサポート事業)</p> <p>地域の自立支援のプロと連携した生活困窮者への低価格リースや、商業レンタカーが出店できない人口規模の地域を地域連携して訪れる人が車を借りれる仕組み作り等をサポートします。</p>
吉田 敦也	よしだ あつや	合同会社テクサラダ	<p>専門は人間中心主義の情報デザイン。コミュニティ基盤型学習プログラム開発、対話の場づくりとプロセスファシリテーション、未来設計など。長年にわたり地域創生の実践、リーダー育成、場づくりに取り組んでいます。2015年9月、3年間にわたる北欧調査を経て、国立大学初の徳島大学フューチャーセンターABAを設計・開設し、第29回日経ニューオフィス賞四国ニューオフィス推進賞を受賞。また、大学キャンパスを活用した徳大ファーマーズマーケットの開発/実践、徳島の豊かな自然を活用したハンズオンプログラム「上勝自然学校もりのべ」の開校にも成功し、感じる力をもった次世代育成、持続し変化に強いコミュニティ形成のための研究/開発/実践に乗り込んでいます。2018年からは徳島県小松島市と共同した「こまつしまりビングラボ」(JST未来共創事業)のプロジェクトリーダーに就任。一次産業/産業創発を基盤にした地方創生イノベーションを推進しています。このプログラムの中では、米国オレゴン州ポートランドやオランダと連携した日本初の「社会共創キャンプ」を実施しました。2019年、これらの経験に基づき、未来デザインと社会イノベーションのコンサルティングファーム「合同会社テクサラダ」を設立、CEOに就任。東京大手町エコノミア協会3x3 Lab Futureを拠点にしたインパクトデザイン研究会を主宰し、「古民家を活用した酒蔵ホテルづくり」プロジェクト等を実践しています。徳島大学では授業「SDGsと地域イノベーション」(総合科学部、非常勤)を担当しています。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
吉富 慎作	よしとみ しんさく	特定非営利活動法人 土佐山アカデミー	<p>■特定非営利活動法人土佐山アカデミーの取組み</p> <p>土佐山アカデミーは「次の100年のために、新たな出会いやアイデアを生み出す学びの場づくり」というミッションを掲げ、5つの事業ドメインを展開し、年間を通して開催している短期・長期ワークショップや研修には事業開始から延べ9,800人以上が受講しています。</p> <p>【TOSAYAMA ACADEMY(循環型の生活を地域の方から学ぶワークショップ群)】 は、日帰りから3ヶ月滞在型プログラムまで、地域の課題を資源と捉え、それに基づいた年間12本以上のワークショップを展開。</p> <p>【土佐山ワークステイ(中長期滞在支援サービス)】 都会の方に「家を貸し、車を貸し、コネを提供する」土佐山に滞在し、土佐山のための仕事をする方へのプログラム。</p> <p>【EDGE CAMP(中山間地域特化型起業家養成プログラム)】 「雇用がないだけで、仕事はある」。地域での仕事の作り方を6ヶ月間かけて仲間と共に学んでいくものであり、日本財団より補助を得て実施している。</p> <p>【TOSAYAMA Creative Camp(企業・団体研修)】 平成27年から実施。地域の課題を研修教材へと編集し、地域おこし協力隊の研修のみならず、高知県庁、大手企業本社等からの人材育成研修を行っている。</p> <p>【コンサルティング サービス】 企業の事業企画、他地域の地域づくり、交流人口増加のためのコンサルティングや行政の委託事業受注等。</p> <p>■受賞歴 2014年環境省グッドライフアワード 環境と学び特別賞 2016年農林水産省 オーライニッポン大賞受賞</p>
吉弘 拓生	よしひろ たくお	一般財団法人地域活性化センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域資源を活かした交流連携のまちづくり</li> <li>・森林セラピー導入に係る助言、現地指導、人材育成等の伴走支援</li> <li>・「森林サービス産業」に係る現地指導</li> <li>・地域循環共生圏導入にあたっての事前研修</li> <li>◆地方公務員を対象にした研修・講演</li> <li>・都道府県、市町村階層別研修講師(幹部職員研修、中堅職員・新規採用職員研修)</li> <li>◆金融機関等と連携した取り組み</li> <li>・奨学金創設に関するアドバイス</li> <li>・官民連携での地方創生の取り組みに係るアドバイザー</li> <li>◆働き方改革・ワーケーション</li> <li>・民間企業と連携したワーケーション誘致アドバイザー</li> <li>・自治体の企業誘致に係るアドバイザー、マッチング支援</li> </ul>
吉見 精二	よしみ せいじ	地域観光プロデュースセンター	<p>「地域は観光に頼らなければやっていけない！」とも言われています。とくに、地方は人口減少など直面する課題、時代の流れをどう受け止めるのか。しかし、地方には「文化がある自然がある」ことを活かした成功事例が多く見られます。全国のどこの地域でもがニュー観光地となる可能性があります。観光の魅力は人との感動の交流です。地域の人たちが主役になる観光が「ほんものの旅」です。みなさんの地域には宝物が溢れています。いっしょに探してみませんか。ニューツーリズムを通じて地域が元気になるお手伝いをいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流事業支援アドバイザー～地域観光創造・着地型観光実践ドワンク</li> <li>・地域力創造支援アドバイザー～まちづくり・地域活性化・地域の元気再生</li> <li>・DMO組織化支援コーディネーター～地域の新しい観光戦略にDMOの構築</li> </ul>
萬谷 正幸	よろずや まさゆき	山代温泉観光協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝統・文化を重視した温泉街づくりのカリスマ」</li> <li>・「団体遊興型観光で全国に名を馳せた」温泉観光地から、「個人・時間消費型観光」に対応した地域づくりを図るため、旅館施設の一部開放の推進、空き旅館・空き店舗対策事業を同氏自ら率先して着手。同氏自ら空き店舗運営している「べんがらや」は、地域の活性化事業の範となっている。また、2003年12月には、「山代温泉新CIコンセプトブック」を7年後の2010年12月に「山代温泉第2次CIプロジェクトの骨子」を策定し、3年後の北陸新幹線開通に向けた山代の魅力づくりのための3つのテーマを掲げ、新たなゴールを目指して山代温泉のブランドイメージの確立に尽力している。</li> <li>・2011年3月には、山代温泉のかねてからの懸案であった街の中心街である「湯の曲輪・総湯・古経湯」整備が完了。新たな事業展開の局面を迎えた。</li> <li>・2015年3月には、待望の北陸新幹線金沢開業を迎え、首都圏からの需要拡大の機会を迎え、地域住民による「おもてなし力」のレベルアップ、中心商店街の活性化策の検討、交通インフラ・情報インフラの整備促進等の推進を図っている。</li> </ul>
若林 宗男	わかばやし むねお	若林ビジネスサポート／事業構想大学院大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊富なメディア経験とコミュニケーション能力を活かして、企画、広報、イベント開催で強みを発揮、プレスリリースの記事化率は9割を超える。</li> <li>・島根県三郷町の「みさと暮らし5.0研究会」の委員、「みさと暮らし編集ラボ」講師。</li> <li>・福岡県八女市の八女商工会議所の観光振興事業のアドバイザー。滞在型観光の重要性を説き、2020年4月に築100年以上の古民家ホテルNIPPONIA HOTEL八女福島商家町の開業につなげた。</li> <li>・九州の観光振興には九州としての広報活動が不可欠と考え、九州広報センターを提案。九州観光推進機構の石原会長が賛成し、2016年6月に同機構内に九州観光広報センターが設立され、副センター長兼海外担当に就任。</li> <li>・熊本地震後の海外風評被害対策事業One Kyushu Project(経産省事業)を支えた。</li> <li>・経産省九州経済産業局知的財産室主催の九州ブランド総選挙(2017年)や九州地域ブランドコンペティション(2018年)で審査委員長、地域団体商標の活用状況・課題の調査・分析及び支援モデルの実証事業検討会(2019年)で委員長。</li> <li>・福岡県の農山村と都市の絆づくり事業では、2013年～うきは市、2014年～八女市星野村のアドバイザー。</li> </ul>
若松 進一	わかまつ しんいち	人間牧場	<p>双海町役場に在職中、瀬戸内海に沈む夕日に着目し、日本で一番海に近いJR下灘駅で開催した夕やけプラットホームコンサートが話題を呼び、夕日をテーマにした数々のまちづくりを行なった。海辺の海岸を埋め立ててシーサイド公園を整備した。450mの人工砂浜、特産品センター、夕日のミュージアム等には、年間55万人の観光客が年間を通して訪れている。</p> <p>第三セクターを設立して運営しているが開業以来黒字経営をしている。</p> <p>海岸国道を「夕やけこやけライン」と名付け、町のキャッチフレーズも「しずむ夕日が立ちどまる町」として積極的にまちづくりに取り組んでいる。</p> <p>海岸国道沿いには水仙や菜の花が咲くなど地域ぐるみで花咲くまちづくりを展開している。</p> <p>JR予讃線にこの夏「伊予灘ものがたり」という観光列車が走る予定である。</p> <p>まちづくりを推進する「まちづくり学校双海人」も活動している。</p> <p>年間100日以上全国各地へ外出し講演や指導に当たっている。</p>
渡邊 法子	わたなべ のりこ	アイ・エス・ケー合同会社	<p>地域特性を活かしたまちづくり(地域資源の再発掘・活用)</p> <p>地域の人材発掘、育成地域の主体性を核にした自立型、持続型のまちづくり事業</p> <p>着地型観光事業(基盤の整備構築)</p> <p>ローカルエリアプロモーションビジネスの事業化</p> <p>インバウンド(訪日)観光事業</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
渡邊 賢一	わたなべ けんいち	株式会社 XPJP / 一般社団法人 元気ジャパン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣府/石垣市 インバウンド事業「アイランダーサミット石垣」総合プロデューサー</li> <li>・文部科学省 スポーツ庁 武道ツーリズム映像発信事業 総合プロデューサー</li> <li>・愛媛県 愛媛県デジタルマーケティング事業「Experience Ehime, Japan」 総合プロデューサー</li> <li>・福島県 ダイヤモンドルート情報発信事業 総合プロデューサー</li> <li>・栃木県 訪日ブランディング事業「The Grace of Japan, TOCHIGI」 総合プロデューサー</li> <li>・九州観光推進機構 公式ブランディング事業 総合プロデューサー</li> <li>・北海道観光推進機構 デジタルマーケティング事業 総合プロデューサー</li> <li>・関西観光本部 インバウンド情報発信事業 総合プロデューサー</li> <li>・東武鉄道 地域情報発信「TOBU Creators Experience」、 「TOBU NOASOBI Experience」 総合プロデューサー</li> <li>・伊勢神宮 公式映像 総合プロデューサー</li> </ul>